The essentials of imaging

www.minolta.com

DiMAGE 7i

J 使用説明書

基本撮影

撮影モード

再生モード

動画モード
セットアップモード

通信モード

目次

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は発熱注意）

⚠ 警告

電池の取り扱いを誤ると、液漏れによる周囲の汚損や、発熱や破裂による火災やケガの原因となりますので、次のことは必ずお守りください。
- ●指定された電池以外は使わないでください。
- ●電池の極性（＋／－）を逆に入れないでください。
- ●表面の被膜が破れたり、はがれたりした電池は使用しないでください。
- ●電池のショート、分解、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。また金属類と一緒に保管しないでください。
- ●新しい電池と古い電池、メーカーや種類の異なる電池、充電状態の異なる電池を混ぜて使用しないでください。
- ●アルカリ電池は充電しないでください。
- ●充電式電池を充電する場合は、専用の充電器をご使用ください。
- ●万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

⚠警告

ACアダプターをご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。
表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションにご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

⚠警告

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光すると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、液晶モニターを見たりしないでください。
転倒や交通事故の原因となります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を取り出し（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションにご連絡ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

ACアダプターをご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、アダプター本体を持って抜いてください。
コードが傷むと火災や感電の原因となります。コードが傷んだら、販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに交換をご依頼ください。

⚠ 警告

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（ACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分ご注意ください。
使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに修理をご依頼ください。

⚠ 注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。
外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。
本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

長時間の使用後は、すぐに電池やコンパクトフラッシュカードを取り出さないでください。
電池が熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

⚠ 注意

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。
液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

レンズフードの先端を身体等に強くぶつけないでください。
ケガの原因となります。

ACアダプター使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。
電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

ACアダプターを布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。
熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時にアダプターが抜けなくなったりします。

お手入れの際や長期間使用しないときは、ACアダプターをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因となります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

はじめに

お買い上げありがとうございます。
この製品は、高画素CCDに7倍ズームを搭載した、レンズ一体型一眼レフタイプのデジタルカメラです。ミノルタ独自の画像処理 "CxProcess" を搭載し、風景から人物、遠くの被写体まであらゆる撮影領域に対応するとともに、デジタルエフェクトコントロールなど多彩な機能を搭載し、画質や機能にこだわる方にも満足して撮影・再生・画像処理等お楽しみいただけます。

ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

- この使用説明書は2002年3月に作成されたものです。それ以降に発売されたアクセサリーと組み合わせた場合の使用方法については、本書裏表紙に記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。
- このカメラには、弊社のボディ特性に適合するように設計された弊社製のアクセサリーのご使用をおすすめします。他社製品と組み合わせた場合の性能の保証や、それによって生じた事故や故障についての補償はいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

ユーザー登録について

本製品をご使用になる前に、お早めにユーザー登録をお済ませください。同梱されているユーザー登録カードに記入して送付していただくか、登録カードに記載の弊社ホームページでオンライン登録を行なってください。

内容物の確認

お買い上げのパッケージに梱包されているのは以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

カメラ本体
（ミノルタDiMAGE 7i）

ニッケル水素電池充電器

単3形ニッケル水素電池4本

ネックストラップ
NS-DG7

レンズキャップ
LF-1249

アクセサリーシューキャップ
SC-9

AVケーブル AVC-300

USBケーブル USB-100

ディマージュソフトウェアCD-ROM
・DiMAGE Viewer
・通信設定ウィザード
・Windows98/98SE用USBドライバ
・QuickTime

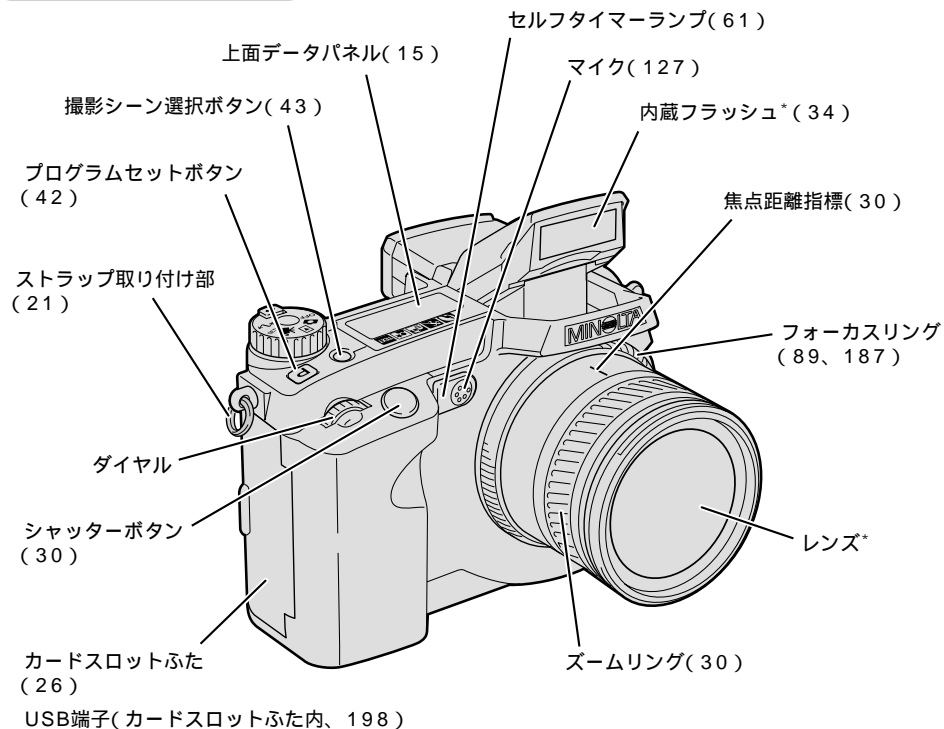
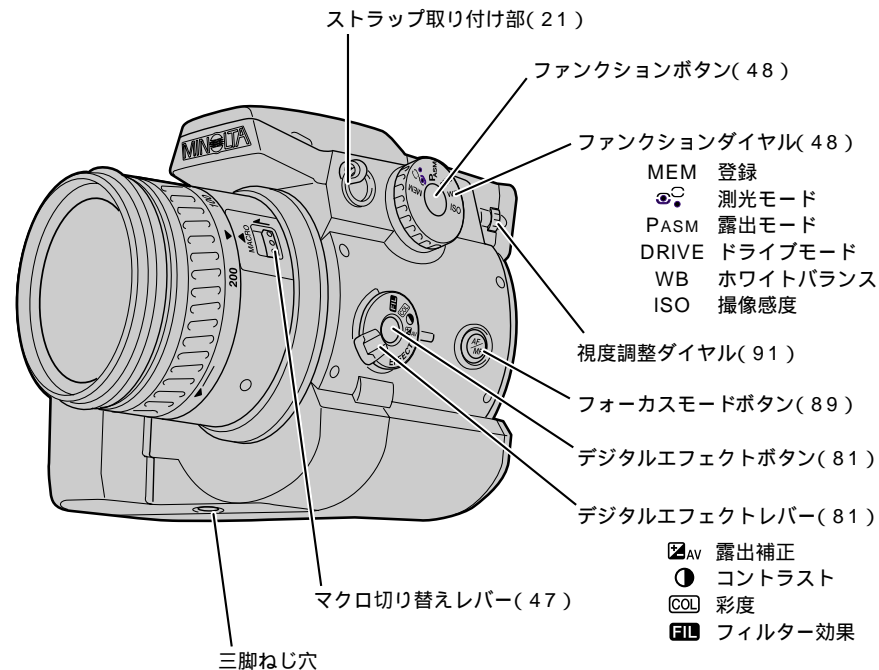
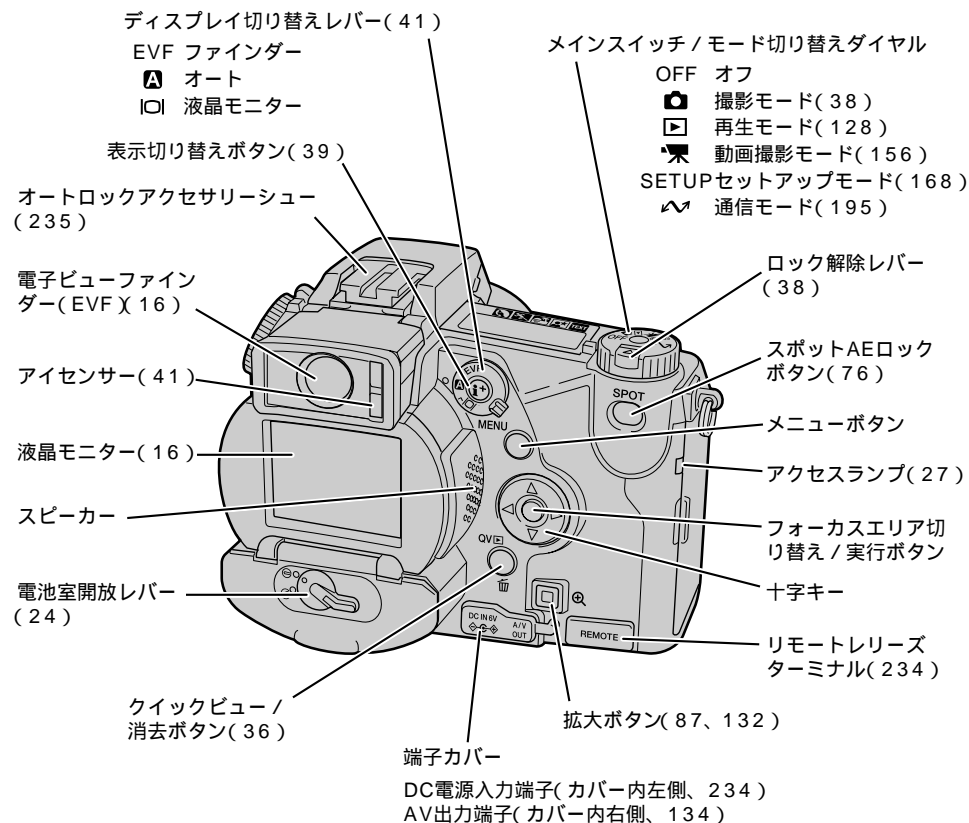
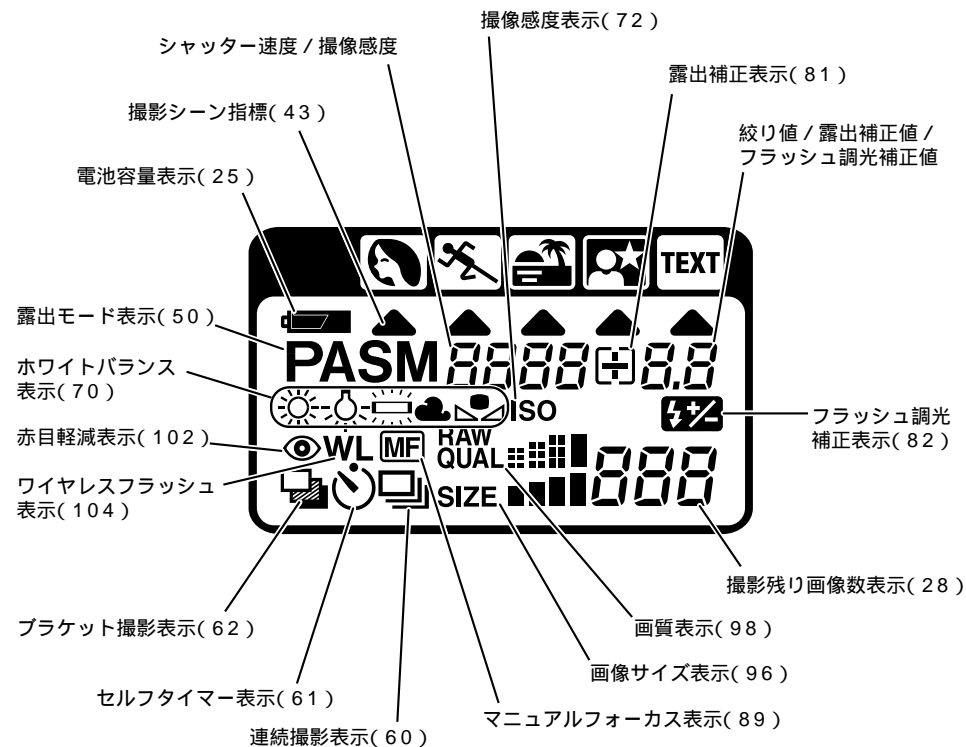
レンズフード DLS-7i

本使用説明書
DiMAGE Viewer用使用説明書
アフターサービスのご案内
保証書兼ユーザー登録カード

本製品にはコンパクトフラッシュカードは入っておりません。別にお買い求めください。

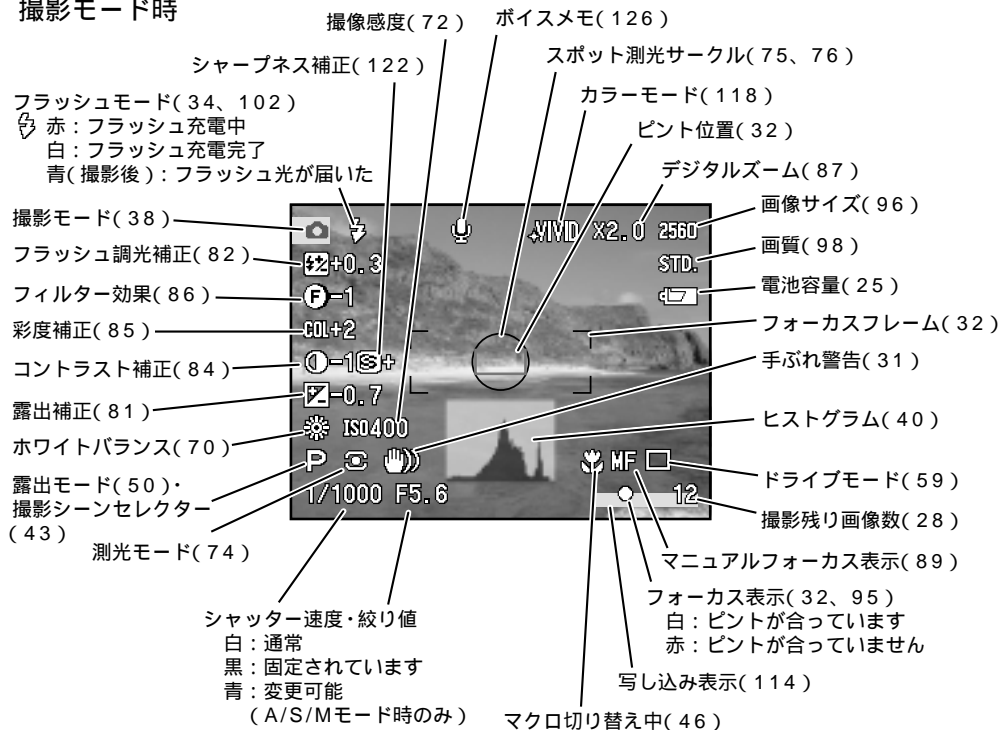
各部の名称

*の付いたところは、直接手で触れないでください。(　)内は参照ページです。

ボディ前面

ボディ側面

ボディ背面

上面データパネル

※このページでは、説明のためすべての表示を点灯させています。

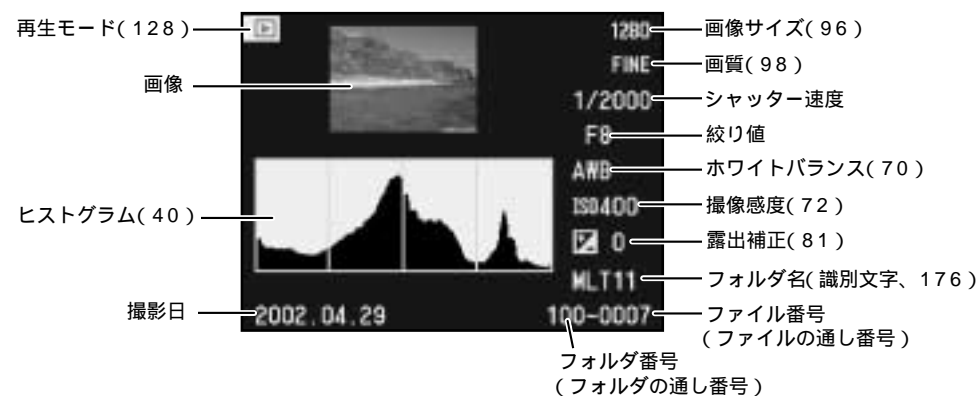
電子ビューファインダー（EVF）・液晶モニター

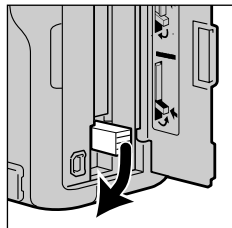
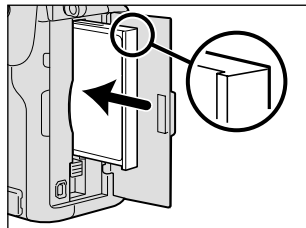
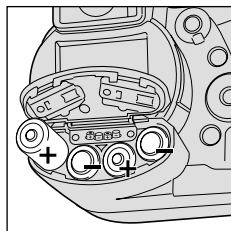
電子ビューファインダーと液晶モニターの表示は同一です。

撮影モード時

※これらのページでは、説明のためすべての表示を点灯させています。

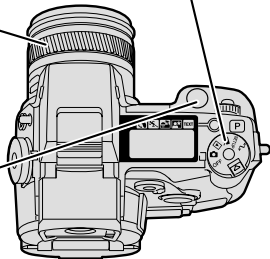
再生モード・1コマ再生時

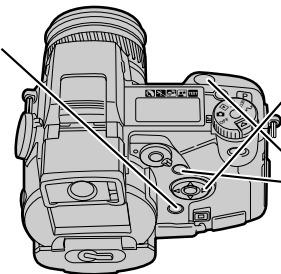
再生モード・ヒストグラム表示（131）

早分かり　詳しくは本文をご覧ください。

準備をする

1. 電池を充電します。→P.22
2. 電池を入れます。→P.24
3. コンパクトフラッシュカードを入れます。→P.26

撮影する

1. モード切り替えダイヤルを 📷 に合わせます。→P.30
2. ズームリングを回して撮りたいものの大きさを決めます。→P.30

3. シャッターボタンを押します。→P.31

撮影した画像を確認する（クイックビュー）→P.36

1. 撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。
2. 十字キーの左右で見たい画像を選びます。
3. シャッターボタンの半押しまたはメニューボタンで元の撮影モードに戻ります。

画像を消去する →P.37

1. 撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。
2. 十字キーの左右で消去したい画像を選びます。
3. もう一度クイックビュー／消去ボタンを押します。
4. 右の画面が出た後、十字キーの左側で「はい」を選び、十字キー中央の実行ボタンを押すと消去されます。

●「いいえ」のままで実行ボタンを押すと消去されません。

⚠ このコマを消去しますか？

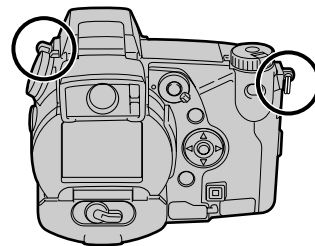
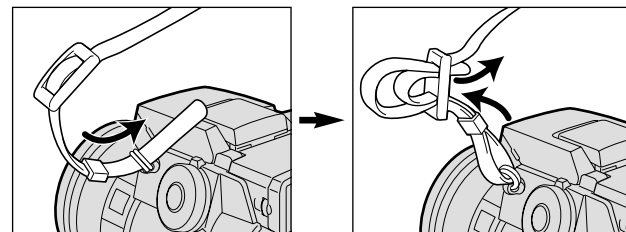
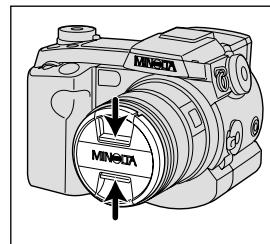
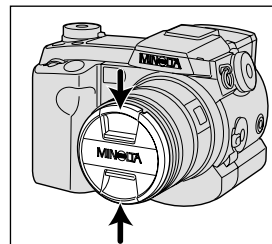
はい　　いいえ

5. シャッターボタンの半押しまたはメニューボタンで元の撮影モードに戻ります。

基本撮影

この章では、カメラの準備および最も基本的な撮影方法・再生方法を説明しています。

ストラップとレンズキャップ

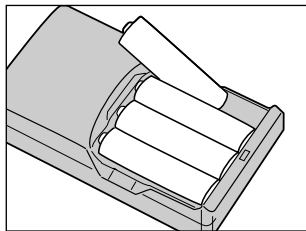
ストラップを取り付ける

ストラップ取り付け部は2ヵ所あります。ストラップの両方の先端をそれぞれ取り付けます。

レンズキャップを取り外す

レンズキャップを取り外します。左図の2通りの取り付け・取り外し方が可能です。

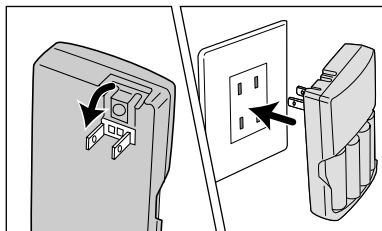
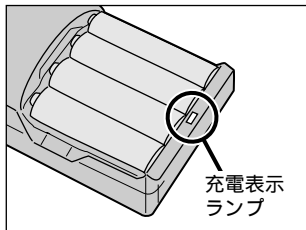
- 右側の方法は、フードを取り付けたままレンズキャップの取り付け・取り外しを行なう際に便利です。
- 撮影後は、レンズキャップをはめて保管してください。

電池を入れる

単3形ニッケル水素電池を4本使用します。付属のニッケル水素電池は、お買い上げの際には充電されていません。同じく付属の充電器で完全に充電してからお使いください。

● 単3形アルカリ乾電池もご使用になれますが、短時間で消耗してしまう可能性があります。通常はニッケル水素電池をお使いください。

電池を充電する

1.電池を充電器に取り付けます。

● 4本を一度に充電してください。

2.電源プラグを矢印の方向に引き起こし、コンセントに差し込みます。

● 充電が開始されます。充電中は充電表示ランプが点灯します。

● 付属のニッケル水素電池（1700mAh）で4本を一度に充電する場合、充電時間は約230分です。

3.充電表示ランプが消えたら充電完了です。

● 充電器をコンセントから抜き、電池を取り出してください。

● 電源プラグを倒して収納してください。

撮影にはニッケル水素電池のご使用をおすすめします。
このカメラではアルカリ乾電池もご使用になれますが、アルカリ乾電池はその特性上、急激に電池容量が低下します。アルカリ乾電池は緊急時のみにお使いください。

ニッケル水素電池の使用に関しては、以下の点にご注意ください。

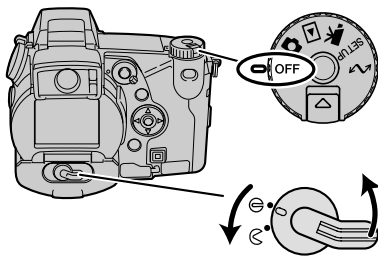
● 電池の両電極を乾いた布でよく拭き、汚れを取り除いてからご使用ください。汚れたままだと接触が悪くなり、新品電池でも電池がすぐに使えなくなる場合があります。

● ニッケル水素電池には「メモリー効果」と呼ばれる現象があり、十分に使い切らないうちに充電を繰り返すと、充電完了後の容量が徐々に少なくなります。電池容量がなくなるまで使い切った（▭が点滅）後、充電を行なうことをおすすめします。

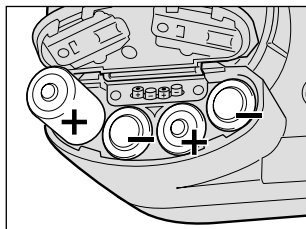
● 電池は、4本を一緒に充電してください。また、このカメラで使用した電池はこのカメラ専用とされることをおすすめします。

● 充電時間がかなり短い場合は、充電が不十分なことがあります。再度充電を行なってください。

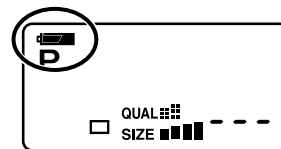
● 充電器に付属の取扱説明書も合わせてよくお読みください。

電池を入れる

1.メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFFに合わせます。

2.電池室開放レバーをに合わせます。

●ふたのロックが外れるので、ふたを開けます。

3.電池室内部の表示にしたがって電池を入れます。

4.ふたを閉めて押さえながら、電池室開放レバーをに合わせます。

電池容量の確認

メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFF以外にすると、電池の容量が上面データパネルと液晶モニターに表示されます。

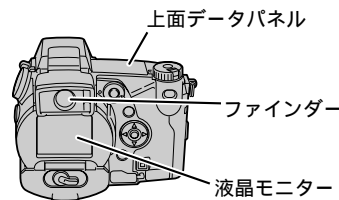
点灯　電池容量は十分です。
（液晶モニターでは5秒後に消えます。）

点灯　電池の交換をおすすめします。
この状態でも撮影はできます。

のみ点滅（上面データパネルのみ）
新しい電池と交換してください。
シャッターは切れません。

●何も表示されないときは、電池の向きを確認してください。

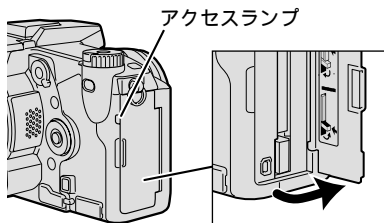
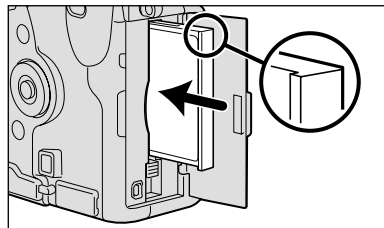
●長時間の撮影や再生には、別売りのACアダプターや外部電源パックをおすすめします。→P.234

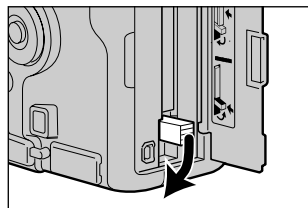
パワーセーブ（操作しないでいると表示が自動的に消えます）

このカメラは、約30秒以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に液晶モニターが消灯します。また約1分以上何も操作をしないでいると、自動的に上面データパネルとファインダー（EVF）も消灯します（パワーセーブ）。シャッターボタンを軽く押すかメインスイッチ／モード切り替えダイヤルを回せば、撮影が再開できます。

●パワーセーブまでの時間（初期設定は1分）を変更することができます。→P.194

カードを入れる／取り出す

カードを入れる

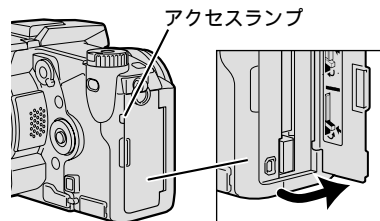
画像を記録するには、コンパクトフラッシュカード（以下CFカードまたはカード）が必要です。

1. メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFFにして、アクセスランプが消えているのを確認し、カードスロットふたを開けます。

2. CFカードの▲マークのある面をレンズ側に、細長い突起部分を図の向きにして、スロットにカードを入れます。

- カード取り出しレバーが出て来るまで、中央をまっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。
- カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめてください。

3. カード取り出しレバーを倒します。

4. ふたを閉めます。

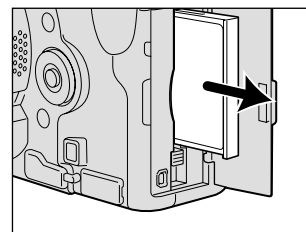
- CFカードの代わりにマイクロドライブの使用も可能です。

※カードを入れると液晶モニターに「このカードは使えません」等のメッセージが現れる場合は →P.239

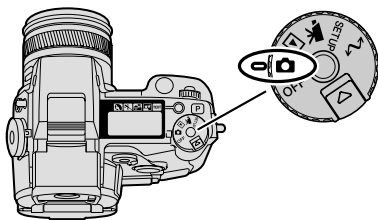
カードを取り出す

1. メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFFにして、アクセスランプが消えているのを確認し、カードスロットふたを開けます。

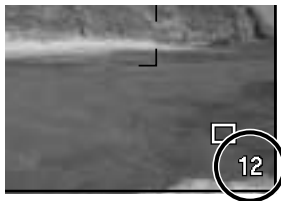
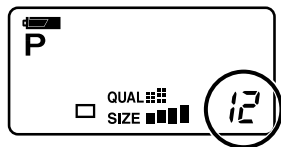
アクセスランプ点灯中は、カードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。

2. カード取り出しレバーを起こし、中に押し込みます。

- カードが出てきます。

3. カードを取り出し、ふたを閉めます。

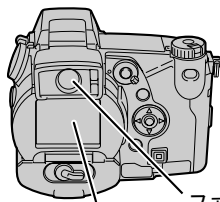
- 長時間使用した直後のカードは熱くなっていますので、注意してください。

撮影できる画像数

CFカードを入れてメインスイッチ／モード切り替えダイヤルを 📷 に合わせると、上面データパネルと液晶モニターに、撮影残り画像数（現在の設定で撮影を続けると、後何枚撮影できるか）が表示されます。

- モード切り替えダイヤルをOFFの位置から動かす場合は、ロック解除ボタンを △ の方向に押しながらダイヤルを回します。

1枚のCFカードに記録できる画像数は、カードの容量、カメラで設定された画像サイズおよび画質によって異なります。例として16MBのCFカードで初期設定で撮影する場合、記録できる画像数は約8枚です（画像サイズ2560×1920、画質スタンダード）。

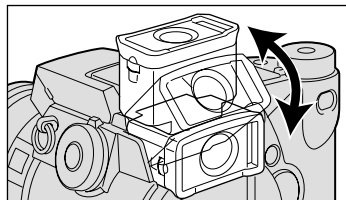
- 画像サイズ・画質を変更した場合、また動画撮影や音声付きで撮影した場合は、撮影できる画像数は大きく変わります。※詳細は →P.100

- 000が表示されたときは、カードがいっぱいです。カードを交換するか、カード内の画像を消去してください。画像サイズや画質を変更すると撮影できることもあります。
- ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては表示されている画像数が多少上下することがあります。
- 残り画像数が999枚を超える場合は、999と表示されます。999枚以下になるとカウントが始まります。

カメラを構える

撮影される画像は、カメラ背面の電子ビューファインダー（EVF、以下ファインダー）と液晶モニターに表示されます。両者の表示内容は同じです。
初期設定ではファインダーをのぞけば液晶モニターは消灯し、ファインダーから目を離せば液晶モニターが点灯します。
※設定を変えるには →P.41
カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

ファインダーを見て撮影する

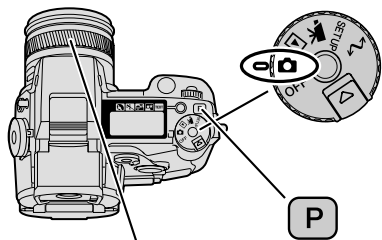
ファインダーをのぞいて撮影すると、カメラをしっかり構えることができ、手ぶれが起こりにくくなります。

- 右手でカメラのグリップを持ち、脇を閉め、左手でレンズの下側を持って支えます。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついたりしても効果があります。
- 暗い場所でフラッシュを使わずに撮影する場合や、望遠側で撮影する場合は、手ぶれが起こりやすくなります。三脚などにカメラを固定して撮影することをおすすめします。

ファインダーは、0 °〜90 °の間で自由に角度を調整することができます。低い位置の被写体を撮影する場合に便利です。

液晶モニターを見て撮影する

基本的な構え方は、ファインダーを見て撮影する場合と同じです。手ぶれが起こりやすいので、ぶれないようにカメラをしっかり構えて撮影してください。

撮影する

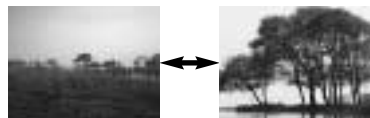
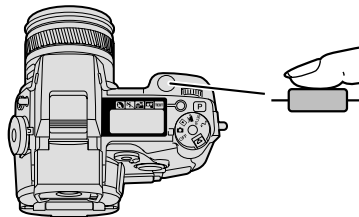
ここでは、すべての設定がカメラまかせのフルオート（全自動）撮影について説明しています。

1.メインスイッチ／モード切り替えダイヤルを📷に合わせます。

- ダイヤルをOFFの位置から動かす場合は、ロック解除ボタンを△の方向に押しながら回します。
- 撮影モードになります。

2.プログラムセットボタンを押します。

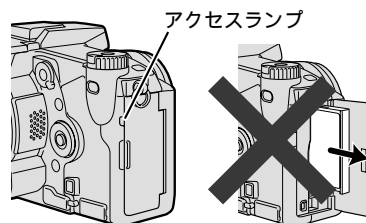
- カメラはフルオートの状態になります。特に設定を変えない限り、毎回押す必要はありません。※プログラムセットボタンについて →P.42

3.液晶モニターまたはファインダーをのぞき、ズームリングを回して構図を決めます。

- ［　］の中のものにピントが合います。※ピントが合わないときは →P.32
- フラッシュを発光させたいときは、内蔵フラッシュを上げてください。→P.34
- ズームリング上の焦点距離は、35mmフィルム換算時に相当する値です。※換算表は →P.233

広角側　望遠側

4.シャッターボタンを半押しします。

- シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と呼んでいます。

- 半押しするとピントが合います。ピントが合って固定されると、ピント合わせに使われたセンサーが一瞬赤く表示され、ピントの合っている位置をお知らせします。ピントが合うと、同時に画面右下に白い○が点灯します。

5.シャッターボタンを押し込んで撮影します。

アクセスランプ

- 撮影された画像が自動的にCFカードに記録（保存）されます。書き込み中はアクセスランプが点灯しますので、その間はカードや電池を抜かないでください。

- カメラから約50cm以上離れたものにピントが合います。それより近くを撮影する場合は、マクロモードを使用してください。→P.46
- 画面の表示の有無を切り替えることもできます。→P.39

- 液晶モニター／ファインダー内に逆光マークが出たときは、逆光なのでフラッシュ撮影をおすすめします。→P.34

また手ぶれマークが出たときは、シャッター速度が遅くなっているので手ぶれの恐れがあります。フラッシュ撮影または三脚の使用をおすすめします。

- 撮影後は、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFFに合わせて電源を切ってください。
- レンズキャップをはめて保管してください。

ピント合わせ

フォーカス表示

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われます。ピントが合うと、フォーカスフレーム［　］の中で実際にピント合わせに使われたセンサーが一瞬赤く表示されます。

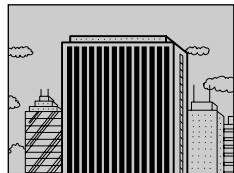
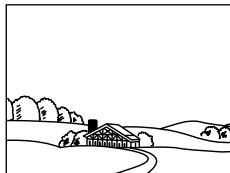
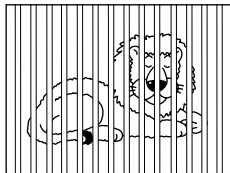
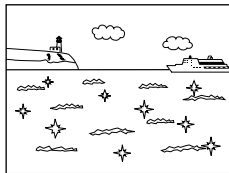
液晶モニターまたはファインダー内の○はフォーカス表示です。この色によりピントの状態をお知らせします。

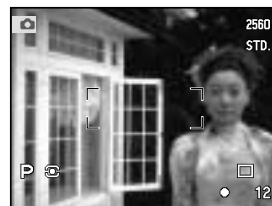
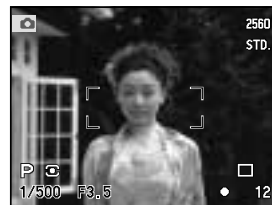
○ 白色： ピントが合って固定されています。

● 赤色： ピントが合っていません。

赤い● が点灯したときは、被写体がカメラより約50cm以上離れているか、オートフォーカスの苦手な被写体（以下）を撮影しようとしていないか確認してください。そのまま撮影すると、フラッシュが発光する場合は約3〜3.8m、発光しない場合は約5m〜無限遠の間（ズーム位置による）にピントが合います。

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、フォーカスロック撮影をおすすめします。→次ページ

暗すぎるもの

青空や白壁など コントラストのないもの

［　］の中に距離の異なるものが

太陽のように明るいものや、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの

被写体が［　］に入らないときは（フォーカスロック撮影）

ピントを合わせたいものが［　］に入らないときに、そのまま撮影すると、［　］と重なっている背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

1.ピントを合わせたいものに［　］を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

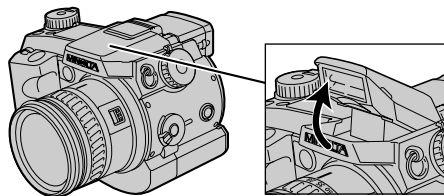
● 画面右下に白い○が点灯します。

2.シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻します。

3.シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● ピントと同時に露出も固定されます（多分割測光時のみ）。画面左下のシャッター速度と絞り値が黒く反転してお知らせします。

● ピント合わせの方法として、他にも自由にピント合わせの位置が決められるフレックスフォーカスポイント機能（→P.88）があります。

フラッシュ撮影

フラッシュを発光させるときは、内蔵フラッシュを手で上げてください。上げていると必ず発光します。

フラッシュを発光させないときは、内蔵フラッシュを手で押し下げてください。

フラッシュ表示

フラッシュが発光する場合、シャッターボタンを半押しすると、液晶モニター／ファインダー内にフラッシュ撮影表示 ϟ が現れます。

ϟ 赤色点灯： フラッシュが充電中です。
白になってから撮影してください。
白色点灯： フラッシュの充電が完了しました。撮影できます。
青色点灯（撮影後）：フラッシュ光が被写体に届きました。

撮影後に青い ϟ が現れなかった場合は、フラッシュ光が被写体に届いていません。フラッシュ光の届く距離を確認してください。→次ページ

逆光時に内蔵フラッシュが下がったままだと、 が現れます。フラッシュを発光させて撮影することをおすすめします。

● このカメラではフラッシュの発光量を正確に決めるため、フラッシュ発光時には撮影の直前に一度フラッシュが発光します（プリ発光）。よって本発光と合わせてフラッシュが2回続けて発光します。※詳しくは →P.109

フラッシュ光の届く距離

フラッシュの光が届く範囲には限度があります。最広角側では3.8m、最望遠側では3.0mを目安に撮影してください（撮像感度AUTO時）。

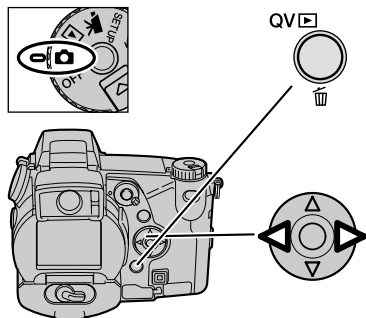
広角側：3.8m
望遠側：3.0m

夜景など暗い場合は、フラッシュが発光しても遠くの景色は写りません。

● 撮像感度を変更すると、フラッシュ光の届く距離が変わります。→P.73

撮影した画像を確認する／消去する

画像を確認する（クイックビュー）

撮影した画像を簡単に見ることができます。

1.撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。

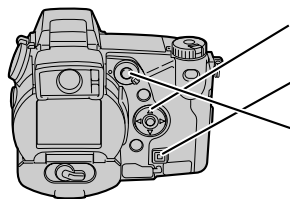
●直前に撮影された画像がファインダーまたは液晶モニターに現れます。

2.十字キーの左右で見たい画像を選びます。

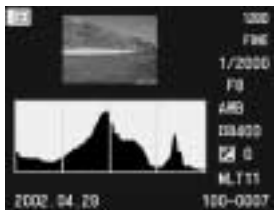
3.シャッターボタンを半押しすると撮影モードに戻ります。

●メニューボタンでも戻ります。

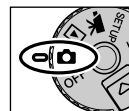
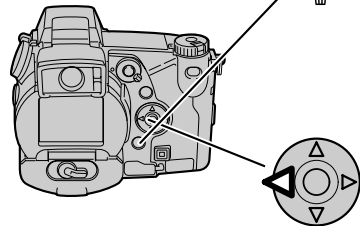
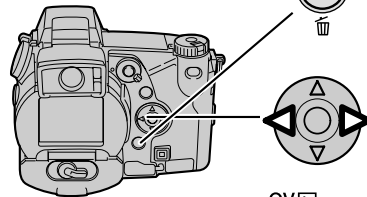
※再生モードに入るときは →P.128

クイックビューでも再生モードと同様、以下の操作が可能です。

●十字キーの上側を押すとヒストグラム表示にすることができます。→P.131

●拡大ボタンを押すと画像を拡大することができます。→P.132

●表示切り替えボタンを押すと、表示やデータの有無を切り替えることができます。→P.130

ヒストグラム表示

※クイックビューと再生モードの違いについて →P.133

画像を手早く消去する

クイックビューの状態で、画像を簡単に消去することができます。

1.撮影後、クイックビュー／消去ボタンを押します。

●直前に撮影された画像がファインダーまたは液晶モニターに現れます。

2.十字キーの左右で消去したい画像を選びます。

3.もう一度クイックビュー／消去ボタンを押します。

●右の画面が現れます。

●消去しない場合は、この状態で十字キー中央の実行ボタンを押してください。

⚠ このコマを消去しますか？

はい　いいえ

4.十字キーの左側で「はい」を選びます。

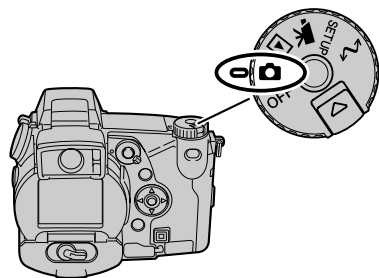
⚠ このコマを消去しますか？

はい　いいえ

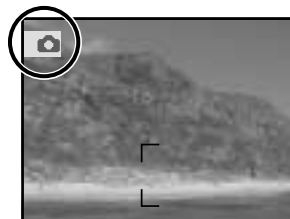
5.十字キー中央の実行ボタンを押します。

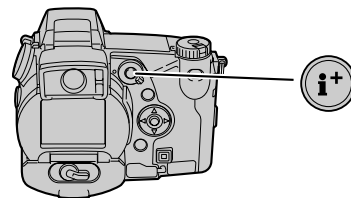
●選んだ画像が消去されます。

●さらにシャッターボタンを半押しする（またはメニューボタンを押す）と、通常の撮影モードに戻ります。

※再生モードで消去するときは →P.138

撮影モード

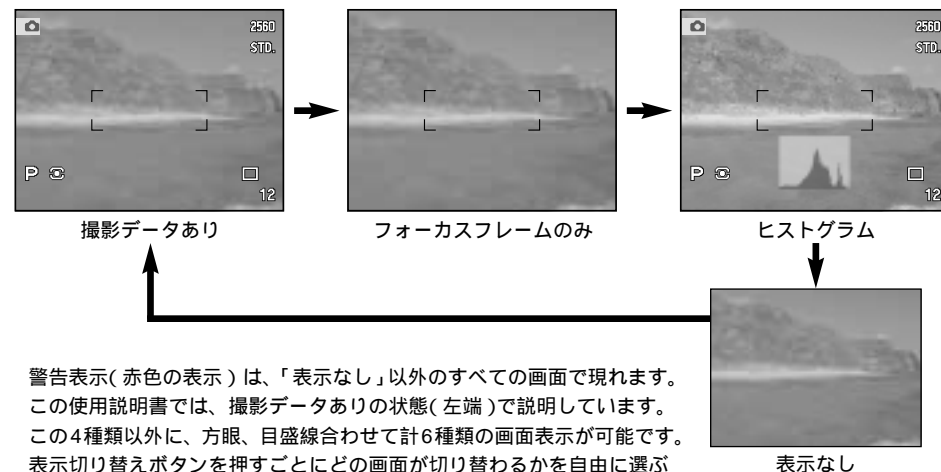
この章では、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルが 📷 位置（撮影モード）にあるときの各種設定について説明しています。

● ダイヤルをOFFの位置から動かす場合は、ロック解除ボタンを △ の方向に押しながらダイヤルを回します。

ダイヤルを 📷 位置（撮影モード）にしていると、ファインダー／液晶モニター内の左上に 📷 が現れます。

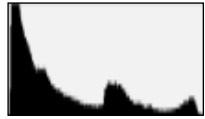
画面表示の切り替え（📷 撮影モード時）

画面内の表示の有無や、ヒストグラムの有無を切り替えることができます。

※個々の表示内容について →P.16
※ヒストグラムについて →次ページ

表示切り替えボタンを押します。

● ボタンを押すごとに画面が以下の順序で切り替わります。

● 警告表示（赤色の表示）は、「表示なし」以外のすべての画面で現れます。
● この使用説明書では、撮影データありの状態（左端）で説明しています。
● この4種類以外に、方眼、目盛線合わせて計6種類の画面表示が可能です。表示切り替えボタンを押すごとにどの画面が切り替わるかを自由に選ぶことができます。→P.183

● 暗いところでも液晶モニターがよく見えるように、一定以下の暗さになるとモニターが自動的に白黒表示になります（モニター自動感度アップ機能）。撮影される画像には影響ありません。

ヒストグラムについて

ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。このカメラのヒストグラム表示は、横軸が明るさ（左端が黒、右端が白）、縦軸が画素数を表しています。露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。下はその一例です。

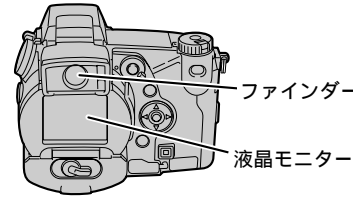
※画素について →P.97

＋側に露出補正をかけると画面全体が明るくなるので、ヒストグラムが全体に明るい方（右側）にずれます。－側だと逆にずれます。

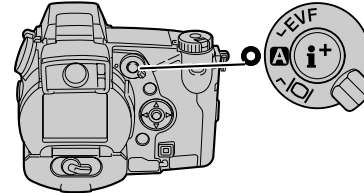
ヒストグラムの左右両端には、白または黒100%のデータ*しか存在しません。よって後でパソコンに取り込んで補正しても、つぶれた部分の再現は不可能だということになります。撮影前にヒストグラムを確認することにより、このような画像の状態を前もって知ることができます。

*正確にはカラー画像の場合RGBで表されるので、白はR255、G255、B255、黒はR0、G0、B0

- 撮影前のヒストグラムは、その時に液晶モニター／ファインダーに表示されている画像（ライブビュー画像）のヒストグラムを表します。よって、ライブビュー画像と撮影される画像の明るさが異なる場合（フラッシュ発光時、自動感度アップ機能により暗中でモニターが自動的に白黒になっている時（P.39）、MモードでMの色が赤くなっている時（P.58））は、撮影後にヒストグラムを確認してください。→P.131
- 被写体の状況や画像処理により、撮影前と後のヒストグラムに若干の差が生じることがあります。

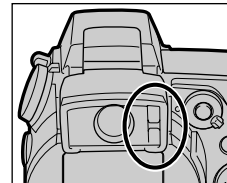
液晶モニターとファインダー（EVF）

撮影される画像は、カメラ背面の液晶モニターまたは電子ビューファインダー（EVF*、以下ファインダー）に表示されます。両者の表示内容は同じです。
初期設定ではファインダーをのぞけばファインダーが点灯し、ファインダーから目を離せば液晶モニターが点灯します。

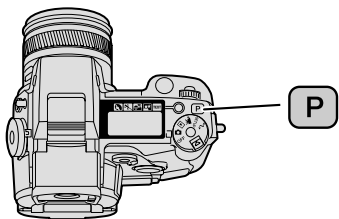
*EVF = Electronic Viewfinder（電子ビューファインダー）の略

液晶モニターとファインダー（EVF）の切り替え

ディスプレイ切り替えレバーを回すと、画像の表示場所を選ぶことができます。

EVF　ファインダーのみに表示
A　AUTO（自動切り替え）
　ファインダーをのぞいているときはファインダーに表示、のぞいていないときは液晶モニターに表示
|□|　液晶モニターにのみ表示

- 電池の消耗量を減らしたいときは、液晶モニターの表示をなくして、のぞいているときのみファインダーを点灯させる方法もあります。→P.190

ファインダーをのぞいている／いないの判別方法

ファインダー横にはアイセンサーがあり、何かが近づく（＝撮影者がファインダーをのぞく）のを検知することができます。A（自動切り替え）にしたときの液晶モニターとファインダーの切り替えは、このアイセンサーによって、ファインダーをのぞいている／いないを判別して行われます。

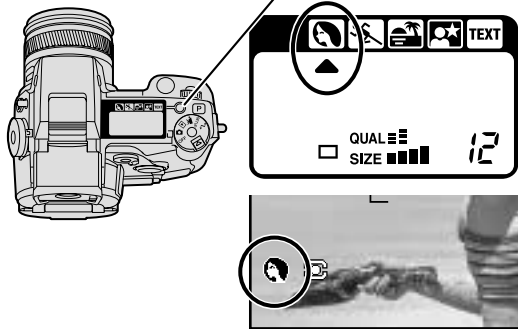
プログラムセットボタン

プログラムセットボタンを押すと、カメラはフルオートの状態になります。この章（撮影モード）で説明している機能の一部は、プログラムセットボタンを押すと以下の状態になります。

- ここに記載されていないものは、プログラムセットボタンを押しても変わりません。

項目	設定	説明	ページ
露出モード	Pモード	シャッター速度と絞り値が自動的に決まります。 デジタル撮影シーンセレクターは解除されます。	50 43
ドライブモード	1コマ撮影	シャッターボタンを押すごとに1枚ずつ撮影されます。	59
ホワイトバランス	オート	ホワイトバランスは自動的に設定されます。	70
測光モード	多分割測光	画面を多数に分割して測光を行ないます。	74
露出補正	±0	—	81
調光補正	±0	—	82
コントラスト補正	±0	—	84
彩度補正	±0	—	85
フィルター効果	0	—	86
フォーカスフレーム	ワイド	画面内の［ ］の中のものにピントが合います。	—
フォーカスモード	オートフォーカス ワンショットAF	シャッターボタンを押すと自動的にピントが合います。 ピント位置はそのまま固定されます。	— 94
フラッシュモード	通常発光または 赤目軽減発光	後幕シンクロとワイヤレスフラッシュは解除され、 通常発光または赤目軽減発光のうち 最後に設定した方に戻ります。	102
調光モード	ADI 調光	—	108
シャープネス	標準	—	122

デジタル撮影シーンセレクター

撮影したい場面を絵表示で選ぶだけで、その場面に合った写真を撮ることができます。

撮影モード位置で、撮影シーン選択ボタンを押して撮影したい場面の絵表示を選びます。

- ポートレート →P.43
- スポーツ →P.44
- 夕景 →P.44
- 夜景ポートレート・夜景 →P.45
- TEXT テキスト →P.45
- P プログラムモード（撮影シーン設定なし）

- 撮影シーンセレクターでは、選んだ撮影場面に応じてカメラの設定が自動的に行われます。従って測光モード等、機能によっては撮影者による変更ができません（シーンによってその内容は異なります）。
- プログラムセットボタンを押すと、これらの設定はP（撮影シーン設定なし）に戻ります。

ポートレート

人物を引き立たせるようなやわらかいぼけ味を表現するとともに、人の肌がなめらかに写るようなデジタル処理を行ないます。

- 背景をよりぼかすには、レンズの望遠側の方が効果があります。
- 逆光のときはフラッシュの使用をおすすめします。フラッシュを使わない場合は、画面に余分な光が写り込むのを防ぐため、フードの使用をおすすめします。→P.92

スポーツ

速く動いているものでもぶれにくいよう、高速寄りのシャッター速度で撮影を行ないます。

- このモードでは、被写体の動きに応じて常にピント位置が調整され続けます（コンティニュアスAF、→P.94）。
- フラッシュ光が届かない場合はフラッシュを使用しないでください（内蔵フラッシュを下げてください）。※フラッシュ光の届く距離 → P.35

夕景

夕焼けの赤さを美しく再現することができます。

- レンズを長時間太陽に向けたまま放置しないでください。CCD（撮像素子）を傷める原因となります。やむを得ず置く場合はレンズキャップを取り付けてください。

夜景ポートレート・夜景

明かりのない暗い部分は黒く、明るい部分は明るく写し出すことにより、美しい夜景を描写することができます。

夜景ポートレート撮影（人物＋夜景）

フラッシュを上げて発光させてください。

夜景撮影（夜景のみ）

フラッシュは下げたまま発光させずに撮影してください。

- シャッター速度が遅くなりますので、三脚を使用してください。また夜景ポートレート撮影の場合、撮影される人物が動くと写真もぶれますので、動かないように注意してください。

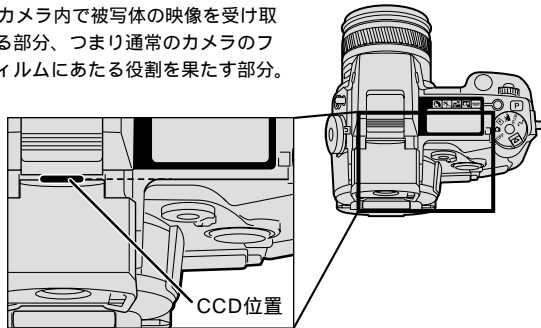
テキスト

白地に書かれた文字がはっきりと見えるような撮影を行ないます。（普通に撮影すると白地が灰色になります。）

- カメラから約50cm以内のものを撮影するときはピントが合わないので、マクロ撮影を行なってください。→P.46

マクロ撮影

カメラ内のCCD*の位置から約50cm以内の被写体を撮影する場合に使います。レンズの望遠側を使うテレマクロ撮影と、広角側を使うワイドマクロ撮影が可能です。テレマクロ撮影では被写体を中心とした一般的なマクロ撮影、ワイドマクロ撮影では被写体と背景の両方を取り入れたマクロ撮影を行なうことができます。

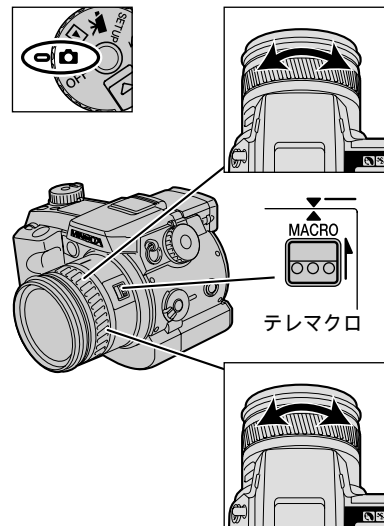
*CCD＝カメラ内で被写体の映像を受け取る部分、つまり通常のカメラのフィルムにあたる役割を果たす部分。

テレマクロ撮影

ワイドマクロ撮影

撮影可能範囲

テレマクロ時：　CCD面より約25〜60cm
（レンズ先端より約13cm〜50cm）

ワイドマクロ時：CCD面より約30〜60cm
（レンズ先端より約21cm〜51cm）

● 上記の範囲外の被写体にはピントが合いません。

1. ズームリングを、テレマクロの場合は望遠側の先端まで、ワイドマクロの場合は広角側の先端まで回します。
   - ズームリング上の▼とマクロ切り替えレバー横の▲が合います。

2. マクロ切り替えレバーを矢印の方向にスライドさせます。

3. テレマクロの場合、ズームリングを回してズームの微調整を行ないます。
   - ズームリング上の▼── がマクロ撮影範囲です。この範囲内でズームを行なうことができます。
   - ワイドマクロの場合、ズームを行なうことはできません。

● マクロ撮影になっているときには、液晶モニター／ファインダー下部に マクロマーク が表示されます。

● 内蔵フラッシュは、レンズにさえぎられて画面下部まで光が届かないのでおすすめできません。フラッシュ撮影が必要な場合にはマクロフラッシュまたはディフューザーの使用をおすすめします。→P.235

マクロ撮影

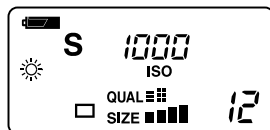
ファンクション設定

カメラ側面のファンクションダイヤルにより、露出モードやドライブモード等、撮影時の主な設定を変更することができます。

1.撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回して変更したい項目を選びます。

MEM	登録
(測光)	測光モード
PASM	露出モード
DRIVE	ドライブモード
WB	ホワイトバランス
ISO	撮像感度

2.ファンクションボタンを押したままダイヤルを回して、希望の設定を選びます。

● 上面データパネルと液晶モニター／ファインダー内に、変更された設定が表示されます。

ダイヤル	項目	上面データパネル	ファインダー・モニター	内容
PASM	露出モード →P.50	P	P	○P（プログラム）モード
		A	A	A（絞り優先）モード
		S	S	S（シャッター速度優先）モード
		M	M	M（マニュアル）モード
DRIVE	ドライブモード →P.59	□	□	○1コマ撮影
				連続撮影
		UHS		ウルトラハイスピード（UHS）連続撮影
				セルフタイマー撮影
				デジタルエフェクトブラケット撮影
		Int		インターバル撮影
WB	ホワイトバランス →P.70	表示なし	表示なし	○オート（自動設定）
				昼光
				白熱灯
				蛍光灯
				曇天
				カスタムホワイトバランス
		SEt	Set	カスタムホワイトバランス設定
ISO	撮像感度 →P.72	表示なし	表示なし	○オート（自動設定）
		ISO	ISO 100	手動設定（左の場合はISO 100相当）
(測光)	測光モード →P.74	表示なし		○多分割測光
				中央重点的平均測光
			●	スポット測光
MEM	登録 →P.77	—	呼び出し1	登録1を呼び出す（設定中のみ表示）
			呼び出し2	登録2を呼び出す（設定中のみ表示）
			呼び出し3	登録3を呼び出す（設定中のみ表示）
			登録操作	新規登録を行なう（設定中のみ表示）

○印は初期設定値です。
ホワイトバランスと撮像感度の自動設定は、撮影中は表示なしですが、設定中はAutoと表示されます。

露出モード

同じシーン、同じ被写体でも、シャッター速度や絞り値を変えると写真の描写が変わります。露出モードを変えることで、シャッター速度と絞り値のどちらか一方、あるいは両方を自分で決めることができます。

Pモード
シャッター速度と絞り値の両方が自動的に決まります。Pモードでダイヤルを回すと、プログラムシフトになります。→次ページ

Aモード
希望の絞り値を決めることができます。→P.52

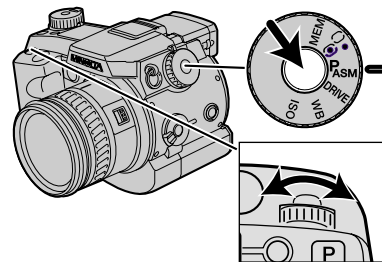
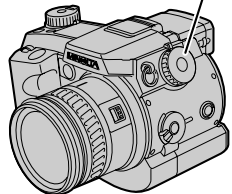
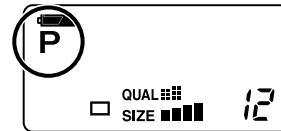
Sモード
希望のシャッター速度を決めることができます。→P.54

Mモード
希望のシャッター速度と絞り値を決めることができます。→P.56

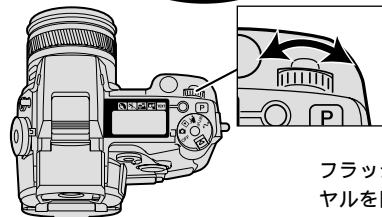
Pモード（プログラムモード）

シャッター速度と絞り値が自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができ、スナップ写真など一般撮影に最適です。

● 初期設定はPモードです。プログラムセットボタンを押してもPモードに戻ります。

1. 撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してPASMを選びます。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、Pを選びます。

プログラムシフト

Pモードのままで、一時的に絞り値とシャッター速度の組み合わせを変えることができます。

1. Pモードの状態で、シャッターボタンを半押しして、測光値（シャッター速度と絞り値）を表示させます。

2. 測光値が表示されている状態で、ダイヤルを回します。

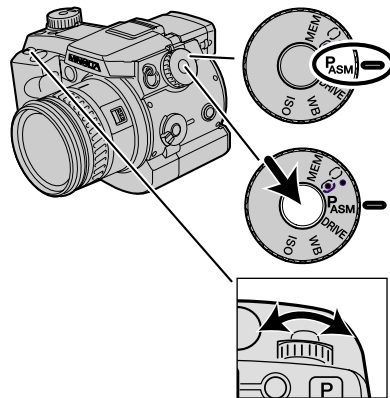
● シャッター速度と絞り値の組み合わせが変わります。

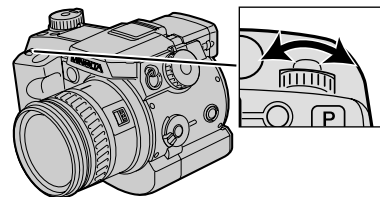
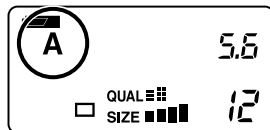
● フラッシュが発光する場合は、プログラムシフトにはなりません（ダイヤルを回しても何も変わりません）。プログラムシフト中に内蔵フラッシュを上げると、プログラムシフトはキャンセルされます。

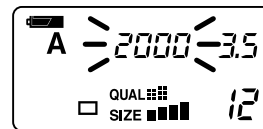
Aモード（絞り優先モード）

撮影者が希望の絞り値を決めることができます。絞りとは、レンズを通して入ってくる光の量を調整するもので、絞り値が変わると被写体の前後のピントの状態が変わり、背景をぼかしたり、くっきり写したりすることができます。
絞り値を2.8などに小さくすると、被写体の前後がぼけやすくなります（写真左）。逆に8などに大きくすると、近くのものから遠くのものまでくっきりと写ります（写真右）。

絞り値が小さいとき
（絞りを開けたとき）

絞り値が大きいとき
（絞りを絞り込んだとき）

1.撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してPASMを選びます。

2.ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、Aを選びます。

3.ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

● 液晶モニター／ファインダー内では、絞り値は青く表示されます。以下の範囲から選ぶことができます。
広角側：2.8〜8
望遠側：3.5〜9.5

● シャッターボタンを半押ししたときにシャッター速度が点滅（上面データパネル）または赤く点灯（液晶モニター／ファインダー）した場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。通常に表示される範囲内で絞り値を設定してください。

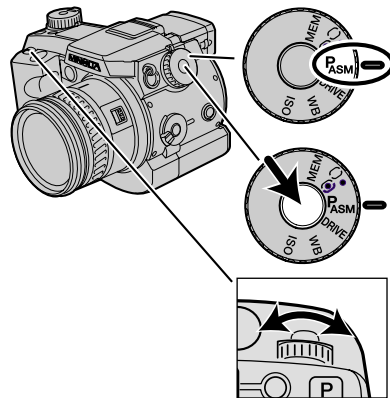
● フラッシュを使用する場合、絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞り値を小さめにして（開放側で）撮影することをおすすめします。※内蔵フラッシュ光の届く範囲 →P.35

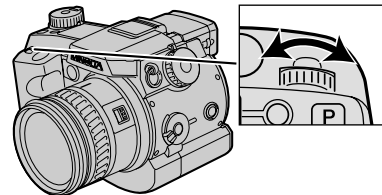
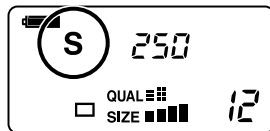
● 絞り値を大きくする（絞りを絞り込む）とレンズを通る光の量が減少し、シャッター速度が遅くなります（手ぶれ警告 が表示されます）。三脚を使って撮影されることをおすすめします。

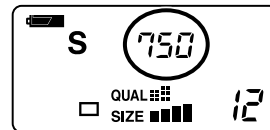
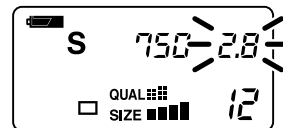
● 被写体の状況によっては、絞り値を変えても、それに連動してシャッター速度が変化しないことがあります。これは、表示されている以上に細かなシャッター速度の変化や撮像感度の調整（オート設定時のみ）によるもので、実際には適正露出になるように正確にカメラはコントロールされています。

Sモード（シャッター速度優先モード）

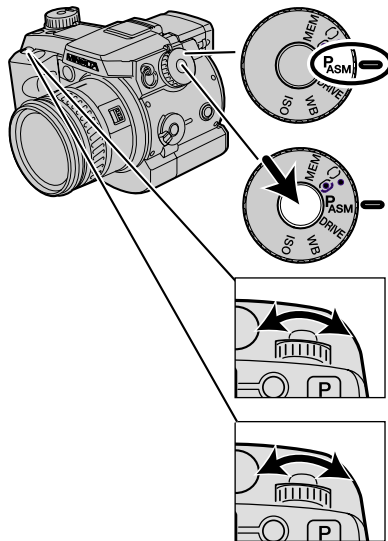
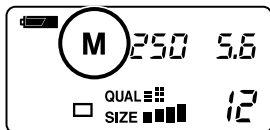
撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。シャッター速度が変わると動いているものの写り方が変わります。
シャッター速度を1/1000秒などに速くすると、動いているものがくっきりと止まって写ります（写真左）。逆に1/15秒などに遅くすると、動いているものが流れるように写ります（写真右）。

シャッター速度が速いとき　シャッター速度が遅いとき

1.撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してPASMを選びます。

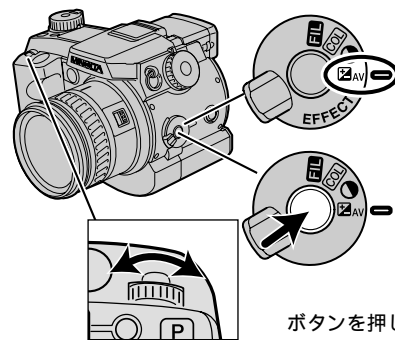
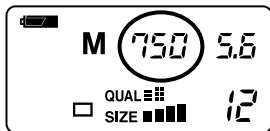
2.ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、Sを選びます。

3.ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

- 液晶モニター／ファインダー内では、シャッター速度は青く表示されます。4秒～1/2000秒の範囲から選ぶことができます。

- 表示部の60、125といった数字は、1/60秒、1/125秒を表わします。2”、4”など「”」の文字が出ている場合は、2秒、4秒を表わします。
- シャッターボタンを半押ししたときに絞り値が点滅（上面データパネル）または赤く点灯（液晶モニター／ファインダー）した場合は、カメラの制御範囲を超えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。通常に表示される範囲内でシャッター速度を設定してください。

- Sモードでは手ぶれ警告（手ぶれマーク）は表示されません。
- バルブ撮影（長時間露光）はMモードで行なってください。→P.90
- シャッター速度1/4000秒は、P／Aモードでのみ可能です（プログラムシフトでは不可）。
- 被写体の状況によっては、シャッター速度を変えても、それに連動して絞り値が変化しないことがあります。これは撮像感度の調整（オート設定時のみ）によるもので、実際には適正露出になるように正確にカメラはコントロールされています。

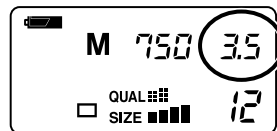
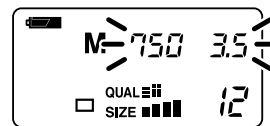
Mモード（マニュアルモード）

Aモード、Sモードで説明した絞り値とシャッター速度の両方を、自由に選ぶことができます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、露出計を使って撮影するときなどに便利です。

1.撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してPASMを選びます。

2.ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、Mを選びます。

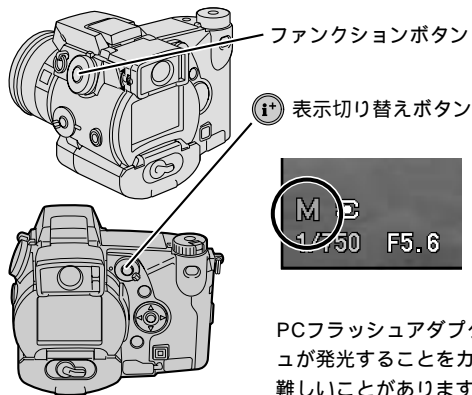
3.ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

● 液晶モニター／ファインダー内では、シャッター速度は青く表示されます。4秒～1/2000秒の範囲から選ぶことができます。
● 4秒の次にはbulb（バルブ撮影）が表示されます。→P.90

4.デジタルエフェクトレバーを AV に合わせます。

5.デジタルエフェクトボタンを押しながらダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

● ボタンを押している間、液晶モニター／ファインダー内では、絞り値は青く表示されます。以下の範囲から選ぶことができます。
広角側：2.8～8
望遠側：3.5～9.5

● Mモードでは、撮像感度（→P.72）をオートにしていると、常にISO 100相当に固定されます。
● Mモードでは手ぶれ警告 は表示されません。
● シャッター速度1/4000秒は、P／Aモードでのみ可能です（プログラムシフトでは不可）。
● Mモードでの露出補正（→P.81）はできません。

Mモードでフラッシュが発光しない場合は、設定されたシャッター速度と絞り値に応じて画面の明るさが変化します。そのまま撮影すると写真が大幅に露出オーバー／アンダーになる場合は、シャッターボタンを半押しするとシャッター速度と絞り値の両方が点滅（上面データパネル）または赤く点灯（液晶モニター／ファインダー）してお知らせします。
フラッシュが発光する場合は、被写体が確認できるよう自動的に画面が明るくなります。

Mモードでの画面について

Mモードでフラッシュが発光しない場合は、設定されたシャッター速度と絞り値に応じて画面の明るさが変化します。撮影される画像の明るさを前もって確認することができます。
フラッシュが発光する場合は、被写体が確認できるよう自動的に画面が明るくなります。実際に撮影される画像と画面の明るさが異なるので、撮影前のヒストグラム表示（P.40）は使えません。

フラッシュを使用せず、画面が暗くて被写体の確認が難しい場合は、ファンクションボタンを押したまま表示切り替えボタンを押すと、画面が明るくなり、被写体を容易に確認することができるようになります。液晶モニター／ファインダー左下のMが赤くなってお知らせします。
元に戻すには同じ操作を繰り返してください。そのままにしておくと実際の被写体の明るさがモニターに反映されません。

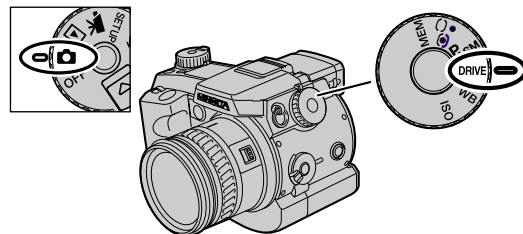
PCフラッシュアダプターPCT-100（P.236）使用時には、フラッシュが発光することをカメラが認識しないため、同じく被写体の確認が難しいことがあります。その場合もこの方法は有効です。

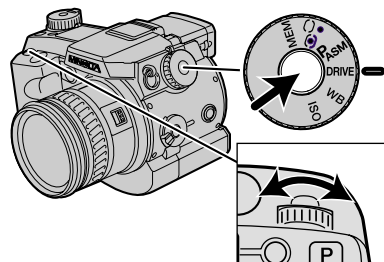
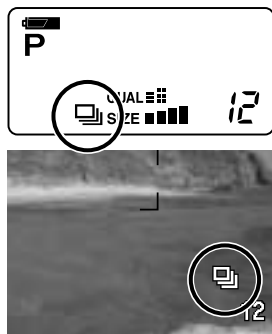
ドライブモード

連続撮影やセルフタイマーなど、シャッターの切れるタイミングを変更することができます。

□ 1コマ撮影
シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。初期設定は1コマ撮影で、プログラムセットボタンを押してもこの設定に戻ります。
連続撮影
シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。
セルフタイマー撮影
シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。→P.61
デジタルエフェクトブラケット（ずらし）撮影
露出やコントラスト等をずらした撮影が簡単にできます。→P.62
Int インターバル撮影
一定時間ごとに自動的に複数枚の撮影が行われます。→P.65
UHS ウルトラハイスピード連続撮影（UHS連続撮影）
シャッターボタンを押し続けている間、毎秒7コマの速度で連続して撮影されます。→P.68

連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、最高毎秒約2コマの速度で連続撮影ができます。
● 連続撮影の速度は画像サイズ等によって異なります。上記は画像サイズ2560×1920、Mモード、マニュアルフォーカス時の値です。

1. 撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してDRIVEを選びます。

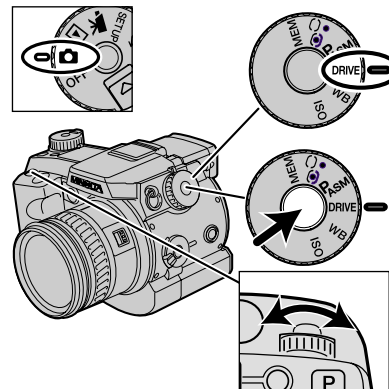
次ページへ続く

2.ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、を選びます。

3.シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- 内蔵フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
- スーパーファイン（TIFF）画像とRAW画像では、連続撮影はできません（後から連続撮影を選択すると画質は自動的にスタンダードになります）。
- ピント位置は1コマ目で固定されます。シャッターボタンを押し続けている間ピントを合わせ続けたいときは、オートフォーカスモードをコンティニュアスAFに変更してください。→P.94
- 連続撮影の枚数には上限があります（以下参照）。これらの値は画像サイズや画質、被写体によって異なるので、あくまでも目安とお考えください。

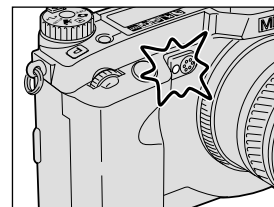
	2560x1920	1600x1200	1280x960	640x480
エコノミー	11	17	22	40
スタンダード	7	11	16	32
ファイン	4	8	11	23

- 撮影中にカードの空きがなくなると、撮影残り画像数000が表示されます。

セルフタイマー撮影

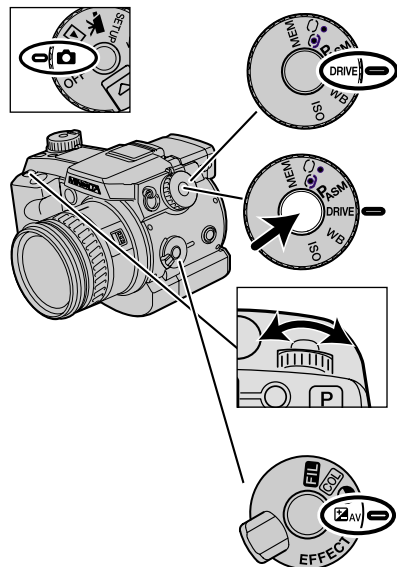
シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。

1.撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してDRIVEを選びます。

2.ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、を選びます。

3.被写体にピントが合っているのを確認してから、シャッターボタンを押します。

- セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅します。撮影直前にはランプが素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。
- セルフタイマー作動中は、ランプと同様に音でもお知らせします。
- 撮影後、セルフタイマーは解除されます。
- 作動中のセルフタイマーを止めるには、プログラムセットボタンを押してください。再度押すとプログラムセットボタンの本来の機能が働き、主な機能が基本の状態に戻ります。→P.42

デジタルエフェクトブラケット（ずらし）撮影

デジタルエフェクトレバーで選択されている効果（露出補正、コントラスト、彩度、フィルター効果）を自動的にずらした写真が3枚できます。シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。

- フラッシュ発光時、およびスーパーファイン（TIFF）画像やRAW画像では、表示は のままですが、連続でなく1枚ずつの撮影となります。

1. 撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してDRIVEを選びます。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、 を選びます。

- 液晶モニター／ファインダーには、 の横にブラケット枚数を表す3が表示されます。

3. デジタルエフェクトレバーで、ブラケット（ずらし）撮影を行ないたい項目を選びます。

AV 露出補正：初期設定では0段、－0.3段、＋0.3段の順に撮影されます。0.5段または1.0段への変更も可能です。→次ページ

コントラスト：0、－1、＋1の順に撮影されます。

COL 彩度：0、－1、＋1の順に撮影されます。

FIL フィルター効果：0、－1、＋1の順に撮影されます。

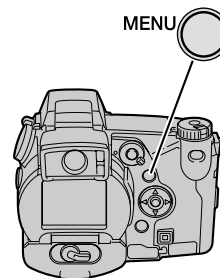
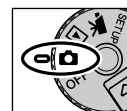
※フィルター効果について →P.86

4. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- 途中で指を離すとブラケット撮影は終了します。
- 液晶モニター／ファインダーには、 の横にブラケットの残り枚数が表示されます。

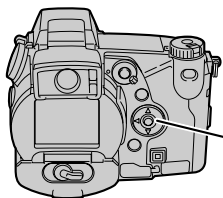
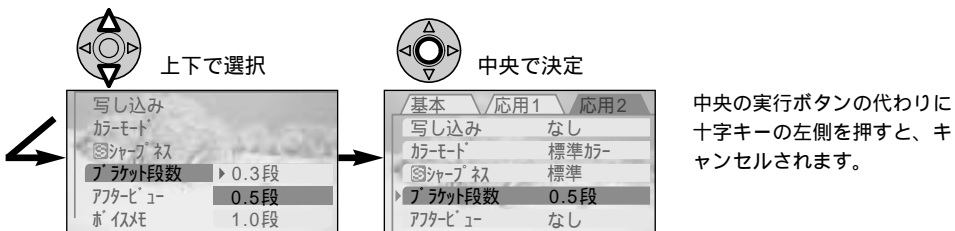
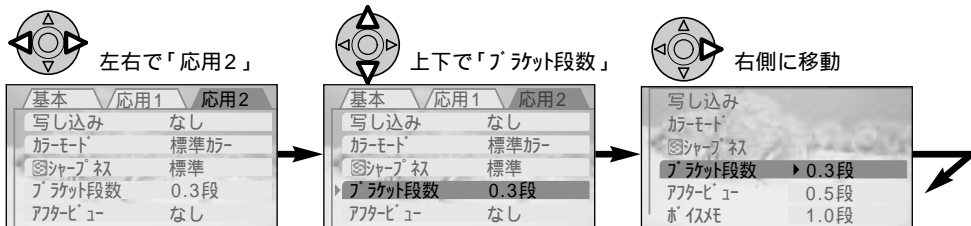
- フラッシュ発光時、およびスーパーファイン（TIFF）画像やRAW画像では、1コマずつシャッターボタンを押して撮影してください。
- 各項目の詳細については、露出補正 P.81、コントラスト P.84、彩度 P.85、フィルター効果 P.86（カラー）またはP.120（モノクロ）をご覧ください。
- 基準値（0）とピント位置は、1枚目を撮影するときに固定されます。あらかじめ基準値をずらしておくことも可能です。
- 撮影中にカードの空きがなくなると、その後の撮影はされずにブラケット撮影は途中で終了します。
- シャッター速度と絞り値の表示は0.5段です。露出補正の0.3段ブラケット時にはブラケット中も数値が変わらないことがありますが、実際にはより細かなシャッター速度の変化や撮像感度の調整（オート設定時のみ）により、正確にブラケット撮影は行われています。

露出ブラケットでずらし段数を変える

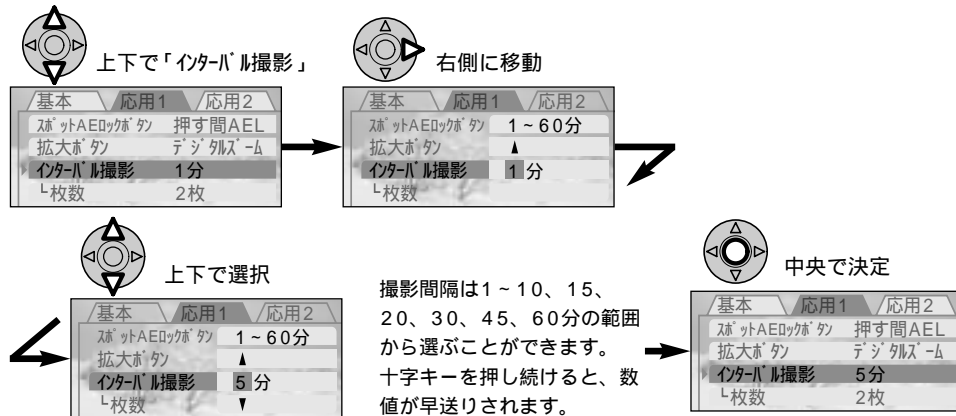
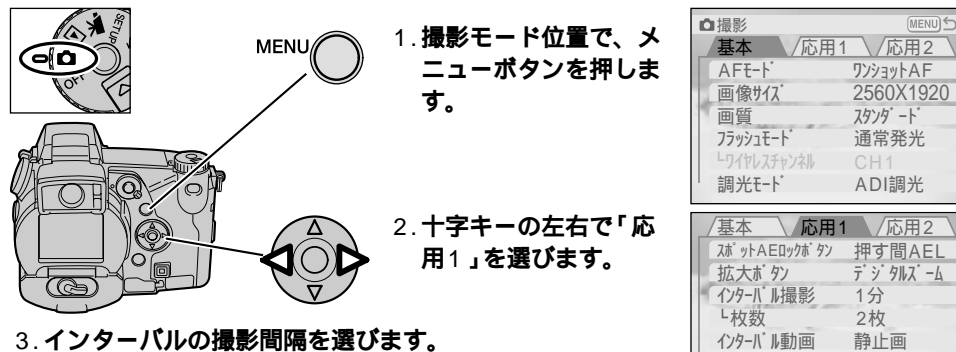
デジタルエフェクトブラケット撮影で露出補正を選んだときは、ずらし量を変更することができます。0.3段、0.5段、1.0段の中から選ぶことができます。

1. 撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

撮影 MENU
基本 / 応用1 / 応用2

AFモード	ワンショットAF
画像サイズ	2560X1920
画質	スタンダード
フラッシュモード	通常発光
└ワイヤレスチャンネル	CH1
調光モード	ADI調光

2.十字キーでブラケット段数を変更します。

- 中央の実行ボタンの代わりに十字キーの左側を押すと、キャンセルされます。

3.メニューボタンを押すか、シャッターボタンを半押しして元の撮影画面に戻ります。

インターバル撮影

一定時間ごとに自動的に複数枚の撮影が行われます。撮影間隔は1～60分の間から、撮影枚数は2～99枚の中から選ぶことができます。花が開いていく様子の撮影など、定点観測に便利です。

1.撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

2.十字キーの左右で「応用1」を選びます。

3.インターバルの撮影間隔を選びます。

- 撮影間隔は1～10、15、20、30、45、60分の範囲から選ぶことができます。
- 十字キーを押し続けると、数値が早送りされます。

次ページへ続く

4.インターバルの撮影枚数を選びます。

- 撮影枚数は2〜99枚の範囲から選ぶことができます。
- 十字キーを押し続けると、数値が早送りされます。

メニューボタンを押すか､シャッターボタンを半押しします。
- 以上の操作で撮影間隔と枚数の設定が完了します。

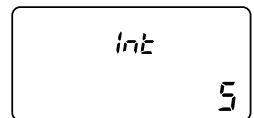
5.ファンクションダイヤルを回してDRIVEを選びます。

6.ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、Int（上面データパネル）またはⓢ（液晶モニター／ファインダー）を選びます。

- 液晶モニター／ファインダーのⓢの右の数字は、撮影枚数を表します。

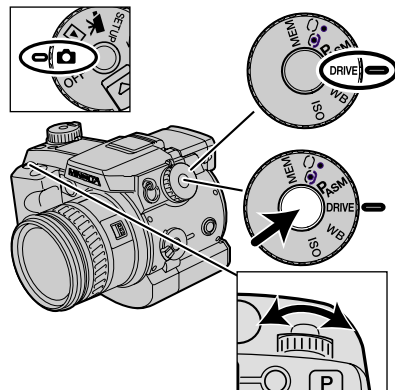
7.ピントが合っているのを確認し、シャッターボタンを押してインターバル撮影を開始します。

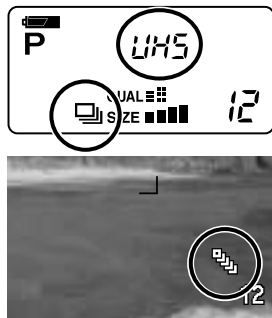
- シャッターボタンを押すと同時に1枚目の撮影が行われます。その後は設定された撮影間隔ごとに撮影が行われ、設定された枚数分が終わると撮影は終了します。
- インターバル中は、上面データパネルにはIntとインターバルの残り枚数が表示されます。液晶モニター／ファインダーは消灯します。

Int
5

- インターバル撮影を途中で終了するには、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFFにしてください。
- 各撮影の直前に、オートフォーカスの作動やフラッシュ充電など撮影に必要な準備が始まります。
- 撮影間隔や枚数を変更しない場合、次回からは5〜7の操作のみでインターバル撮影ができます。
- 撮影中にカードの空きがなくなると、撮影残り画像数000が表示され、インターバル撮影は途中で終了します。
- スポットAEロックボタン（P.76）は、インターバル撮影2コマ目以降は機能しません。メニューで「再押し」（P.110）を選択していても同様です。
- インターバル撮影で、静止画の代わりに動画の撮影もできます。→P.164

ウルトラハイスピード連続撮影（UHS*連続撮影）

シャッターボタンを押し続けている間、毎秒約7コマの速度で連続撮影ができます。画像サイズ（P.96）は1280×960画素に固定されます（デジタルズーム時は640×480画素）。

*UHS＝Ultra High Speed（ウルトラハイスピード）の略

1. 撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してDRIVEを選びます。

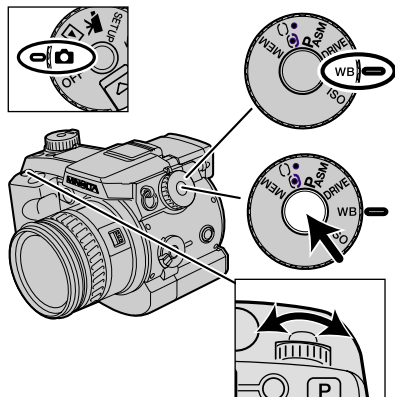
2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、UHSと（上面データパネル）または（液晶モニター／ファインダー）を選びます。

UHS連続撮影では、すべての画像データをいったんカメラ内のメモリに蓄積し、撮影完了後にデータをまとめてカードに書き込み（記録）します。よって、

- 撮影後、カードに書き込む時間が必要です。書き込み中は液晶モニター／ファインダーは消灯します。
- カメラ内のメモリには限りがあるため、連続撮影できる枚数には上限があります（右図参照）。これらの値は画質や被写体によって異なるので、あくまでも目安とお考えください。

	画像サイズ	
	1280×960	640×480
エコノミー	39	78
スタンダード	31	68
ファイン	15	40

- フラッシュ撮影はできません（内蔵フラッシュを上げていても発光しません）。
- スーパーファイン（TIFF）画像とRAW画像では、連続撮影はできません（後から連続撮影を選択すると画質は自動的にスタンダードになります）。
- ピント位置と露出は1コマ目で固定されます。
- デジタル撮影シーンセレクター（P.43）での撮影はできません。
- 低速のシャッター速度での撮影はできません。Sモード（P.54）やMモード（P.56）で1/8秒より低速側のシャッター速度に設定していた場合、自動的に1/8秒に変更されます。
- 電池の容量が少ないとき（ が点灯している場合）は、UHS連続撮影はできません（シャッターは切れません）。
- UHS連続撮影の場合、他の撮影画像と比べると画質がやや劣化することがあります。
- 強い逆光下で撮影した場合、スミア（縦に伸びる光の帯）が発生したり、画面の一部が黒くつぶれたりすることがあります。これらの現象は液晶モニター／ファインダーで確認できるので、そのような場合はレンズフードを使用するか、絞りを絞って撮影してください。
- 静止画だけでなく、動画も同時に残すことができます。→P.166

ホワイトバランス

光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽくなったり黄色っぽくなったりします。これが白くなるように調整するのがホワイトバランスです。オート位置にすると自動的に調整されますが、意図的に選択することもできます。

1.撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してWB*を選びます。

*WB＝White Balance（ホワイトバランス）の略

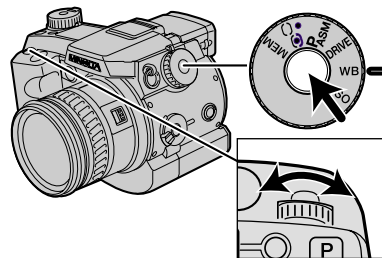
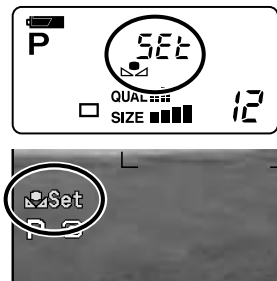
2.ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、希望の設定を選びます。

- 初期設定はオートです。プログラムセットボタンを押してもオートに戻ります。オートの時には、設定中はAutoの文字が現れますが、撮影中の表示はありません。
- 以下から被写体を照射している光源を選んでください。

Auto	オート（自動設定） AWB（オートホワイトバランス）と表示されることもあります。
☼	昼光（晴れた明るい屋外）
	白熱灯（タングステン光）
	蛍光灯
	曇天（曇った屋外）
	カスタムホワイトバランス（→次ページ）
SEt	カスタムホワイトバランス設定（→次ページ）

- 水銀灯やナトリウムランプの場合、光源の特性上それらだけでは正確なホワイトバランスは得られません。フラッシュの使用をおすすめします。

カスタムホワイトバランス

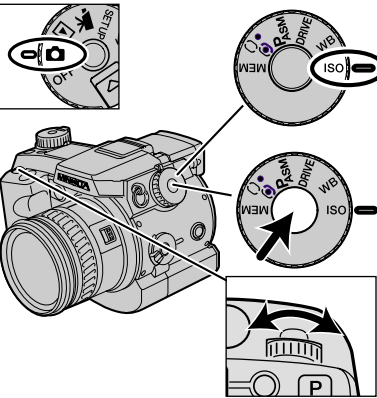
複数の種類の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。

1.WB位置で、ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回してSet（カスタムホワイトバランス設定）を選びます。

2.白く写したいものが画面いっぱいになるような構図にして、シャッターボタンを押し込みます。

- ピントを合わせる必要はありません。
- 撮影はされません。ここで画面に入れたものが白くなるようなホワイトバランスに設定されます。
- 設定後は（カスタムホワイトバランス撮影）になります。

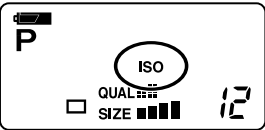
3.シャッターボタンを押して撮影します。

- この操作で設定されたカスタムホワイトバランスは、次に同じ操作で別のカスタムホワイトバランスを設定するまで有効です（メインスイッチOFFでもキャンセルされません）。
- 設定時（2の操作の時）にフラッシュを発光させると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが設定されます。実際の撮影でもフラッシュを発光させて撮影してください。
- 「カスタムWB設定エラー」のメッセージが表示されたときは、カスタムホワイトバランスは設定されていません。十字キー中央の実行ボタンを押してメッセージを消し、もう一度設定し直してください。

撮像感度

撮影時の感度を選択することができます。感度はISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算して表されます。オートに設定すると、明るさや状況（フラッシュ発光の有無など）に応じて自動的に感度が調整されます。暗い場所での撮影やフラッシュ光の到達距離を伸ばしたいときには、感度を上げると有効ですが、画像が粗くなります。

1. 撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してISOを選びます。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、希望の感度を選びます。

- 初期設定はオート（自動設定）です。
- 感度は以下の範囲から選ぶことができます。
  オート（Auto）、ISO 100、200、400、800

- オートの場合、設定中はAutoの文字が現れますが、撮影中の表示はありません。フラッシュが発光しない場合はISO 100〜400、発光する場合はISO 100〜200の範囲で自動的に設定されます。Mモード時にはISO 100で固定されます。
- オート以外を設定した場合は、上面データパネルにISOの文字が、液晶モニター／ファインダー内には ISOと数値が表示されます。

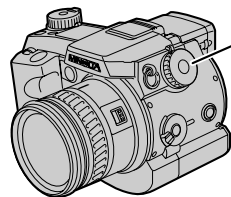
撮像感度変更時のフラッシュ調光距離

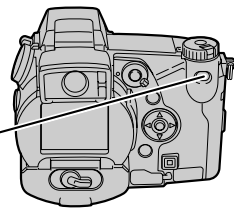
撮像感度を変更すると、内蔵フラッシュの調光距離（フラッシュ光の届く距離）は以下の通りになります。

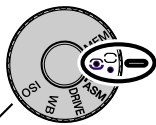
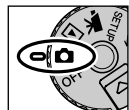
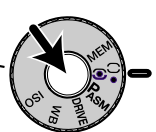
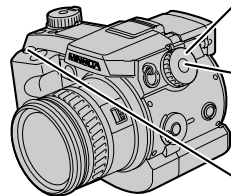
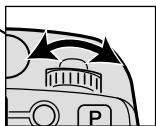
撮像感度（フィルム換算値）	撮像感度	
	広角側	望遠側
オート	0.5〜3.8m	0.5〜3.0m
ISO 100	0.5〜2.7m	0.5〜2.1m
ISO 200	0.5〜3.8m	0.5〜3.0m
ISO 400	0.5〜5.4m	0.5〜4.2m
ISO 800	0.5〜7.6m	0.5〜6.0m

測光モード

測光モード（カメラが被写体の明るさを測る方法）を以下の3つの中から選ぶことができます。

多分割測光	画面を細かく分割して測光します。
中央重点的平均測光	画面の中央部に重点を置きながら、全体の明るさを平均的に測光します。
● スポット測光	中央部のスポット測光サークル内のみで測光を行ないます。

ファンクションダイヤルとファンクションボタンで、多分割・中央重点的平均・スポット測光のいずれかを選択できます。

スポットAEロックボタンを押すと、上のどの測光モードを選択していても押している間はスポット測光となり、測光値（シャッター速度と絞り値）が固定されます。→P.76

測光モードの選択（ファンクションダイヤルによる）

最もよく使用する測光モードをこの方法で設定しておくと便利です。

1. 撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回して を選びます。

2. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、希望の測光モードを選びます。

- 液晶モニター／ファインダー内に、選んだ測光モードが表示されます。
- デジタル撮影シーンセレクター選択中は、測光モードを選ぶことはできません。

多分割測光

CCDを細かく分割（300分割）して測光を行ないます。被写体までの距離情報やホワイトバランスからの色情報とも連動して、被写体の明るさを正確に把握します。人の目で見た感じに一番近く撮れる測光モードで、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。初期設定は多分割測光で、プログラムセットボタンを押してもこの設定に戻ります。

- 多分割測光では、シャッターボタン半押しでピントが固定されると、同時に露出（シャッター速度と絞り値）も固定されます（オートフォーカス、ワンショットAF時のみ）。

中央重点的平均測光

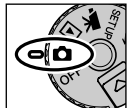
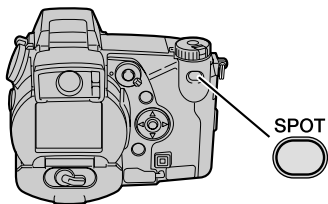
画面の中央部に重点を置きながら、画面全体の明るさを平均的に測光します。逆光時や被写体が画面中央にない場合などは、露出補正が必要になります。→P.81

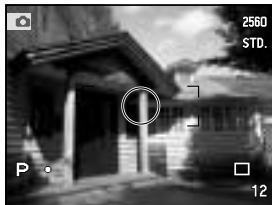
● スポット測光

画面中央部にスポット測光サークルが現れ、このサークル内のみで測光を行ないます。コントラストの大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。測光したい部分が画面中央にないときは、スポットAEロックボタンを使用して測光値を固定してください（次ページ参照）。

スポット測光サークル

スポットAEロックボタンによるスポット測光

通常は多分割または中央重点的平均測光を使用するが、被写体により一時的にスポット測光を行なうような場合は、この方法が便利です。

1.撮影モード位置で、測光したい部分を画面中央部に配置します。

2.スポットAEロックボタンを押します。

● 画面中央部にスポット測光サークルが現れます。この中のものが測光されます。

3.スポットAEロックボタンを押したまま必要なら構図を変え、シャッターボタンを押して撮影します。

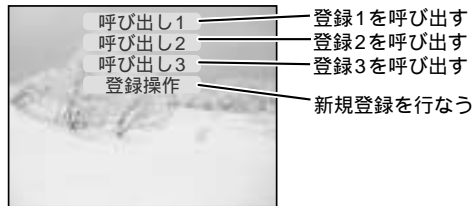
● スポットAEロックボタンを押している間は測光値（シャッター速度と絞り値）が固定されます。

● 測光値が固定されている間は、液晶モニター／ファインダー内のシャッター速度と絞り値が黒く反転します。
● フラッシュ発光時は、スポット測光でなくスローシンクロ撮影（夜景ポートレートと似た効果）になります。
● スポットAEロックボタンから指を離しても測光値が固定されたままになるように（押し続けなくてもいいように）することができます。→ P.110

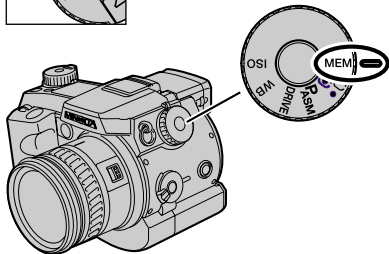
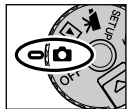
登録

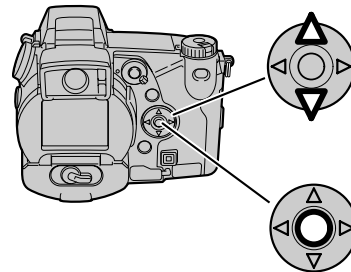
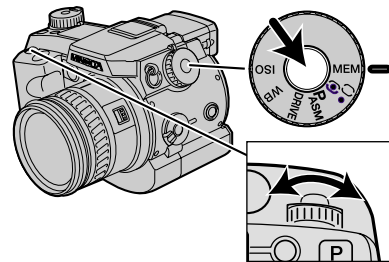
最もよく使うモードや数値設定等の組み合わせを、3通りまでカメラに登録して、必要に応じて呼び出すことができます。同条件下での撮影を頻繁に行なうときに便利です。
登録機能を使うと、以下の設定すべてが自動的にカメラに登録されます。一部だけの登録はできません。また、以下に記載されている設定以外の登録もできません。

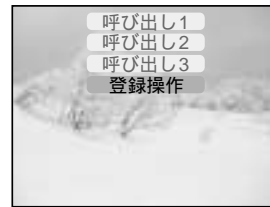
登録できる項目	補足	ページ
露出モード	デジタル撮影シーンセレクターとプログラムシフトは登録できません。Aモードでは絞り値が、Sモードではシャッター速度が、Mモードでは絞り値とシャッター速度が同時に登録されます。	50
ドライブモード	インターバル撮影では撮影間隔と枚数が、ブラケット撮影では露出補正時のブラケット段数が同時に登録されます。	59
ホワイトバランス	カスタムホワイトバランスの設定も同時に登録されます。	70
撮像感度	—	72
測光モード	—	74
デジタルエフェクトコントロール	露出補正と調光補正はそれぞれ別に登録できます。またフィルター効果ではカラーフィルターとモノクロフィルターがそれぞれ別に登録できます。	81
フォーカスフレーム	フレックスフォーカスポイントの場合、画面内のピント位置も同時に登録されます。	88
フォーカスモード	オートフォーカスの場合、メニュー設定によるワンショットAF、コンティニュアスAFも同時に登録されます。	89 94
画像サイズ	—	96
画質	—	98
フラッシュモード	ワイヤレスフラッシュのチャンネルも同時に登録されます。	102
調光モード	—	108
カラーモード	—	118
シャープネス	—	122
インターバル動画	静止画か動画かが登録されます。	164
UHS連続撮影	動画のあり／なしが登録されます。	166

このカメラでは3通りまでの登録が可能です。例えば、呼び出し1には人物を撮るためのポートレート用の登録、呼び出し2にはスポーツシーン用の登録、などと使い分けることができます。

初期設定では、1〜3いずれもフルオートの状態が登録されています。登録機能を使う場合は、以下の方法で任意の設定を登録してください。

- 1〜3のすべてに登録する必要はありません。登録機能を使わない場合、1つも登録しなくても差し支えありません。
- 登録された内容は、プログラムセットボタンを押しても、カメラの電源を切っても、電池を抜いても保持されています。

新しい設定を登録する

1.撮影モード位置で、前ページの項目すべてを登録したい状態に設定します。

2.ファンクションダイヤルを回してMEM（=Memory、登録）を選びます。

3.ファンクションボタンを押したままダイヤルを回して、「登録操作」を選びます。

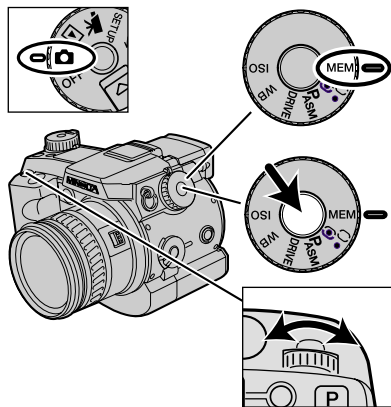
- 何も選択せずにファンクションボタンから手を離すとキャンセルされます。

4.十字キーの上下で登録する番号を1〜3から選びます。

- メニューボタンを押すとキャンセルされます。

5.十字キー中央の実行ボタンを押します。

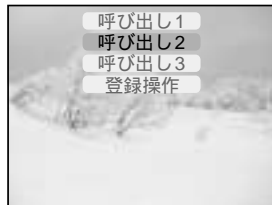
完了しました

確認

6.左のメッセージが出たら、もう一度十字キー中央の実行ボタンを押します。

登録を呼び出す

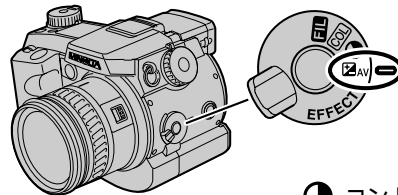
1. 撮影モード位置で、ファンクションダイヤルを回してMEM（=Memory、登録）を選びます。

2. ファンクションボタンを押したままダイヤルを回して、呼び出したい番号を選びます。

● 何も選択せずにファンクションボタンから手を離すとキャンセルされます。

● 登録を呼び出した後、そこからさらに設定の変更を加えることができます。変更を加えた後、78〜79ページの要領で再度「登録操作」を選んでそれを登録することもできます。再度「登録操作」を選ばない限り、新たに加えた変更が登録されることはありません。

● デジタルエフェクトブラケットを登録した場合、撮影時にデジタルエフェクトレバーでブラケット撮影したい項目（露出補正・調光補正、コントラスト、彩度、フィルター効果）を選んでください。これらを登録することはできません。

デジタルエフェクトコントロール

カメラ側面のデジタルエフェクトレバーにより、露出補正・調光補正、コントラスト補正、彩度補正、フィルター効果の設定を変更することができます。

AV 露出補正・調光補正
画面を明るくしたり暗くしたりします。画面全体の明るさを調整する場合は露出補正を、フラッシュ光の届く範囲内の明るさだけ調整する場合は調光補正をお使いください。

コントラスト補正
コントラスト（明暗差）を調整します。→P.84

COL 彩度補正
彩度（色の鮮やかさ）を調整します。→P.85

FIL フィルター効果
画面に赤や青のフィルターをかけたような効果を出します。→P.86

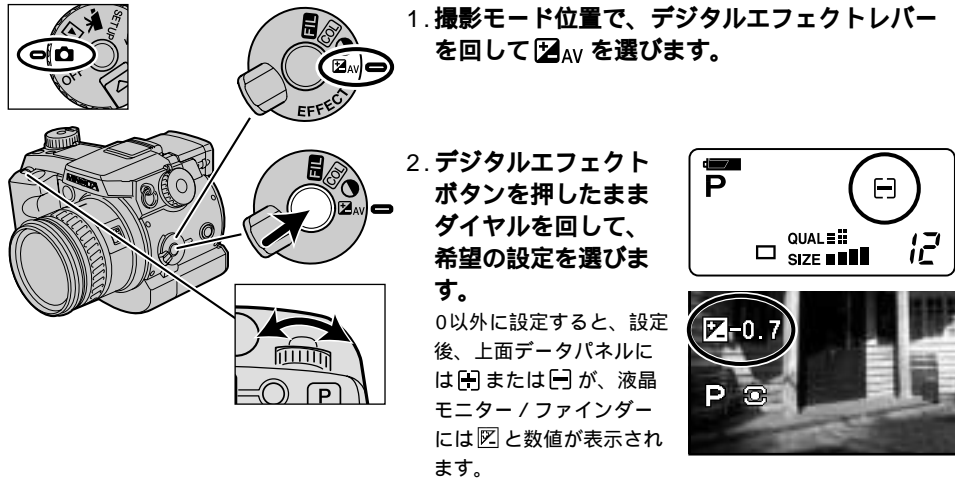
露出補正

画面全体を明るくしたり暗くしたりします。−2.0〜＋2.0の範囲で0.3段ごとに選択することができます。
＋側にすると画面全体が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。
−側にすると画面全体が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。

露出補正
＋側

露出補正
−側

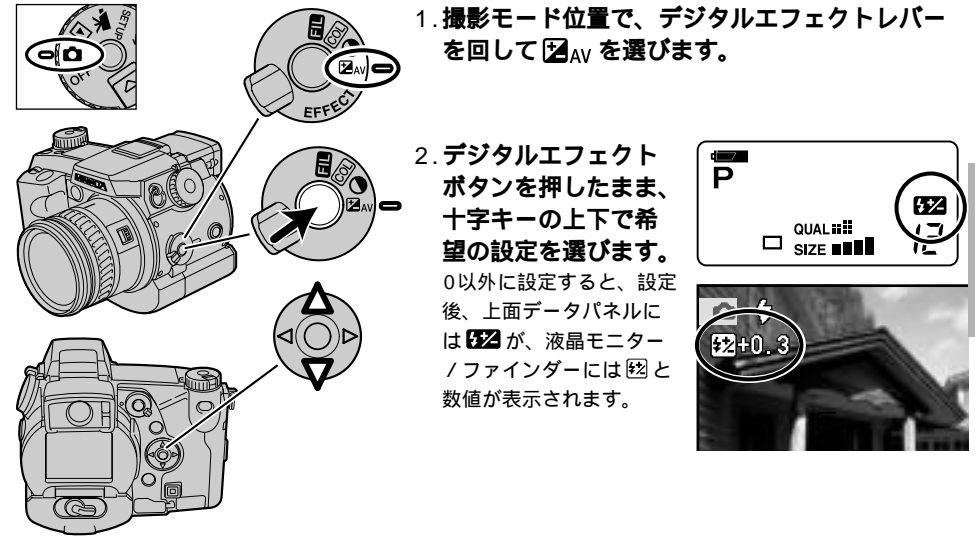
1. 撮影モード位置で、デジタルエフェクトレバーを回して AV を選びます。

2. デジタルエフェクトボタンを押したままダイヤルを回して、希望の設定を選びます。
   - 0以外に設定すると、設定後、上面データパネルには + または − が、液晶モニター／ファインダーには ± と数値が表示されます。

- 露出補正は、表示されているシャッター速度と絞り値の変化だけでなく、より細かなシャッター速度の変化や撮像感度の調整（オート設定時のみ）によっても行われています。したがって、露出補正を設定しても表示されているシャッター速度と絞り値は変わらないことがありますが、正確に露出補正は行われています。
- 撮影前後に、ヒストグラム表示で露出の状態を確認することもできます。→P.40、131

調光補正

フラッシュ撮影の際、露出補正とは別に、フラッシュの発光量だけを調整することができます。露出補正と同じく、−2.0〜＋2.0の範囲で0.3段ごとに選択することができます。

1. 撮影モード位置で、デジタルエフェクトレバーを回して AV を選びます。

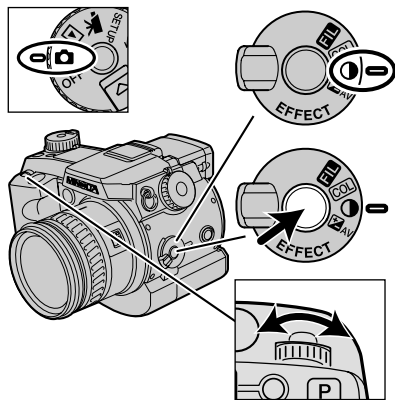
2. デジタルエフェクトボタンを押したまま、十字キーの上下で希望の設定を選びます。
   - 0以外に設定すると、設定後、上面データパネルには ±⚡ が、液晶モニター／ファインダーには ±⚡ と数値が表示されます。

露出補正と調光補正の違い

露出補正では、シャッター速度・絞り値・撮像感度（オートの場合）が変化することによって補正が行われます。フラッシュが発光する場合は、それに加えてフラッシュの発光量も同時に変化します。
一方調光補正では、フラッシュの発光量のみが変化します。写真全体に対するフラッシュ光の影響を相対的にコントロールすることができます。例えばフラッシュ光を少なめに仕上げたいときは、調光補正をややアンダー側（−側）に設定しておき、同時に露出補正をオーバー側（＋側）にかけて全体の明るさを調整する、といった使い方ができます。
- 特に内蔵フラッシュで調光補正を行なう場合、フラッシュのガイドナンバーが限られているため、被写体がフラッシュ光の最大到達距離（調光距離）付近にあるときは、オーバー側の効果が出ないことがあります。

コントラスト補正

コントラスト（明暗差）を調整します。－3～＋3の7段階から選択することができます。
＋側にするとコントラストが強くなります。メリハリの効いたくっきりした画像になります。
－側にするとコントラストが弱くなります。白い部分が飛んだり黒い部分がつぶれたりすることが少なくなります。

コントラスト
強

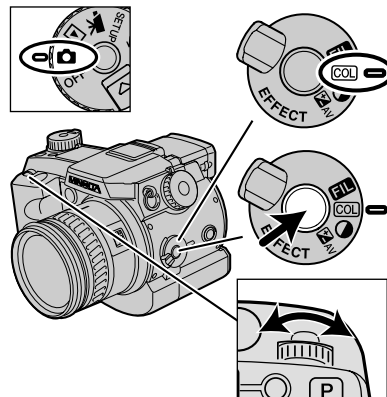
コントラスト
弱

1.撮影モード位置で、デジタルエフェクトレバーを回して◑を選びます。

2.デジタルエフェクトボタンを押したままダイヤルを回して、希望の設定を選びます。

● 0以外に設定すると、液晶モニター／ファインダーに◑と数値が表示されます。

● 画質でスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。

彩度補正

彩度（色の鮮やかさ）を調整します。－3～＋3の7段階から選択することができます。
＋側にすると彩度が強くなります。鮮やかなくっきりした画像になります。
－側にすると彩度が弱くなります。落ち着いた画像になります。

1.撮影モード位置で、デジタルエフェクトレバーを回してCOLを選びます。

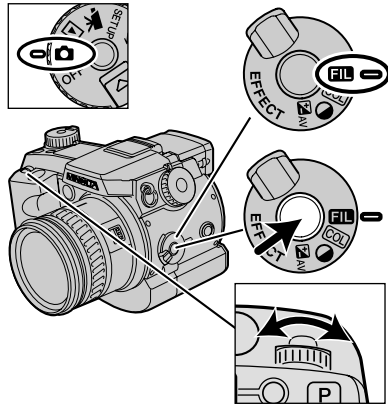
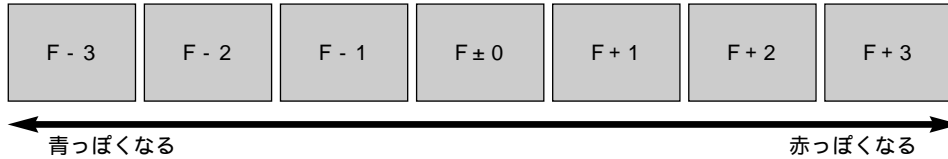
2.デジタルエフェクトボタンを押したままダイヤルを回して、希望の設定を選びます。

● 0以外に設定すると、液晶モニター／ファインダーにCOLと数値が表示されます。

● 画質でスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。

フィルター効果

カラー画像の場合、画面に赤や青の色フィルターをかけたような効果を出します。数値が大きくなるほど赤み・青みが増します。※裏表紙C-1 カラー写真参照

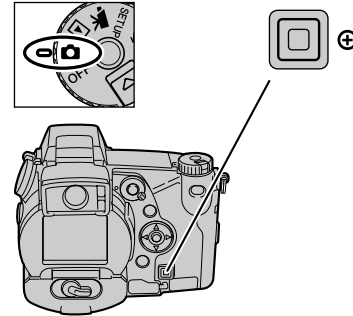
● モノクロ画像の場合は色調を選ぶことができます。セピア調の写真なども可能です。→P.120、裏表紙C-2

1.撮影モード位置で、デジタルエフェクトレバーを回して FIL を選びます。

2.デジタルエフェクトボタンを押したままダイヤルを回して、希望の設定を選びます。

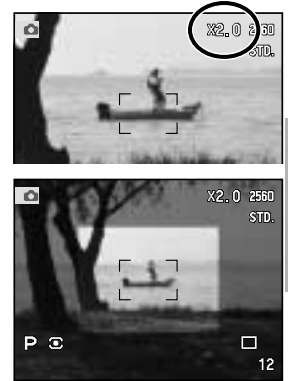
● 0以外に設定すると、液晶モニター／ファインダーにⒻと数値が表示されます。

● 標準カラーをビビッドカラーにすると、より赤み・青みが強くなります。→P.119、裏表紙C-1

デジタルズーム

画像を2倍に拡大することができます。

撮影モード位置で、拡大ボタンを押します。

● 液晶モニターの画像は2倍に拡大され、X2.0が表示されます。

● ファインダー（EVF）は、中央部分がトリミングされた状態になります。

● 撮影後もデジタルズームのままです。戻るときは拡大ボタンをもう一度押してください。

● デジタルズーム時には、ピント位置を表す赤いセンサーは表示されません。フレックスフォーカスポイントも機能しません。またRAW画像と動画のデジタルズームもできません。

ズームリングによるズーム（光学ズーム）では、画像サイズを維持したまま拡大されますが、デジタルズームでは必ずしも画像サイズは維持されません。元の画像サイズに応じて、以下の通りに画像サイズが変更されます。（例：640×480の場合は、デジタルズーム後も画像サイズは維持されるので光学ズームと同じ効果が得られます。2560×1920の場合だと画像サイズが半分になるので、データ上では周囲をトリミングしただけの画像となります。）

元の画像サイズ	→	ﾃﾞｼﾞﾀﾙｽﾞｰﾑ後の画像ｻｲｽﾞ
2560 × 1920	→	1280 × 960
1600 × 1200	→	1280 × 960
1280 × 960	→	1280 × 960
640 × 480	→	640 × 480

ピント合わせ（応用）

ピント合わせの基本は基本撮影の章（P.32）に記載しています。ここでは、さらにいろいろなピント合わせの方法について説明します。

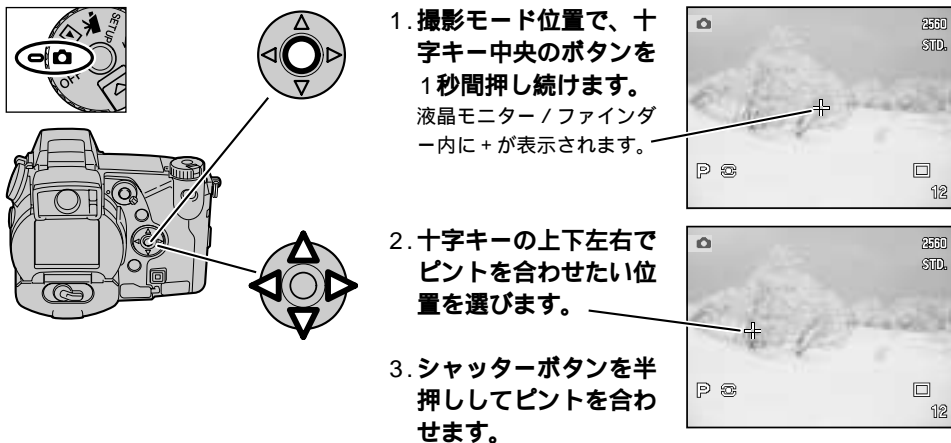
画面内の任意の位置にピントを合わせる（フレックスフォーカスポイント）

画面内でピントの位置を自由に決めることができます。

1. 撮影モード位置で、十字キー中央のボタンを1秒間押し続けます。

● 液晶モニター／ファインダー内に＋が表示されます。

2. 十字キーの上下左右でピントを合わせたい位置を選びます。

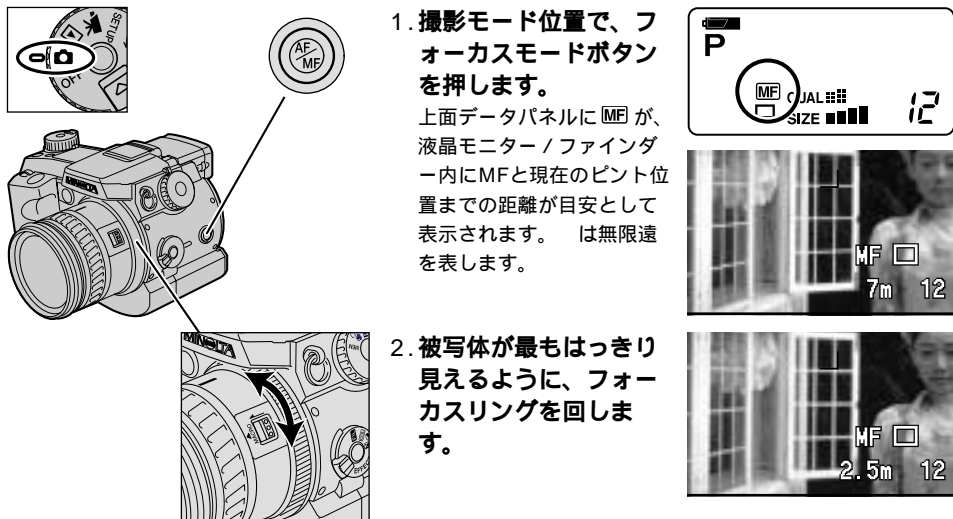
3. シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

● ピントが合うと、＋が一瞬赤くなります。
● 2の状態で十字キー中央のボタンを押すと、ピント位置が中央に戻ります。中央のボタンを1秒間押し続けると、元のワイドフォーカスフレーム［ ］に戻ります。
● プログラムセットボタンを押すとワイドフォーカスフレームに戻ります。
● デジタルズーム（P.87）時には、ピント位置を移動させることはできません。

マニュアルフォーカス

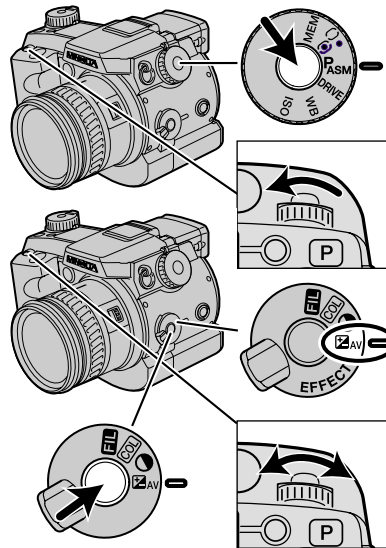
オートフォーカスを使わずに、被写体までの距離を自由に設定することができます。

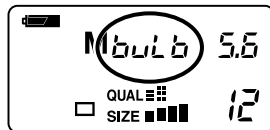
1. 撮影モード位置で、フォーカスモードボタンを押します。

● 上面データパネルに MF が、液晶モニター／ファインダー内にMFと現在のピント位置までの距離が目安として表示されます。∞は無限遠を表します。

2. 被写体が最もはっきり見えるように、フォーカスリングを回します。

● もう一度フォーカスモードボタンを押すと、オートフォーカスに戻ります。プログラムセットボタンを押してもオートフォーカスに戻ります。
● 表示される距離はCCD（撮像素子）からの距離です。※CCDの位置について →P.46
● ピントの状態が見えにくい場合は、拡大ボタンの機能を変更し、変更した拡大ボタンを押すことにより一時的に中央部を4倍に拡大してピントの状態を見やすくすることもできます。→P.112

バルブ（長時間露光）撮影

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります（最長30秒）。カメラを三脚に取り付けて撮影してください。Mモードでのみ撮影可能です。→P.56

1. PASM位置で、ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回して、Mを選びます。

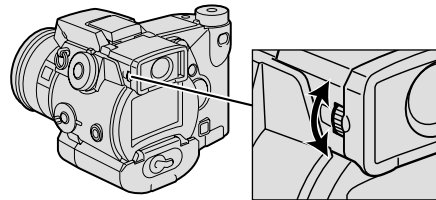
2. ダイヤルを左に回して、bulbを選びます。

3. デジタルエフェクトレバーを AV に合わせます。

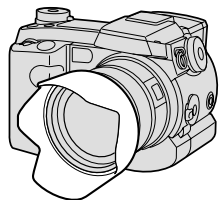
4. デジタルエフェクトボタンを押しながらダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

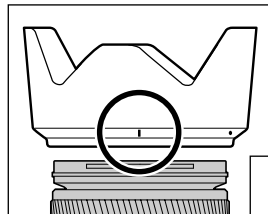
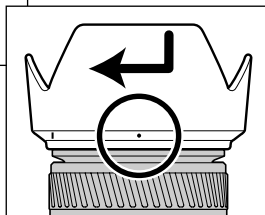
5. 必要な時間シャッターボタンを押し続けて撮影します。

● カメラぶれを少なくするため、別売りのリモートコードの使用をおすすめします。→P.234
● バルブ撮影後は、ノイズ軽減処理のため、バルブ撮影時間とほぼ同じ間液晶モニター／ファインダーが暗くなります。その間は撮影できません。
● 高感度域で長秒時露光する場合は、画面内のノイズが一部強調されることがあります。

視度調整

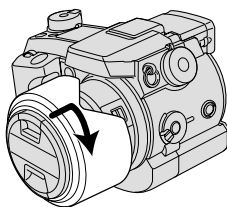
近視等によりファインダーの像がはっきりと見えないときは、視度を調整して見やすくすることができます。
● ファインダー（EVF）のみに有効です。液晶モニターには影響しません。

ファインダーをのぞいて、表示されている数値等がはっきり見えるように視度調整ダイヤルを回します。

レンズフード

フラッシュを使わずに撮影する場合、特にレンズの最広角側で逆光時に撮影する場合は、画面外にある光がレンズに入って描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします。

● 内蔵フラッシュ使用時（P.34）にはフードは使わないでください。画面下部までフラッシュ光が届かなくなります。

1. フードの｜の部分を上にして、フードをレンズ先端に合わせます。

2. フードの○の部分が上に来るまで、フードを時計方向に回します。

● カチッと音がするまで回してしっかり固定してください。

● フードは音がするまで回してしっかりと固定させてください。中途位置のまま使用すると、フードの効果が出なかったり、画面の一部にフードが写り込むことがあります。

● フードを収納するときは逆向きに取り付けることができます（右図）。

撮影モード時のメニュー設定

メインスイッチ／モード切り替えダイヤルが 📷 位置（撮影モード）にあるときにメニューボタンを押すと、以下の設定が可能です。メニューボタンと十字キーを使って設定します。

タブ	項目	設定	ページ
基本	AFモード	○☆ワンショットAF、コンティニュアスAF	94
	画像サイズ	○2560×1920、1600×1200、1280×960、640×480	96
	画質	RAW、スーパーファイン、ファイン、○スタンダード、エコノミー	98
	フラッシュモード	○（☆）通常発光、（☆）赤目軽減発光、後幕シンクロ、ワイヤレスフラッシュ	102
	ワイヤレスチャンネル	○CH1、CH2、CH3、CH4	107
	調光モード	○☆ADI調光、P-TTL調光、マニュアル発光（1/1、1/4、1/16）	108
応用1	スポットAEロックボタン	押す間AF/AEL、再押しAF/AEL、○押す間AEL、再押しAEL	110
	拡大ボタン	○デジタルズーム、ピント確認（マニュアルフォーカス時）	112
	インターバル撮影	○1分、2分～10分、15分、20分、30分、45分、60分	65
	（インターバル撮影）枚数	○2枚、3枚～99枚	66
	インターバル動画	○静止画、動画	164
	UHS連続撮影	○動画なし、動画あり	166
応用2	写し込み	○なし、年月日、月日時刻、文字、文字＋通し番号	114
	カラーモード	ビビッドカラー、○標準カラー、モノクロ、ソラリゼーション	118
	シャープネス	ハード（＋）、○標準、ソフト（－）	122
	ブラケット段数	○0.3段、0.5段、1.0段	63
	アフタービュー	10秒、2秒、○なし	124
	ボイスメモ	15秒、5秒、○なし	126

○印は初期設定値です。☆印はプログラムセットボタンで戻る設定値です。

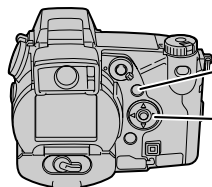
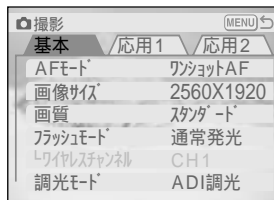
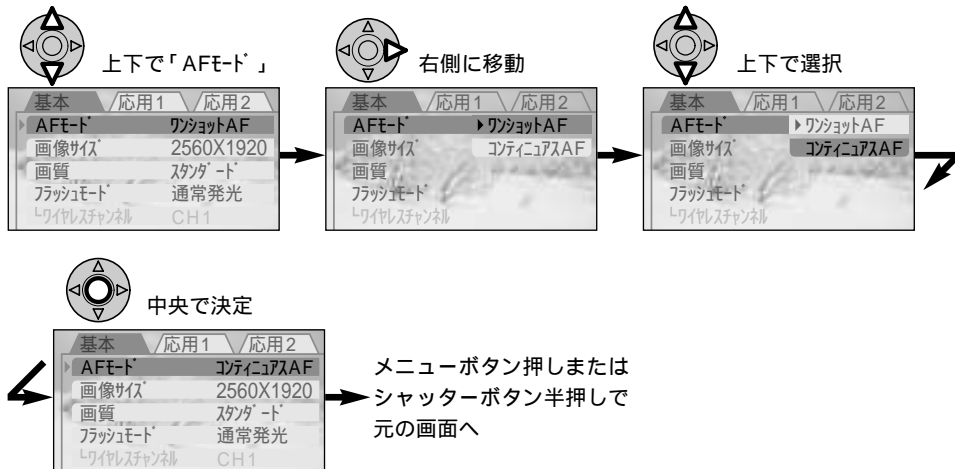
オートフォーカスモード

オートフォーカスモード（AF*モード）を、ワンショットAFまたはコンティニュアスAFに設定することができます。

*AF＝Autofocus（オートフォーカス）の略

1.撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

撮影　MENU
基本　応用1　応用2

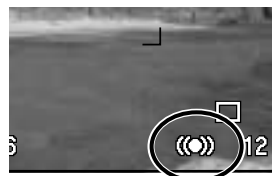
AFﾓｰﾄﾞ	ﾜﾝｼｮｯﾄAF
画像ｻｲｽﾞ	2560X1920
画質	ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ
ﾌﾗｯｼｭﾓｰﾄﾞ	通常発光
└ﾜｲﾔﾚｽﾁｬﾝﾈﾙ	CH1
調光ﾓｰﾄﾞ	ADI調光

2.十字キーで希望の設定を選びます。

ワンショットAF

シャッターボタンを半押しするとピント合わせが行われ、ピントが合うとピント位置はそこで固定されます。静止している被写体の撮影に適しています。初期設定はワンショットAFで、プログラムセットボタンを押してもこの設定に戻ります。

コンティニュアスAF

シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続けます。動いている被写体の撮影に便利です。

- ピント位置を表す赤いセンサーは表示されません。
- コンティニュアスAFでも、激しく動く被写体にはピントを合わせることができません。

フォーカス表示

コンティニュアスAFにすると、液晶モニター／ファインダー内のフォーカス表示が変わります。

ワンショットAF	○ 白色：	ピントが合って固定されています。
	● 赤色：	ピントが合っていません。
コンティニュアスAF	((○)) 白色：	ピントが合っています。 被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。
	● 赤色：	ピントが合っていません。

画像サイズ

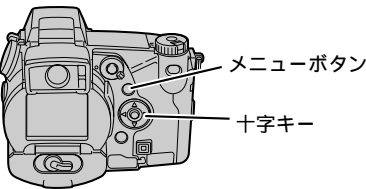
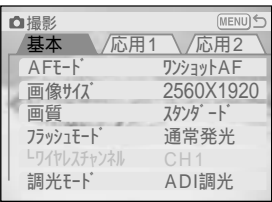
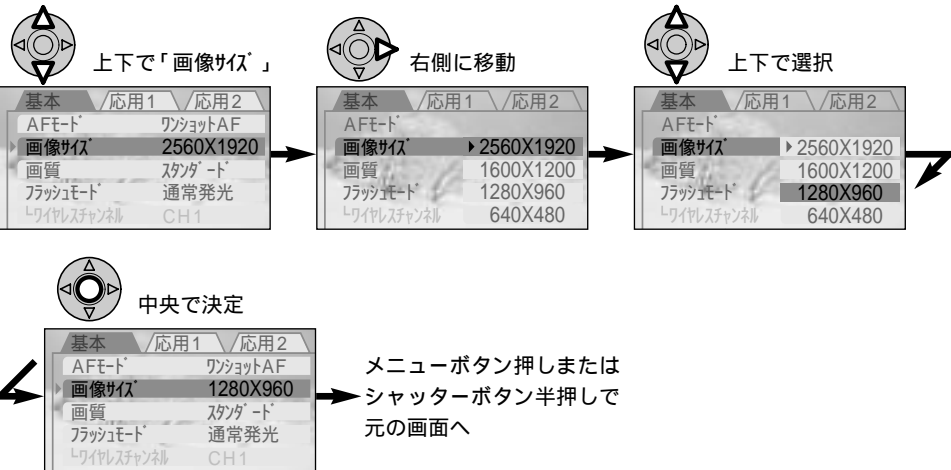
画像の大きさを指定することができます。4通りの中から選ぶことができます。

●画質をRAWにする（P.101）と、画像サイズは2560×1920で固定されます。画像サイズは表示されません。

1.撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

撮影
基本 / 応用1 / 応用2
AFモード　ワンショットAF
画像サイズ　2560X1920
画質　スタンダード
フラッシュモード　通常発光
ワイヤレスチャンネル　CH1
調光モード　ADI調光

2.十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押しまたはシャッターボタン半押しで元の画面へ

デジタル画像は縦横に細かく分割されて表現されています。例えば画像サイズ2560×1920ピクセルの場合、画像は横に2560、縦に1920に分割され、その1点1点（画素）にそれぞれ色が付き、全体として1つの写真になっています。画像サイズとは、このように並んでいる画素の数（記録画素数）を表し、画素またはピクセルといった単位で表されます。画像サイズを変えると、画像の精密さやパソコンに取り込んだときの大きさが変化します。
このカメラでは、画像サイズを以下の4通りの中から選ぶことができます。

上面データパネル	ファインダーモニター	画像サイズ（単位ﾋﾟｸｾﾙ）	説明
SIZE ■■■■	2560	2560×1920（FULL）	このカメラの最大の画像サイズです。パソコンに取り込んで編集するときや、大きくプリントする場合におすすめします。約500万画素の画像が撮影できます。
SIZE ■■■	1600	1600×1200（UXGA）	パソコンに取り込んで編集するときや、プリントする場合におすすめします。約200万画素の画像が撮影できます。
SIZE ■■	1280	1280×960（SXGA）	約130万画素の画像が撮影されます。枚数を多く撮影する場合に便利です。
SIZE ■	640	640×480（VGA）	1枚のカードに最も多くの枚数を撮影することができます。ファイルサイズが小さいので、Eメールに添付するときやホームページ用の画像として最適です。

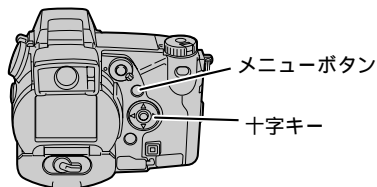
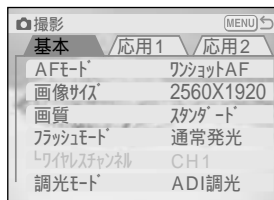
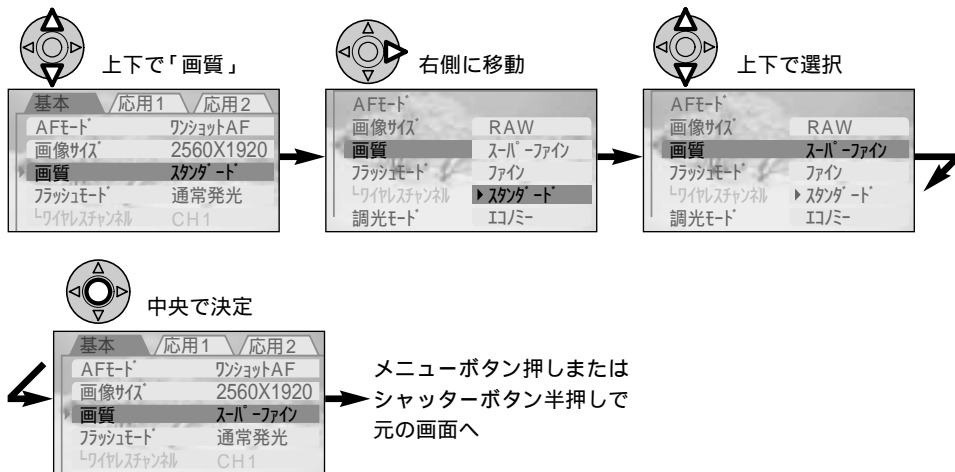
画質

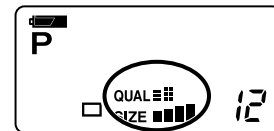
画像の圧縮率を指定することができます。5通りの中から選ぶことができます。

1.撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

撮影 MENU
基本 応用1 応用2
AFモード ワンショットAF
画像サイズ 2560X1920
画質 スタンダード
フラッシュモード 通常発光
└ワイヤレスチャンネル CH1
調光モード ADI調光

2.十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押しまたはシャッターボタン半押しで元の画面へ

画像の圧縮率によって画質が決まります。画像を圧縮しないとファイルサイズ（次ページ）が大きくなるため、デジタルカメラでは画像を圧縮して記録する方法が一般的です。このカメラでは、初期設定（スタンダード、STD.）で撮影するとJPEG形式で圧縮されます。

● 画質をスーパーファイン（TIFF）またはRAWにすると、撮影後コンパクトフラッシュカードに記録するのに数十秒かかることがあります。記録中は、液晶モニターやファインダーは消灯します。

上面データパネル	モニターファインダー	ファイル形式	説明
RAW QUAL	RAW	RAW（生データ）	より専門的な用途に合わせた加工を行なうための素材となる形式です。付属のディマージュソフトウェアCD-ROM内の DiMAGE Viewerでのみ開くことができます。→詳細はP.101
QUAL	スーパーファイン S.FIN	TIFF（非圧縮）	画像が圧縮されずに記録されます。パソコンに取り込んで編集する場合におすすめです。画質は最高ですがファイルサイズは大きくなります。
QUAL	ファイン FINE	JPEG（圧縮率小）	画像がJPEG（ジェイペグ）形式で圧縮されて記録されます。圧縮率が大きくなるほどファイルサイズは小さくなり、1枚のカードに記録できる枚数が増えます。JPEG形式で保存を繰り返すと、圧縮率が大きいほど画質は劣化します。いったん劣化した画質を撮影後にパソコン等で戻すことはできませんので、特に後で画像の加工や編集を行なう場合、画質設定は慎重に行なってください。
QUAL	スタンダード STD.	JPEG（圧縮率中）	
QUAL	エコノミー ECON.	JPEG（圧縮率大）	

ファイルサイズと撮影画像数について

画像サイズと画質によってファイルサイズが決まり、ファイルサイズと使用しているカードの容量によって1枚のカードに記録できる撮影画像数が決まります。ファイルサイズの目安と、例として16MBの1枚のCFカードに記録できる撮影画像数は以下の通りです。（RAW選択時は画像サイズは常に2560×1920になります）

● 下記の値は被写体によって異なるため、あくまでも目安とお考えください。

ファイルサイズ

	2560x1920	1600x1200	1280x960	640x480
エコノミー	約670KB	約390KB	約300KB	約160KB
スタンダード	約1.1MB	約620KB	約420KB	約200KB
ファイン	約2.1MB	約1.0MB	約680KB	約280KB
スーパーファイン	約14.1MB	約5.6MB	約3.6MB	約980KB
RAW	約9.5MB	—	—	—
動画	約250KB／秒			

16MB CFカード使用時の撮影画像数

	2560x1920	1600x1200	1280x960	640x480
エコノミー	約13コマ	約22コマ	約26コマ	約35コマ
スタンダード	約8コマ	約16コマ	約21コマ	約31コマ
ファイン	約5コマ	約11コマ	約15コマ	約27コマ
スーパーファイン	約1コマ	約2コマ	約3コマ	約11コマ
RAW	約1コマ	—	—	—
動画	約49秒			

RAWについて

デジタルカメラでは、被写体の映像を受け取る部分、すなわち通常のカメラのフィルムにあたる役割を果たすのがCCD（撮像素子）です。そのCCDに記録された、デジタル処理等の加工をしていないそのままのデータがRAW（ロー）形式のファイルです。これはJPEGやTIFFのような一般的なファイル形式でなく、より専門的な用途に合わせた加工を行なうための素材となる形式です。このカメラで撮影したRAW画像はミノルタ規格のRAW画像であり、付属のディマージュソフトウェアCD-ROM内の DiMAGE Viewer（ディマージュビューワー）※でのみ開くことができます。このソフトを使えば、RAWファイルを加工後、JPEGやTIFFのような一般的なフォーマットに変換することも可能です。

RAW形式の画像を撮影する際には、以下のような制限があります。

● 画像サイズの指定（P.96）はできません。常に最大サイズ（2560×1920）になります。
● デジタルズーム（P.87）、写し込み（P.114）、拡大再生（P.132）、プリント指定（P.148）はできません。
● 連続撮影（P.59）やUHS連続撮影（P.68）はできません。またデジタルエフェクトブラケット撮影（P.62）に設定していても、実際の撮影は1コマ撮影になります。
● ホワイトバランス（P.70）、コントラスト（P.84）、彩度（P.85）、カラーフィルター（P.86）、シャープネス（P.122）については、DiMAGE Viewerにて画像を表示させる際に再調整することができます。
● RAW画像にはJPEG等で行われている一般的な画像処理が加えられていないため、再生・クイックビュー・アフタービュー画面では色が正確に再現されません。データは正確に記録されているので、パソコン上では正しい色で再現されます。

※DiMAGE ViewerはMac OS 8.6には対応しておりません。また2002年3月現在、Mac OS Xにも対応しておりません。

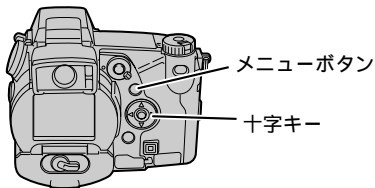
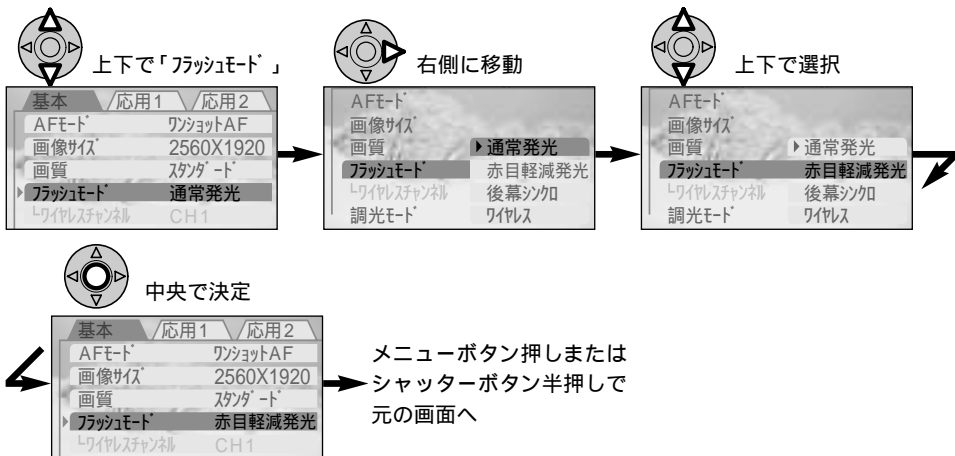
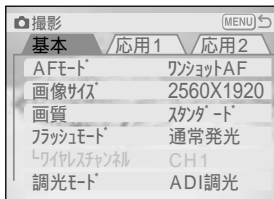
フラッシュモード

フラッシュモードを、通常発光、赤目軽減発光、後幕シンクロ、ワイヤレスフラッシュの中から選ぶことができます。

1.撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

撮影	MENU
基本 / 応用1 / 応用2	
AFﾓｰﾄﾞ	ﾜﾝｼｮｯﾄAF
画像ｻｲｽﾞ	2560X1920
画質	ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ
ﾌﾗｯｼｭﾓｰﾄﾞ	通常発光
└ﾜｲﾔﾚｽﾁｬﾝﾈﾙ	CH1
調光ﾓｰﾄﾞ	ADI調光

メニューボタン押しまたはシャッターボタン半押しで元の画面へ

- 内蔵フラッシュを上げていると、赤目軽減発光の場合は上面データパネルと液晶モニター／ファインダー内に◉が、後幕シンクロの場合は液晶モニター／ファインダー内にREARが、ワイヤレスフラッシュの場合は上面データパネルと液晶モニター／ファインダー内にWLが、それぞれ表示されます。

通常発光

内蔵フラッシュを上げていれば必ず発光します。初期設定は通常発光です。

◉ 赤目軽減発光

暗いところで人物を内蔵フラッシュで撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。赤目軽減発光では、撮影の直前に小光量のフラッシュが何回か発光し、この現象をやわらげることができます。

REAR 後幕シンクロ

通常発光では、シャッターが開いた直後にフラッシュが発光し、その後にフラッシュ光以外で照らされた部分が写ります。よってシャッター速度が遅い場合には、光の流れなどが不自然に写ることがあります。
後幕シンクロでは、先にフラッシュ光以外で照らされた部分が写り、最後にフラッシュが発光します。動いている被写体を低速のシャッター速度でフラッシュ撮影するときに用いると、光の流れや被写体の軌跡をより自然に描写することができます。

後幕シンクロ

通常発光

- プログラムセットボタンを押すと、後幕シンクロは解除され、通常発光または赤目軽減発光のうち最後に設定した方に戻ります。

ワイヤレスフラッシュ撮影

フラッシュをカメラに
取り付けて撮影（写真①）

ワイヤレスフラッシュ撮影
（写真②）

ワイヤレスフラッシュ撮影には、別売りのプログラムフラッシュ5600HS（D）、3600HS（D）のいずれかが必要です。

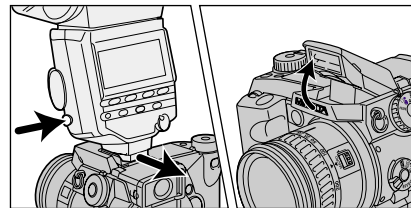
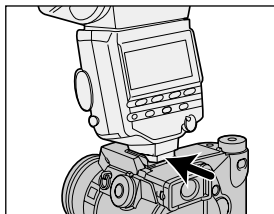
内蔵フラッシュで撮影したり別売りのフラッシュをカメラの上に取り付けて撮影すると、平面的な写真になることがあります（写真①）。このような場合にフラッシュをカメラから取り外して離して撮影すると（写真②）、フラッシュの位置を工夫することで、陰影を付けて立体感を出すことができます。
一般的にこのような撮影をする場合はカメラとフラッシュをコードで接続しなければならないことが多いのですが、このカメラではコードがなくてもこのような撮影ができます。これは、カメラとフラッシュの信号の伝達をコードではなく、フラッシュの光を利用して行なうことができるからです。この撮影をワイヤレス※フラッシュ撮影といいます。もちろん露出はカメラが自動で適正露出になるよう制御します。

※ワイヤレス＝Wireless（コードのない、の意味）

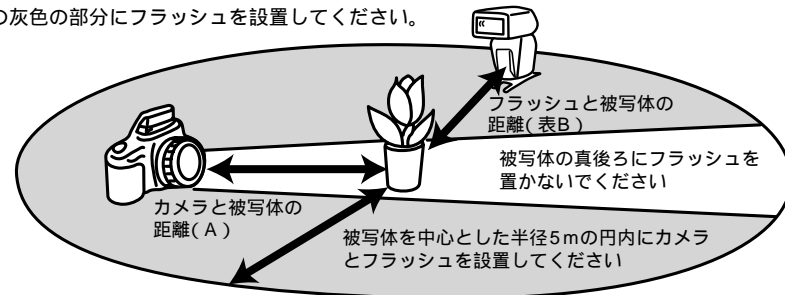
1.フラッシュをカメラに取り付け、両方の電源をONにします。

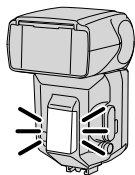
基本　応用1　応用2
AFﾓｰﾄﾞ　ﾜﾝｼｮｯﾄAF
画像ｻｲｽﾞ　2560X1920
画質　ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ
ﾌﾗｯｼｭﾓｰﾄﾞ　ﾜｲﾔﾚｽ
└ﾜｲﾔﾚｽﾁｬﾝﾈﾙ　CH1

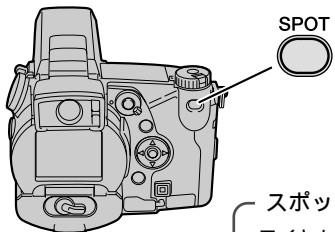
2.カメラをワイヤレスフラッシュ設定にします。→P.102

● WLの横の数字はチャンネルを表します。→P.107

3.フラッシュをカメラから取り外し、カメラの内蔵フラッシュを上げます。

4.カメラとフラッシュの位置を決めます。

このカメラは内蔵フラッシュの発光を信号として、カメラから離したプログラムフラッシュを発光させます。信号が正しく受け取れるよう、以下の点に気をつけてください。
● 室内など暗いところで撮影してください。
● 下図の灰色の部分にフラッシュを設置してください。

	5600HS（D）使用時				3600HS（D）使用時			
ﾌｨﾙﾑ感度	オート、ISO 200		ISO 100		オート、ISO 200		ISO 100	
絞り値	カメラー被写体（A）	フラッシュー被写体（B）	カメラー被写体（A）	フラッシュー被写体（B）	カメラー被写体（A）	フラッシュー被写体（B）	カメラー被写体（A）	フラッシュー被写体（B）
2.8	2－5m	1.4－5m	1.4－5m	1－5m	2－5m	1.4－5m	1.4－5m	1－5m
4	1.4－5m	1－5m	1－5m	0.7－5m	1.4－5m	1－5m	1－5m	0.7－5m
5.6	1－5m	0.7－5m	0.7－5m	0.5－5m	1－5m	0.7－5m	0.7－5m	0.5－3.5m

● ISO 400、800の場合は、A、Bとも最短距離が長くなります。
● Mモード撮影時はISO 100の値をお使いください。

5.カメラの内蔵フラッシュとプログラムフラッシュの充電完了を確認します。

- 内蔵フラッシュは、シャッターボタンを半押しして、液晶モニター／ファインダーのが白色になると充電完了です。
- プログラムフラッシュは、背面の が点灯し、前面のAF補助光が点滅すると充電完了です。

6.カメラのスポットAEロックボタンを押して、カメラから離したフラッシュが発光することを確認します（テスト発光）。

- 発光しない場合は、カメラ・フラッシュ・被写体の配置場所を変えてください。

スポットAEロックボタンの機能と操作を変更している場合

ワイヤレスフラッシュご使用の際には、メニュー設定のスポットAEロックボタンの機能と操作（P.110）を、「押す間AEL」または「再押しAEL」に設定しておくことをおすすめします。
ピント位置と測光値が同時にロックされる設定（押す間AF/AELまたは再押しAF/AEL）だと、ボタンを押してもテスト発光ができません。またボタンから指を離してもその機能が残る設定（再押しAEL）だと、最初に押すとテスト発光・測光値のロックを同時に行ない、2度目に押すとテスト発光せずにロックした測光値を解除します。

7.もう一度両方のフラッシュの充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- ワイヤレスフラッシュ撮影後は、P.104〜105の要領でワイヤレスフラッシュを解除しておいてください。ワイヤレスフラッシュ設定のまま内蔵フラッシュで撮影しても、適正露出が得られません。

ワイヤレスフラッシュのチャンネル

ワイヤレスフラッシュのチャンネルは、カメラとフラッシュの組み合わせを識別するためのものです。P.104〜105の方法でワイヤレスフラッシュを設定すると、設定すると同時にフラッシュのチャンネル情報がカメラに転送されます。撮影会などで近くに別にワイヤレスフラッシュ撮影をしている人がいて、その人の内蔵フラッシュの信号光でお使いのフラッシュが発光してしまうような場合は、フラッシュのチャンネルを変更してください。5600HS（D）の場合はCH-1〜4、3600HS（D）の場合はCH1または2の設定が可能です。フラッシュのチャンネルを変更後、再度フラッシュをカメラに取り付けてワイヤレス設定にすると、フラッシュのチャンネルがカメラに転送されます。

- カメラのメニュー内のワイヤレスチャンネル設定は、フラッシュとカメラを別々に設定する場合に使用します。→下記参照

フラッシュのワイヤレスチャンネルの変更方法
5600HS（D）の場合はカスタム設定で、3600HS（D）の場合はワイヤレスフラッシュボタンを押し続けて変更します。詳しくはフラッシュの使用説明書をご覧ください。

フラッシュとカメラを別々にワイヤレス設定にする

P.104〜105ではフラッシュをカメラに取り付けて設定する方法を説明しましたが、取り付けなくても別々にワイヤレス設定やワイヤレスのチャンネル設定を行なうこともできます。（フラッシュの操作方法については、詳しくはフラッシュの使用説明書をご覧ください。）

カメラのワイヤレス設定・ワイヤレスチャンネル設定
カメラのメニューで設定する（P.102の要領で「ワイヤレスチャンネル」を選んで変更する）。

フラッシュのワイヤレス設定
5600HS（D）：モードボタンで［TTL］または［M］を表示させた後、セレクトボタンで［WL］を点滅させ、＋または−ボタンで［WL On］を選択、セレクトボタンで確定。
3600HS（D）：ワイヤレスフラッシュボタンを押して、WL CH1またはCH2のランプを点灯させる。

フラッシュのワイヤレスチャンネル設定
5600HS（D）の場合はカスタム設定で、3600HS（D）の場合はワイヤレスフラッシュボタンを押し続けて設定する。

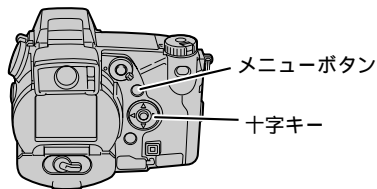
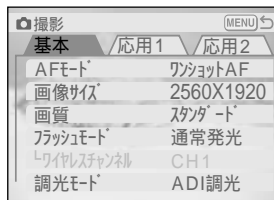
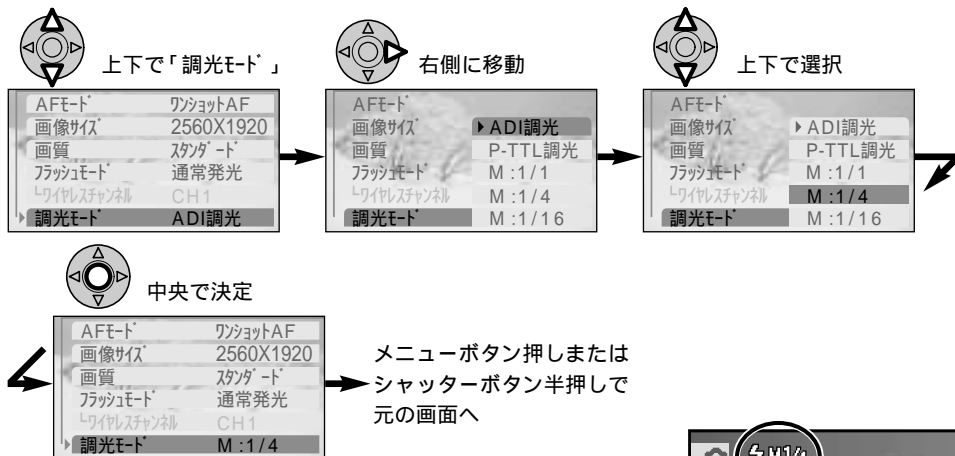
調光モード

フラッシュの調光モードを、ADI調光、P-TTL調光、マニュアル発光のいずれかに設定することができます。

ADI ＝ Advanced Distance Integrationの略
P-TTL ＝ Pre-flash, Through the lensの略

1. 撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押しまたはシャッターボタン半押しで元の画面へ

● マニュアル発光の場合は、液晶モニター／ファインダー内にMと発光量が表示されます。

ADI調光

撮影の直前にフラッシュを一度発光（プリ発光）させてその反射光を測光、被写体までの距離情報も合わせて調光演算に反映するため、被写体の反射率にほとんど影響されない正確な調光が可能です。初期設定はADI調光で、プログラムセットボタンを押してもこの設定に戻ります。

● 被写体とフラッシュ間の距離が定まらない場合（別売りのプログラムフラッシュでワイヤレスフラッシュ撮影・バウンス撮影・ケーブルを使ったオフカメラ撮影を行なう場合や、マクロツインフラッシュ2400・マクロリングフラッシュ1200使用時など）は、自動的にP-TTL調光になります。

P-TTL調光

ADI調光と同じく、撮影の直前にプリ発光が行われますが、被写体までの距離情報は加味されません。以下の場合はADI調光だと正確な距離情報が得られませんので、P-TTL調光に設定してください。

● プログラムフラッシュ3600HS（D）にワイドパネルを付けている場合
● フラッシュ発光部にディフューザーを付けている場合
● 露出倍数のかかるフィルター（ND等）使用時
● クローズアップレンズ使用時

マニュアル発光

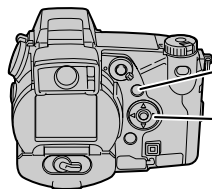
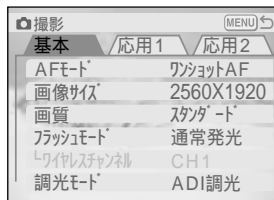
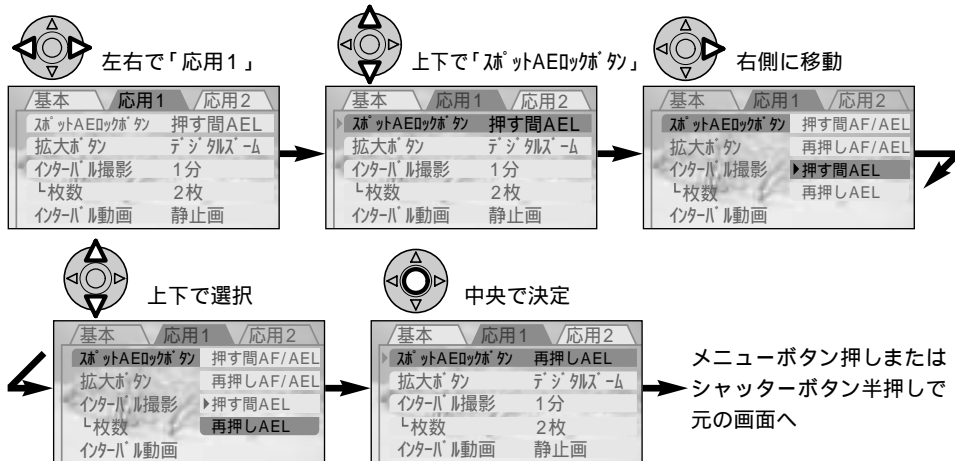
ADI調光やP-TTL調光では、被写体が適正露出になるようにフラッシュの発光量が自動的に調整されますが、マニュアル発光にすると、被写体の明るさに関係なく、常に一定の発光量を得ることができます（内蔵フラッシュでのみ可能）。

発光量は右の3つから選択することができます。プリ発光が行われないので、シャッターレリーズまでのタイムラグを短くしたい場合や、日中シンクロ撮影*などの補助フラッシュ、スレーブフラッシュ撮影**での信号光としてお使いください。

発光量	ガイドナンバー（ISO 100、m）
1/1	約8
1/4	約4
1/16	約2

*日中シンクロ撮影 ＝ 昼間の撮影で、太陽光を主としながら補助光としてフラッシュを発光させる撮影。
**スレーブフラッシュ撮影 ＝ 市販のスレーブユニットを使用、内蔵フラッシュ等を信号光として、他のストロボを発光させる撮影。

スポットAEロックボタンの機能と操作

スポットAEロックボタンの機能と操作方法を変更することができます。

1.撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

AF＝Autofocus（オートフォーカス）の略
AE＝Auto Exposure（自動露出）の略
L＝Lock（ロック、固定）の略

スポットAEロックボタンの機能には、ピント位置と測光値（シャッター速度と絞り値）の両方をロックするAF／AEL、測光値のみをロックするAELの2つがあります。操作方法には、押している間のみ機能する押す間、一度押して機能・再度押して解除という再押しの2つがあります。これらを以下の通り組み合わせることができます。

設定	機能	用途
押す間 AF／AEL	押し続けている間、ピント位置とその時の測光値がロック	スポットAEロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影してください。測光したいものとピントを合わせたいものが同じ場合に便利です。
再押し AF／AEL	一度押して放すと、ピント位置とその時の測光値がロック、再度押すと解除	シャッターを切るときにスポットAEロックボタンを押し続ける必要がありません。測光したいものとピントを合わせたいものが同じ場合に便利です。
押す間 AEL（初期設定）	押し続けている間、一時的にスポット測光になり、その時の測光値のみがロック（P／Aモードのフラッシュ発光時にはスローシンクロ撮影※になる）	スポットAEロックボタンを押したまま、シャッターボタンを押して撮影してください。測光したいものとピントを合わせたいものが異なる場合に便利です。
再押し AEL	一度押して放すと、一時的にスポット測光になり、その時の測光値のみがロック。再度押すと解除。（P／Aモードのフラッシュ発光時にはスローシンクロ撮影※になる）	シャッターを切るときにスポットAEロックボタンを押し続ける必要がありません。測光したいものとピントを合わせたいものが異なる場合に便利です。

＊スローシンクロ撮影 ＝ フラッシュが発光する夜景の撮影で、フラッシュ光の届かない背景も写るようシャッター速度を自動的に遅くした撮影。夜景ポートレートと似た効果が得られる。

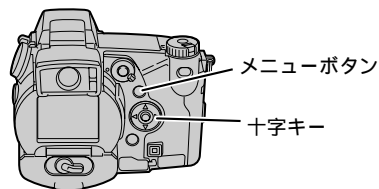
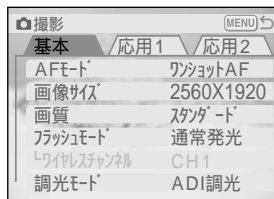
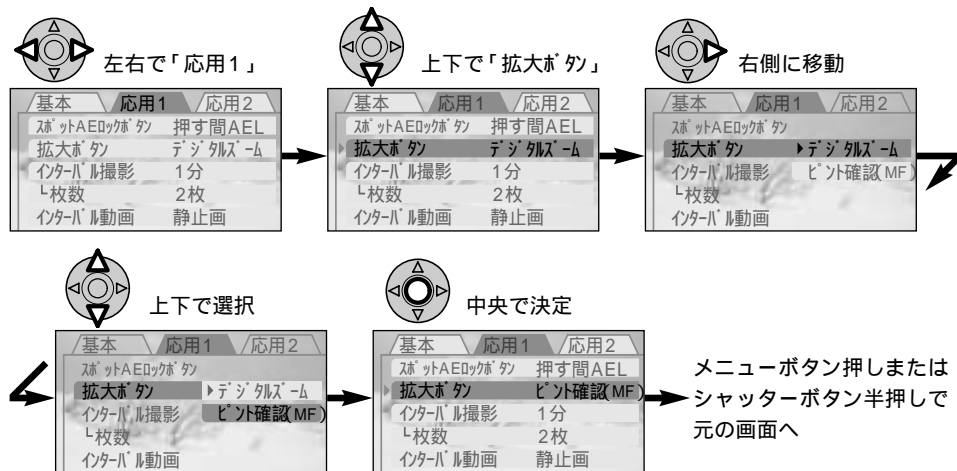
● 測光値がロックされている間は、液晶モニター／ファインダー内のシャッター速度と絞り値が黒く反転します。特に再押しを選んでいる場合は、解除し忘れのないようにしてください。

拡大ボタンの機能

拡大ボタンの機能を、デジタルズームまたはマニュアルフォーカス時のピント確認に変更することができます。

1.撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押しまたはシャッターボタン半押しで元の画面へ

デジタルズーム

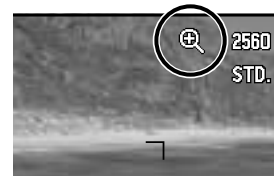
拡大ボタンを押すと、画像が2倍に拡大されます。そのまま撮影できます。→P.87

初期設定はデジタルズームです。

- 拡大ボタンを押してデジタルズームを設定すると、液晶モニター／ファインダー内にX2.0が表示されます。

マニュアルフォーカス時のピント確認

マニュアルフォーカス時（P.89）に拡大ボタンを押すと、画像の中央部を一時的に4倍に拡大します。正確にピントを確認する場合に使用します。撮影される画像は拡大前のものです。

- 拡大ボタンを押すとピント確認中となり、画像が4倍に拡大されます。液晶モニター／ファインダー内には🔍が表示されます。
- もう一度拡大ボタンを押すかシャッターボタンを半押しすると、元の拡大されない表示に戻ります。
- この機能はピントの確認用です。スポットAEロックボタンを押す等の露出関係の調整は、拡大しない状態で行なってください。
- オートフォーカス時には拡大ボタンを押しても何も起こりません。
- モニター自動感度アップ機能時（暗いところで液晶モニターが白黒になっているとき）には、拡大ボタンを押しても画像は拡大されません。

写し込み

撮影の年月日や任意の文字を、画像の右下に入れることができます。
初期設定では写し込みはされません。

おおよその
写し込み位置

年月日：　撮影の年月日が入ります（例：2002.4.29）。
月日時刻：　撮影の月日と時刻が入ります（例：4.29　15:36）。
文字：　任意のカタカナと英数字を用いて、最大16文字を写し込むことができます（例：ｺﾞｰﾙﾃﾞﾝｳｲｰｸﾉﾘﾖｺｳ）。
文字＋通し番号：任意のカタカナと英数字を用いて最大10文字と、5桁の通し番号を写し込むことができます（例：GW ﾘﾖｺｳ-00001）。

- 写し込みなしに設定していても、撮影時の年月日時刻は記録され、再生時には画面左下に表示されます。
- スーパーファイン（TIFF）画像、RAW画像、動画、およびウルトラハイスピード（UHS）連続撮影には写し込みできません。

※年月日や時刻、年月日の並びを変更するときは →P.192、193

写し込みを選択する

1.撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

撮影　MENU
基本　応用1　応用2

AFﾓｰﾄﾞ	ﾜﾝｼｮｯﾄAF
画像ｻｲｽﾞ	2560X1920
画質	ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ
ﾌﾗｯｼｭﾓｰﾄﾞ	通常発光
└ﾜｲﾔﾚｽﾁｬﾝﾈﾙ	CH1
調光ﾓｰﾄﾞ	ADI調光

2.十字キーで希望の設定を選びます。

左右で「応用2」

基本　応用1　応用2

写し込み	なし
ｶﾗｰﾓｰﾄﾞ	標準ｶﾗｰ
Ⓢｼｬｰﾌﾟﾈｽ	標準
ﾌﾞﾗｹｯﾄ段数	0.3段
ｱﾌﾀｰﾋﾞｭｰ	なし

上下で「写し込み」

基本　応用1　応用2

写し込み	なし
ｶﾗｰﾓｰﾄﾞ	標準ｶﾗｰ
Ⓢｼｬｰﾌﾟﾈｽ	標準
ﾌﾞﾗｹｯﾄ段数	0.3段
ｱﾌﾀｰﾋﾞｭｰ	なし

右側に移動

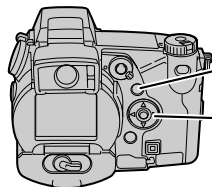
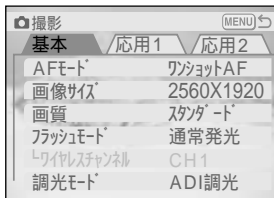
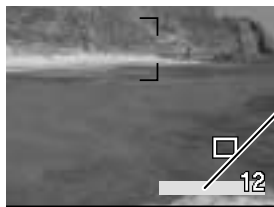
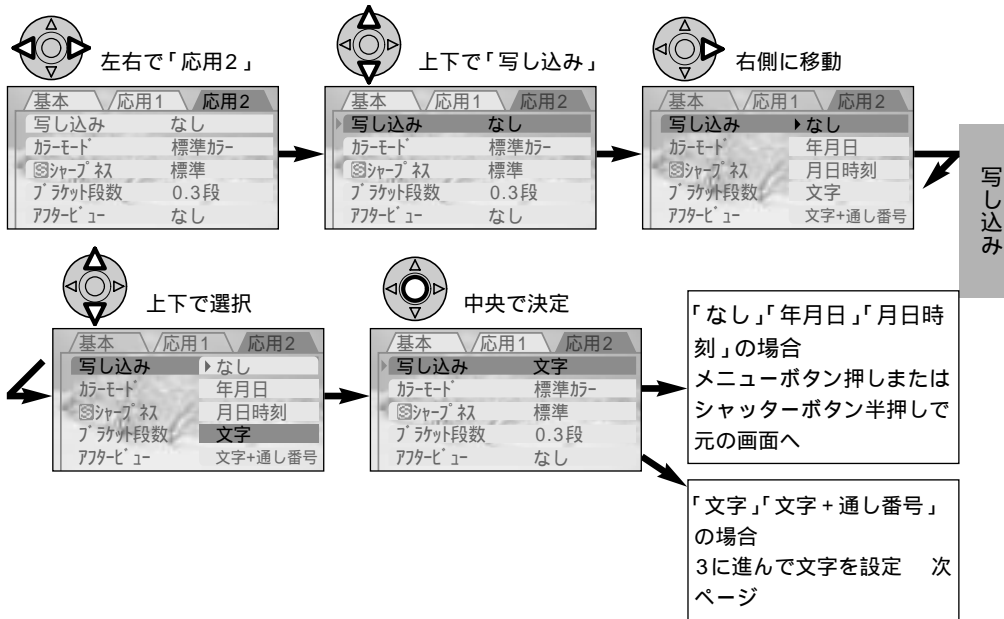
上下で選択

中央で決定

基本　応用1　応用2

写し込み	文字
ｶﾗｰﾓｰﾄﾞ	標準ｶﾗｰ
Ⓢｼｬｰﾌﾟﾈｽ	標準
ﾌﾞﾗｹｯﾄ段数	0.3段
ｱﾌﾀｰﾋﾞｭｰ	なし

「なし」「年月日」「月日時刻」の場合
メニューボタン押しまたはシャッターボタン半押しで元の画面へ

「文字」「文字＋通し番号」の場合
3に進んで文字を設定 →次ページ

- 写し込みありのときは、液晶モニター／ファインダー右下に黄色のバーが表示されます。

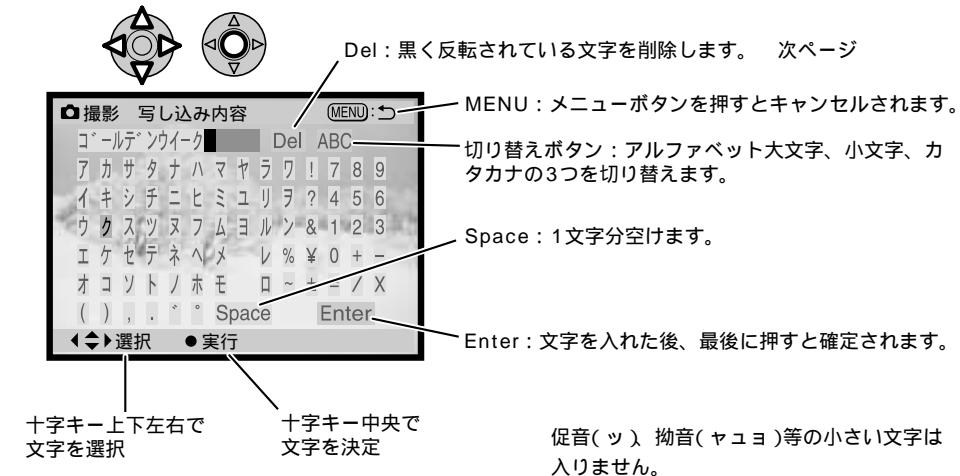
次ページへ続く

写し込みの文字を設定する

3.前ページの2で中央の実行ボタンを押すと、アルファベット（大文字）と数字の一覧が表示されます。写し込み文字切り替えボタンを押して、希望の文字の種類を選びます。

●切り替えボタンを押すたびに、アルファベット（大文字）→ アルファベット（小文字）→ カタカナ、の順に切り替わります。

4.十字キーの上下左右で文字を選択し、中央の実行ボタンで文字を1つずつ確定して行きます。

●促音（ッ）、拗音（ャュョ）等の小さい文字は入りません。

文字の種類の切り替え

入力の途中でも、切り替えボタン（ABC、abc、JPNのいずれか）を押すと文字の種類を切り替えることができます。

入力した文字の削除

1. カーソルを入力済み部分（前ページの場合は「ｺﾞｰﾙﾃﾞﾝｳｲｰｸ」）に移動させます。
2. 十字キーの左右で、削除したい文字を黒く反転させます。
3. 十字キーの下側を押して「Del」を反転させ、十字キーの中央を押して削除を実行します。

文字の上書き

1. カーソルを入力済み部分（前ページの場合は「ｺﾞｰﾙﾃﾞﾝｳｲｰｸ」）に移動させます。
2. 十字キーの左右で、上書きしたい部分を黒く反転させます。
3. 十字キーの下側を2回押して、数字またはアルファベットのところまでカーソルを移動させます。
4. 上書きする文字を選び、十字キーの中央を押して上書き文字を決定します。

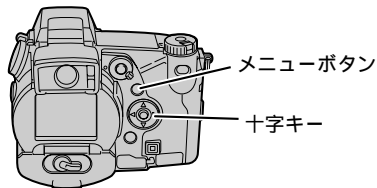
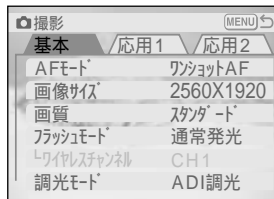
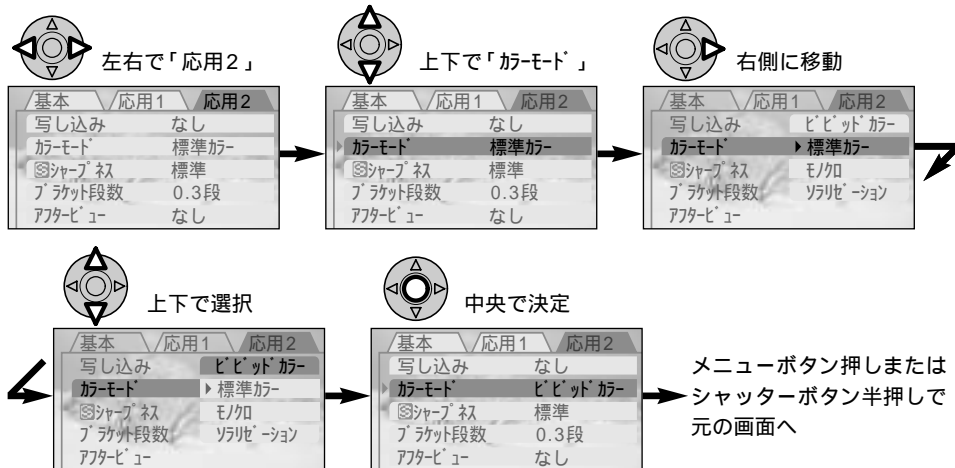
5.文字を入れ終わると、「Enter」を選び、十字キー中央の実行ボタンで確定させます。

●実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、入力した文字はキャンセルされます。

●「文字＋通し番号」の場合、通し番号は00001から始まります。変更することはできません。文字を変更すると、通し番号も自動的に00001にリセットされます。

6.メニューボタンを押すかシャッターボタンを半押しして、元の画面に戻ります。

カラーモード

撮影する画像の色を、標準カラー、ビビッドカラー、モノクロ、ソラリゼーションの中から選ぶことができます。

1.撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

● カラーモードの設定は静止画のみに有効です（動画には影響しません）。

標準カラー

24bitの通常のカラー画像として記録されます。初期設定は標準カラーです。

ビビッドカラー

24bitのカラー画像ですが、標準カラーより色が鮮やかに再現されます。彩度補正ではすべての色の彩度が上がるのに対し、ビビッドカラーでは彩度の高い部分の明るさがより強調されます。

- ビビッドカラーにすると、液晶モニター／ファインダーに VIVID が表示されます。
- 彩度が高い被写体の場合、ビビッドカラーにすると再現できる限界を超えてしまうことがあります。

※裏表紙C-1 カラー写真参照

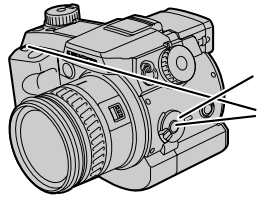
モノクロ

8bitの白黒画像として記録されます。

- モノクロにすると、液晶モニター／ファインダーに BW が表示されます。
- モノクロにしてもファイルサイズはカラーと同じです。
- フィルター効果により、セピア色などの画像を得ることができます。→次ページ

モノクロでのフィルター効果

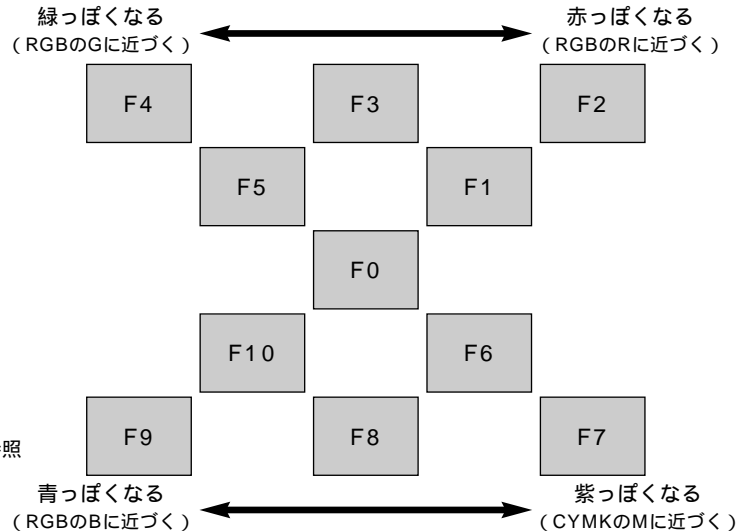
モノクロ画像にフィルター効果をかけると、色調が調整され、セピア色などの画像を得ることができます。

※カラー画像のフィルター効果について →P.86

1. P.118の要領で、カラーモードをモノクロにします。

2. デジタルエフェクトレバーを回して FIL を選びます。

3. デジタルエフェクトボタンを押したままダイヤルを回して、希望の設定を選びます。

● 以下の11種類の中から選ぶことができます。F0が通常のモノクロ画像です。

※裏表紙C-2
カラー写真参照

● F0以外に設定すると、液晶モニター／ファインダーに F と数値が表示されます。

● ブラケット撮影（P.62）を行なうと、選んだ番号、－側、＋側の順に3枚撮影されます。例えばF0から開始するとF0、F10、F1の順に、F3から開始するとF3、F2、F4の順に撮影されます。

ソラリゼーション

ソラリゼーション

標準カラー

※裏表紙C-2 カラー写真参照

極端に明るい部分の色が補色（反対の色彩）に反転されます。ネガフィルムとポジフィルムが混在したような特殊効果を得ることができます。

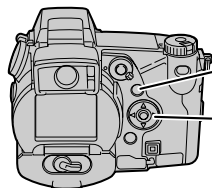
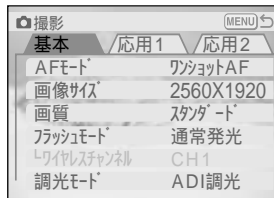
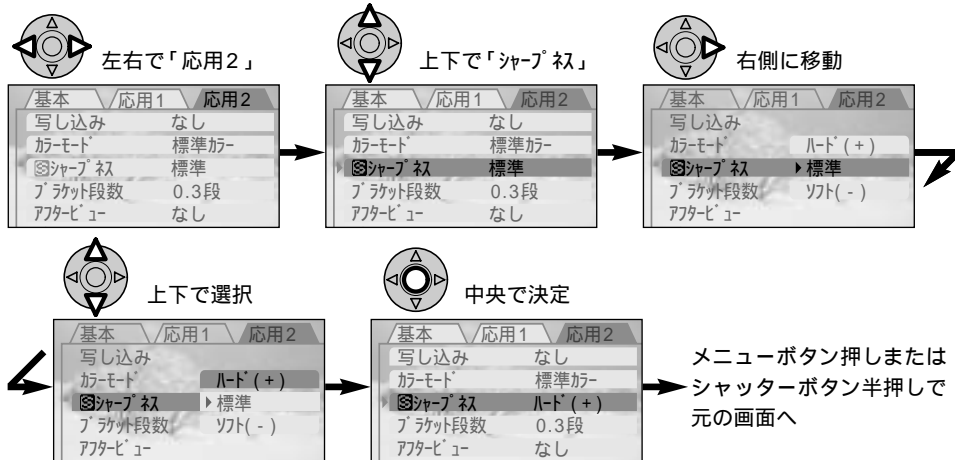
● ソラリゼーションにすると、液晶モニター／ファインダーに SOL が表示されます。

● コントラスト補正、彩度補正、フィルター効果の設定はできません。

シャープネス

撮影する画像のシャープネス（鮮鋭度）を調整することができます。

- 画質でスタンダード等JPEGを選択した場合、圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。3段階の補正が可能です。

ハード（＋）： 輪郭が明確に表現され、くっきりとした鮮明な画像になります。
標準： 標準的な鮮明さの画像になります。初期設定は標準です。
ソフト（－）： 輪郭のやわらかな画像になります。

1. 撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

2. 十字キーで希望の設定を選びます。

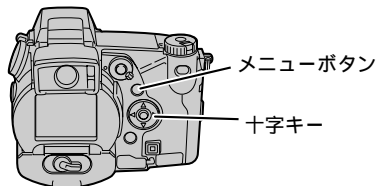
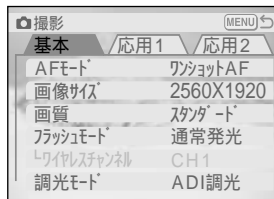
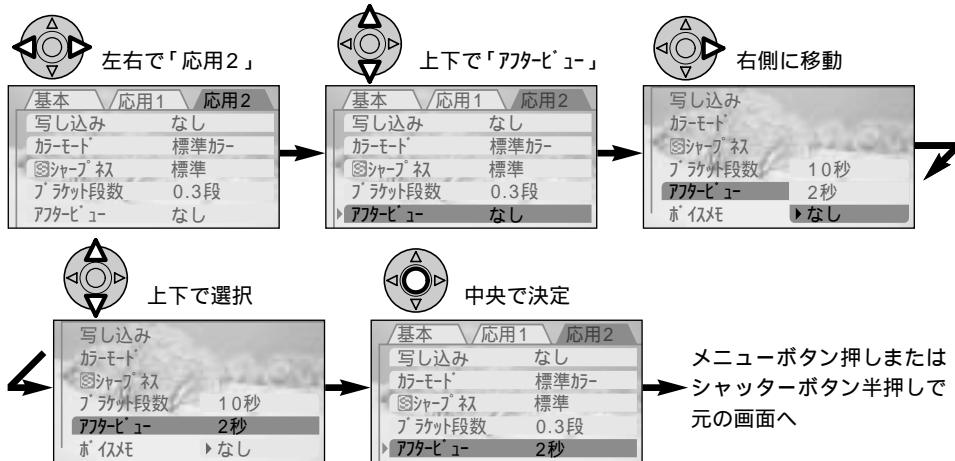
- 標準以外に設定すると、液晶モニター／ファインダーには Ⓢ と＋または－が表示されます。

アフタービュー

撮影直後に、撮影した画像を確認したり消去したりすることができます。

1.撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

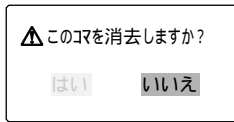
2.十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押しまたはシャッターボタン半押しで元の画面へ

アフタービューなし

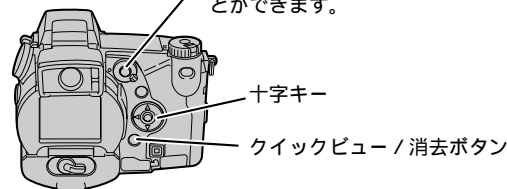
撮影後、すぐに画像が保存され、ライブビュー画面（その時にレンズが向けられている被写体が画面に表示される）に戻ります。初期設定はアフタービューなしです。

アフタービュー2秒／10秒

撮影後、約2秒間または約10秒間撮影した画像が表示され、その後自動的に保存されます。アフタービュー中に消去や保存をすることもできます。

消去するときは、左の画面が現れている間にクイックビュー／消去ボタンを押してください。
右の画面が出たら十字キーの左側で「はい」を選んで、中央の実行ボタンを押すと消去されます。

表示切り替えボタンで表示の有無を切り替えることができます。

保存するときは、左上の画面が現れている間に、十字キー中央の実行ボタンを押してください。

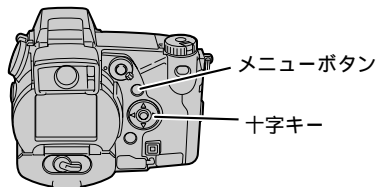
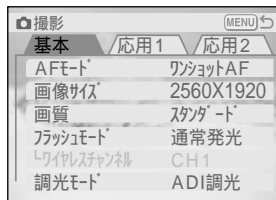
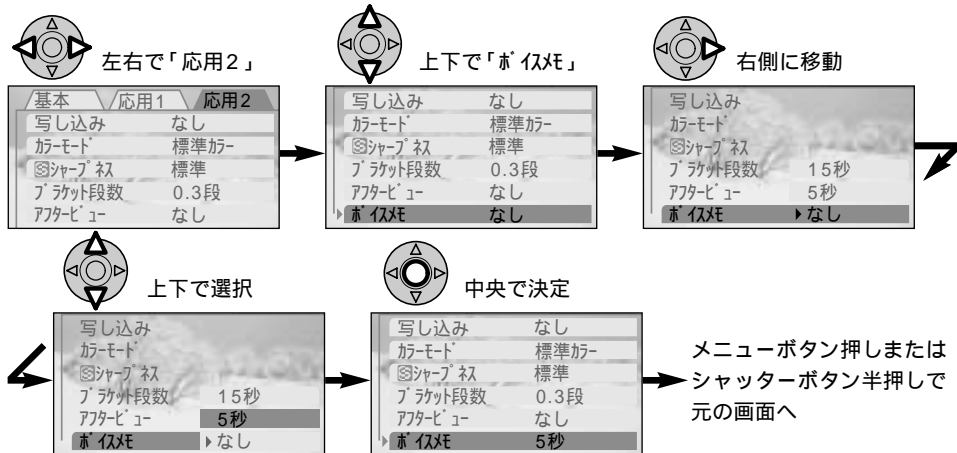
- 2秒／10秒経過後、またはシャッターボタンの半押しでも自動的に保存されます。

- 連続撮影やブラケット撮影時にアフタービューありにすると、インデックス表示（画面に9コマまたは4コマが同時に表示される）になります。ウルトラハイスピード撮影時の場合は最後の1コマのみの表示になります。いずれも上の画面で消去すると、一連のコマがすべて消去されます。

ボイスメモ

撮影した画像に、5秒間または15秒間の音声メモを付けることができます。撮影のメモ代わりなどにお使いいただけます。撮影直後に録音が始まります。

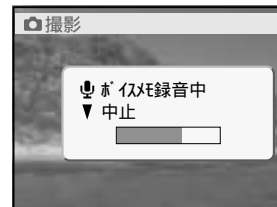
1.撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

撮影 MENU
基本 応用1 応用2

AFモード	ワンショットAF
画像サイズ	2560X1920
画質	スタンダード
フラッシュモード	通常発光
└ワイヤレスチャンネル	CH1
調光モード	ADI調光

2.十字キーで希望の設定を選びます。

● ボイスメモを設定すると、液晶モニター／ファインダーには が表示されます。

操作方法

1.撮影します。

● 直後に右の画面が現れ、録音が始まります。

2.マイクに向かって話します。

● マイクから20cmくらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。

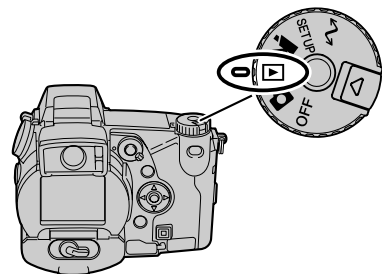
● 5秒間または15秒間経過すると、録音は自動的に終了します。

● 音声を再生するには、再生モードで画像を表示させ、十字キー中央の実行ボタンを押してください。→P.129

● 録音を中止するときは、十字キーの下またはシャッターボタンを押してください。それまで録音されていた内容も消去されます。

● アフタービュー（P.124）設定時は、アフタービュー表示後すぐに録音が始まります。

● 連続撮影、ウルトラハイスピード連続撮影、ブラケット撮影の場合は、最終コマにのみボイスメモを付けることができます。動画やインターバル撮影に付けることはできません。

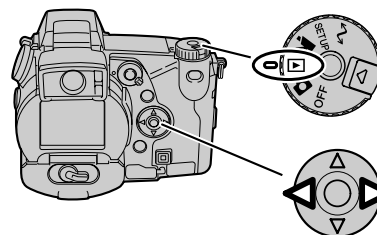
再生モード

この章では、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルが ▶ 位置（再生モード）にあるときの各種設定について説明しています。

● ダイヤルをOFFの位置から動かす場合は、ロック解除ボタンを △ の方向に押しながらダイヤルを回します。

ダイヤルを ▶ 位置（再生モード）にしていると、ファインダー／液晶モニター内の左上に ▶ が現れます。

PLAY

上面データパネルには、PLAYの文字が現れます。

1コマ再生

再生モードにすると、撮影した画像が液晶モニター／ファインダー内に表示されます。

十字キーの左右で、見たい画像を選びます。

古い画像　　新しい画像

● 十字キーを押し続けると、画像が早送りされます。
● 最新画像を表示中に十字キーの右を押すと、最も古い画像に戻ります。逆も同様です。
● クイックビューでも同様の操作ができます。撮影しながら画像を確認する際に便利です。→P.36

※再生モードとクイックビューの違いについて →P.133

音声（ボイスメモ）付き画像の再生

液晶モニター／ファインダーに ♪ が表示されている画像には、ボイスメモ（P.126）が付いています。音を再生するには、十字キー中央の実行ボタンを押してください。

● 音の再生を途中で止めるときは、十字キーの下を押してください。

16:06
2002.04.29

※ボイスメモの音量を変えるには →P.172

画面表示の切り替え（▶再生モード時）

再生モード時およびクイックビュー時には、表示切り替えボタン、十字キー、拡大ボタンにより、以下の通り画面の切り替えができます。

表示切り替えボタン
十字キー
拡大ボタン

1コマ再生（撮影データあり）
十字キー左右でコマを選択

十字キー上
十字キー下

表示切り替えボタン

ヒストグラム（輝度）表示
十字キー左右でコマを選択

1コマ再生（表示なし）
十字キー左右でコマを選択

拡大ボタン

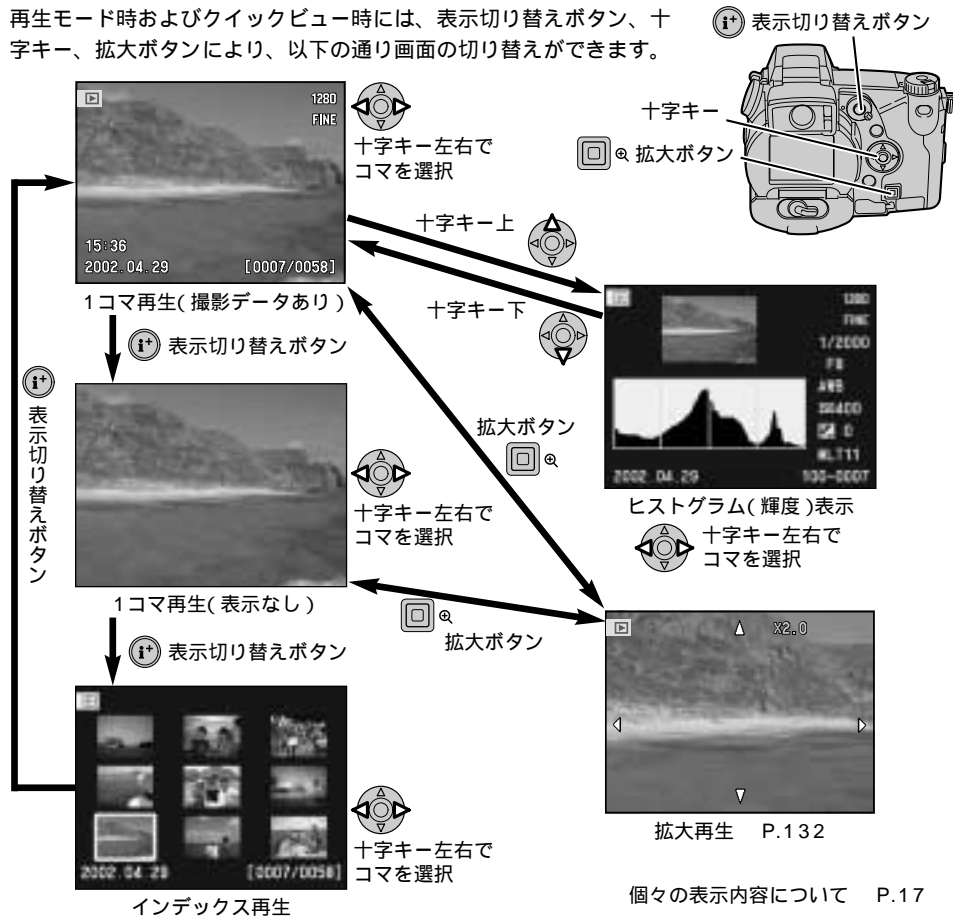
表示切り替えボタン

拡大ボタン

拡大再生 →P.132

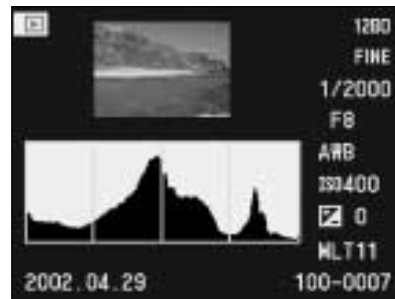
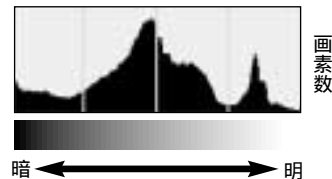
インデックス再生
十字キー左右でコマを選択

表示切り替えボタン

※個々の表示内容について →P.17

インデックス再生

9コマ分を一度に液晶モニター／ファインダーに表示します。十字キーの左右でコマの移動ができます。見たい画像をすばやく探したいときに便利です。

- 一度に再生されるコマ数を9コマから4コマにすることもできます。→P.144
- インデックス中に動画が含まれる場合は、動画開始時の画像が静止画として現れます。

ヒストグラム（輝度）表示

画像のヒストグラム（輝度分布）と撮影データが表示されます。
1コマ再生時およびクイックビュー中に、
・十字キーの上側を押すとヒストグラム表示になります。
・下側を押すと元に戻ります。
・左右キーを押すとコマを選択することができます。

- 動画のヒストグラム表示はできません。左右キーでコマを選択中にいったん動画を表示させると、次からはすべての画像が1コマ再生に戻ります。
- 撮影前にヒストグラムを確認することもできます（フラッシュ光は反映されないのでフラッシュ非発光時のみ有効、詳しくは →P.40）。

拡大再生

再生モードおよびクイックビュー中に、画像の一部を拡大することができます。

1.再生モード位置またはクイックビュー中に、拡大ボタンを押します。

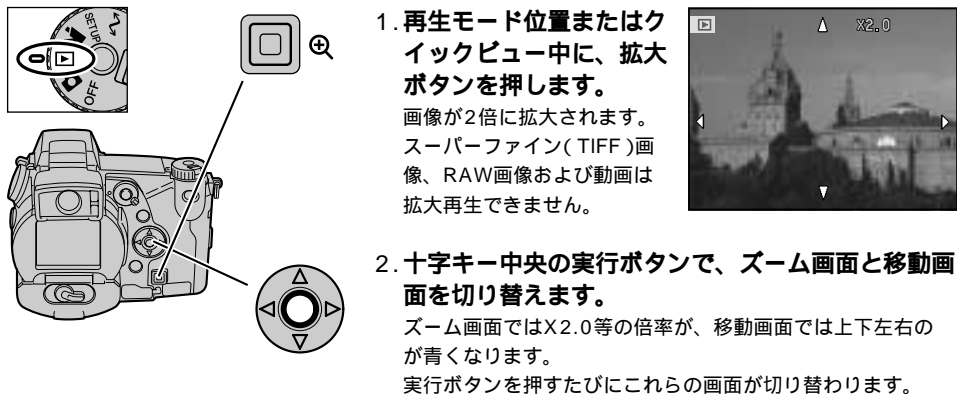
- 画像が2倍に拡大されます。
- スーパーファイン（TIFF）画像、RAW画像および動画は拡大再生できません。

2.十字キー中央の実行ボタンで、ズーム画面と移動画面を切り替えます。

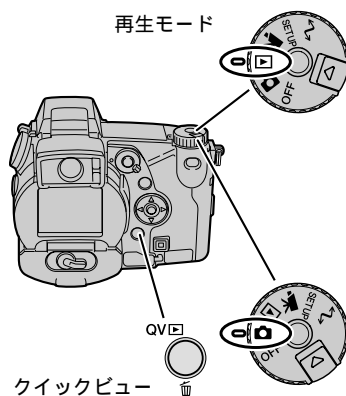
- ズーム画面ではX2.0等の倍率が、移動画面では上下左右の△が青くなります。
- 実行ボタンを押すたびにこれらの画面が切り替わります。

ズーム画面では、十字キーの上下で倍率を選ぶことができます。

- 1.2倍〜4倍の範囲内で、0.2倍ごとに倍率が選択できます（画像サイズ640×480時には1.2倍〜2倍のみ）。押し続けると早送りされます。

移動画面では、十字キーの上下左右で表示エリアを移動させることができます。

3.もう一度拡大ボタンを押すと、通常の1コマ再生に戻ります。

- アクセスランプが点灯している間は、拡大再生はできません。

再生モードとクイックビューの違い

再生モードでは再生関係の全機能が使えますが、クイックビューはあくまでも撮影途中に手軽に撮影した画像を確認するためのものであり、その機能には制限があります。

クイックビュー時には、

- ボイスメモの再生、インデックス再生、ヒストグラム表示、拡大再生は可能です。
- 動画の再生はできません。
- 全コマ消去やスライドショーなど、再生メニューの機能を使うことはできません。

画像をテレビで見る

付属のAVケーブルAVC-300でカメラとテレビを接続して、撮影した画像をテレビに映して見ることができます。

1.テレビとカメラの電源を切ります。

2.カメラ背面の端子カバーを開け、AVケーブルのミニプラグ側をAV出力端子に差し込みます。

3.AVケーブルのもう一方の、黄色のプラグをテレビのビデオ入力端子（通常は黄色）に、白色のプラグを音声入力端子（通常は白色）に差し込みます。

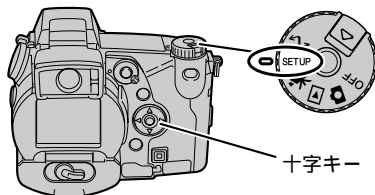
4.テレビの電源を入れ、テレビの［テレビ／ビデオ切替］などで、ビデオ入力端子からの入力に切り替えます。

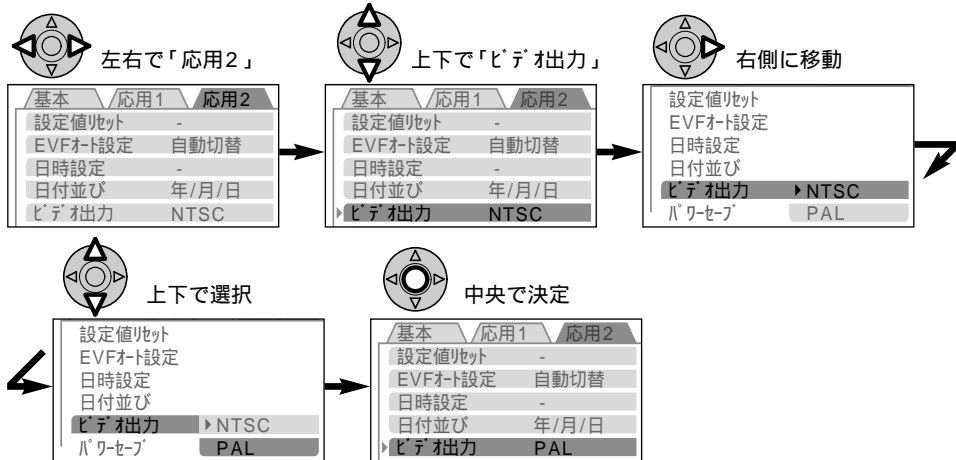
- 詳しくはお使いのテレビの使用説明書をご覧ください。

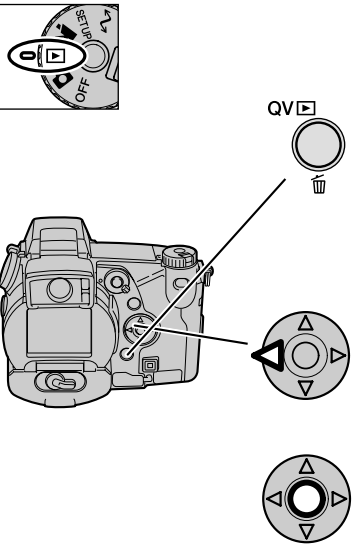
5.カメラのメインスイッチ／モードダイヤルを▶位置（再生モード）に合わせます。

- 上記の操作で、カメラの液晶モニターやファインダーに現れる画像が、そのままテレビに映ります。通常の再生モードと同様に表示の切り替えや音声の再生等行なうことができます。
- 音声はテレビ側から再生されます。
- カメラ背面の液晶モニターやファインダーは点灯しません。
- テレビに映る画像はパソコンの画像と比べると、システムの違いにより画質が多少劣化します。
- 上記の操作で万一画像がテレビに映らない場合は、ビデオ出力形式を確認してください。→次ページ

ビデオ出力形式の切り替え

ビデオの信号形式には数パターンがあり、国によって異なります。日本やアメリカ等ではNTSC、ヨーロッパの多くの国々ではPALが採用され、両者の間には互換性がありません。このカメラの画像を日本国外のテレビで見る際には、その国に合わせた信号形式に設定してください。
このカメラでは、NTSCとPALの2つの設定が可能です。

1.セットアップモード位置にします。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

画像を手早く消去する

再生モード位置またはクイックビュー中に、画像を1コマずつ簡単に消去することができます。

1.再生モード位置またはクイックビューで、消去したい画像を表示させます。

2.クイックビュー／消去ボタンを押します。

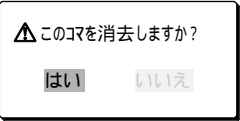
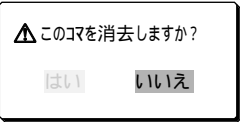
●右の画面が現れます。

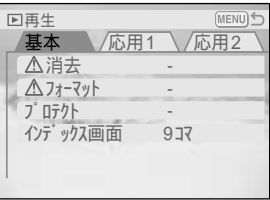
●消去しない場合は、この状態で十字キー中央の実行ボタンを押してください。

⚠このコマを消去しますか？
はい　いいえ

3.十字キー左側で「はい」を選びます。

4.十字キー中央の実行ボタンを押します。

●選んだ画像が消去され、再生モードまたはクイックビューに戻ります。

※複数の画像をまとめて消去するときは →P.138

再生モード時のメニュー設定

メインスイッチ／モード切り替えダイヤルが ▶ 位置（再生モード）にあるときにメニューボタンを押すと、以下の設定が可能です。メニューボタンと十字キーを使って設定します。

タブ	項目	設定	ページ
基本	消去	○このコマ、全コマ、コマを指定	138
	フォーマット	実行する	140
	プロテクト	○このコマ、全コマ、コマを指定、全コマ取り消し	142
	インデックス画面	○9コマ、4コマ	144
応用1	スライドショー	実行する	145
	（スライドショー）再生画像	○全コマ、コマを指定	146
	（スライドショー）間隔	1〜4秒、○5秒、6〜60秒	146
	（スライドショー）繰り返し	○しない、する	146
応用2	プリント指定	○このコマ、全コマ、コマを指定	148
	（プリント指定）インデックスプリント	○しない、する	151
	（プリント指定）取り消し	○フォルダ内全コマ、カード内全コマ	152
	画像コピー	○このコマ、コマを指定	153

○印は初期設定値です。

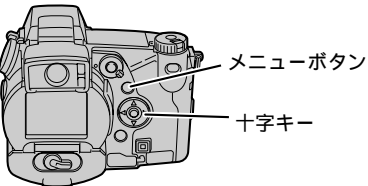
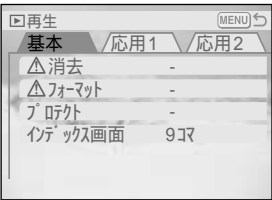
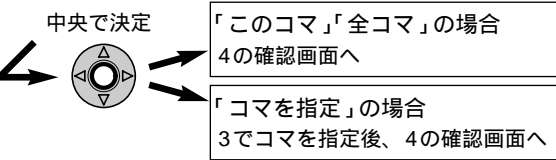
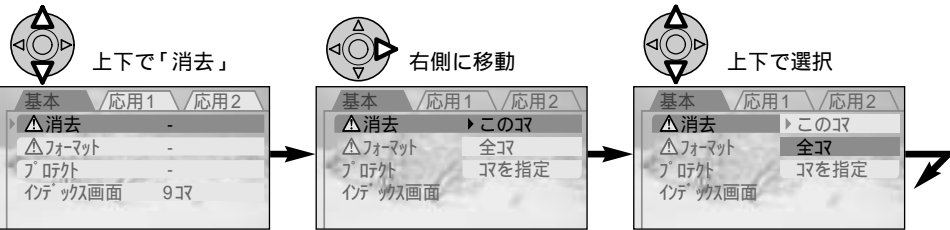
画像の消去

画像を消去します。以下の3通りの消去方法があります。
1コマ消去（このコマ）：再生中の画像を1コマだけ消去します。
全コマ消去：　フォルダ内の画像すべてを消去します。
コマを指定：　指定した画像だけを消去します。
※1コマずつ手早く消去する方法もあります。撮影モードでは →P.37、再生モードでは →P.136

いったん消去した画像を復活させることはできません。

1.再生モード位置で、メニューボタンを押します。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

「このコマ」「全コマ」の場合
4の確認画面へ

「コマを指定」の場合
3でコマを指定後、4の確認画面へ

3.「コマを指定」の場合、十字キーで消去するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

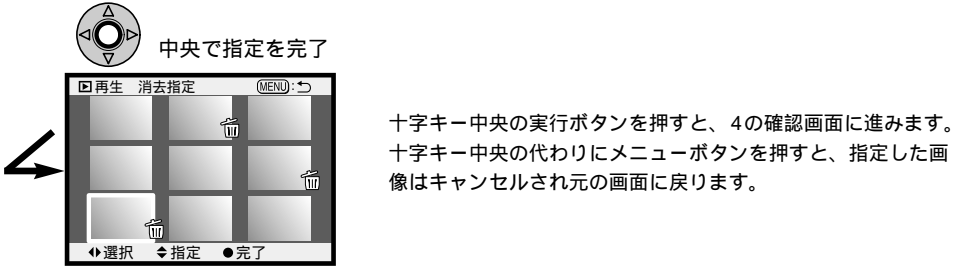
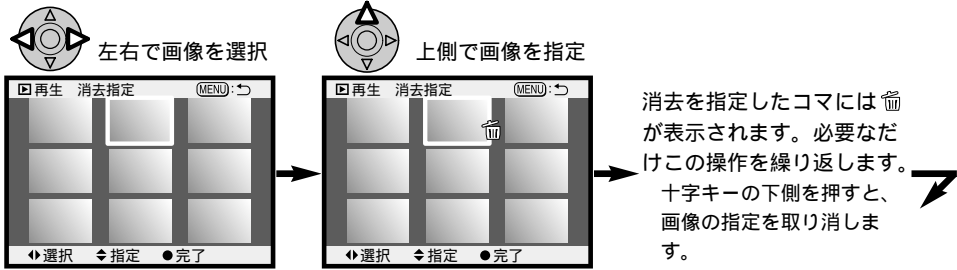
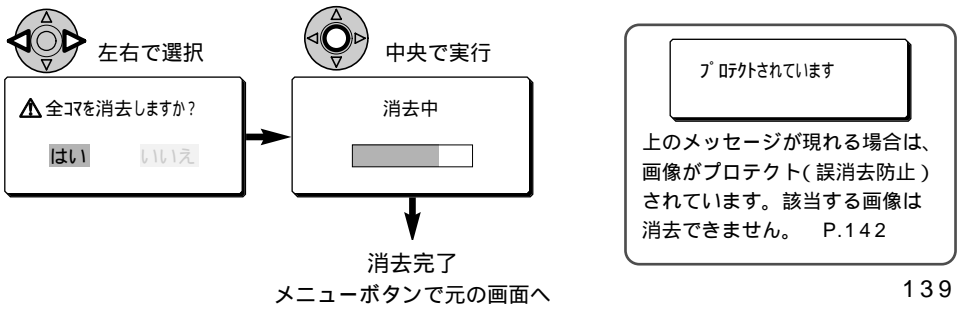
消去を指定したコマには 🗑 が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。
- 十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、4の確認画面に進みます。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

4.確認後、消去します。（下図は全コマ消去の場合）

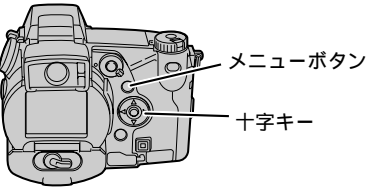
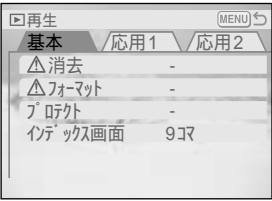
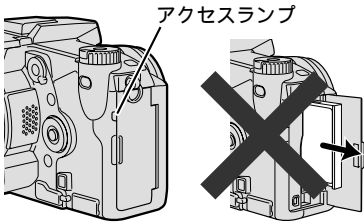
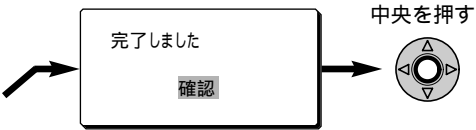
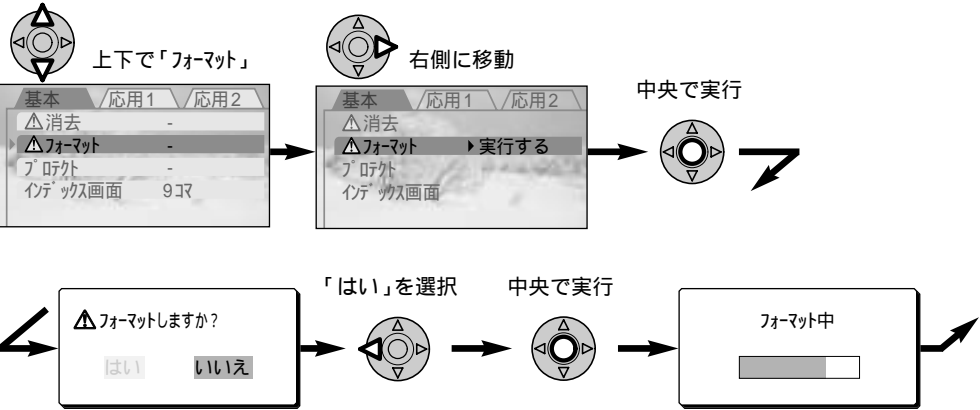
消去完了
メニューボタンで元の画面へ

プロテクトされています

上のメッセージが現れる場合は、画像がプロテクト（誤消去防止）されています。該当する画像は消去できません。→P.142

CFカードのフォーマット（初期化）

カード内の画像やフォルダをすべて消去するときには、CFカード（コンパクトフラッシュカード、以下カード）のフォーマットが便利です。

フォーマットを行なうと、プロテクトをかけた画像も含めてすべての画像が消去されます。

1.フォーマットするカードをカメラに入れます。

2.再生モード位置で、メニューボタンを押します。

3.十字キーでカードのフォーマットを行ないます。

● フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中はカードを抜かないでください。

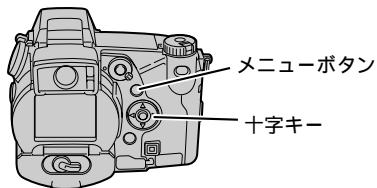
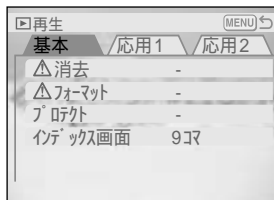
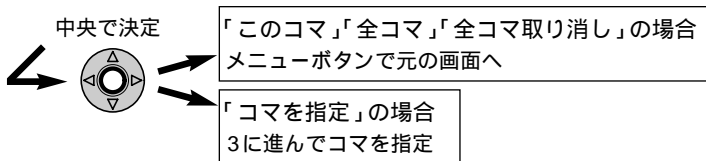
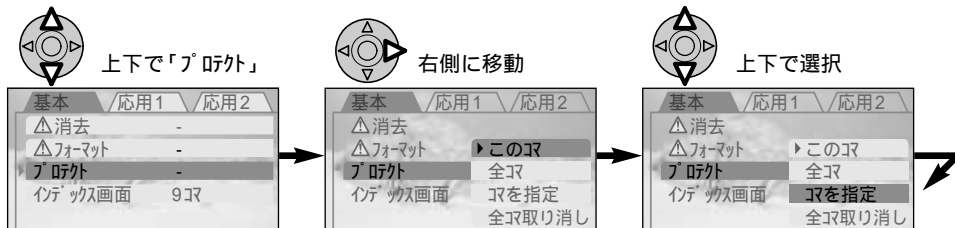
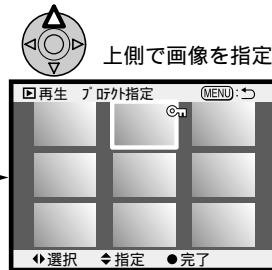
プロテクト（誤消去防止）

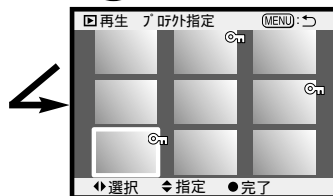
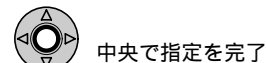
撮影した画像をロックし、間違って消去しないようにすることができます。以下の4通りのプロテクト方法があります。

1コマプロテクト（このコマ）：再生中の画像1コマだけにプロテクトをかけます。
1コマだけプロテクトを取り消す場合にも使用します。
全コマプロテクト：　フォルダ内の画像すべてにプロテクトをかけます。
プロテクトするコマを指定：　指定した画像だけにプロテクトをかけます。
全コマプロテクト取り消し：　フォルダ内の画像すべてのプロテクトを取り消します。

1.再生モード位置で、メニューボタンを押します。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

「このコマ」「全コマ」「全コマ取り消し」の場合
メニューボタンで元の画面へ

「コマを指定」の場合
3に進んでコマを指定

3.「コマを指定」の場合、十字キーでプロテクトをかける（または取り消す）コマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

プロテクトを指定したコマには ![key] が表示されます。
必要なだけこの操作を繰り返します。

- 十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、プロテクトが完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

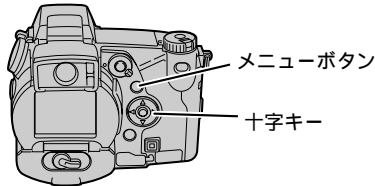
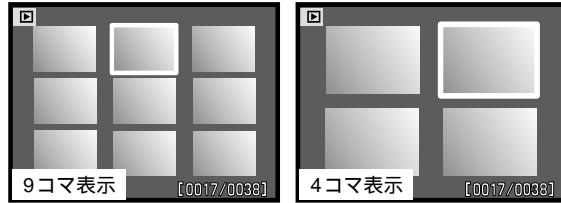
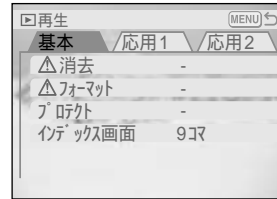
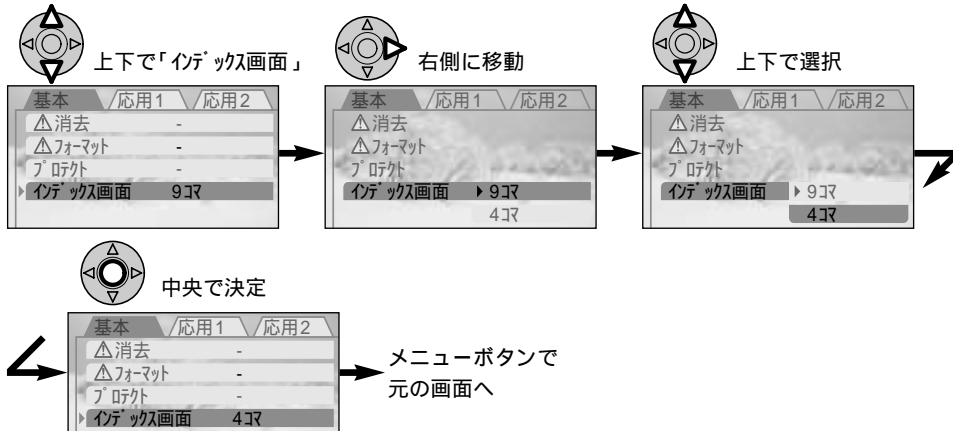
- 再生時、プロテクトのかかった画像には、液晶モニター／ファインダー内に ![key] が表示されます。

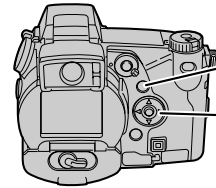
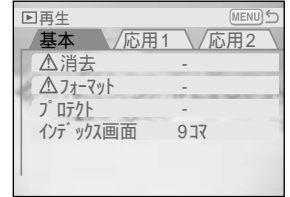
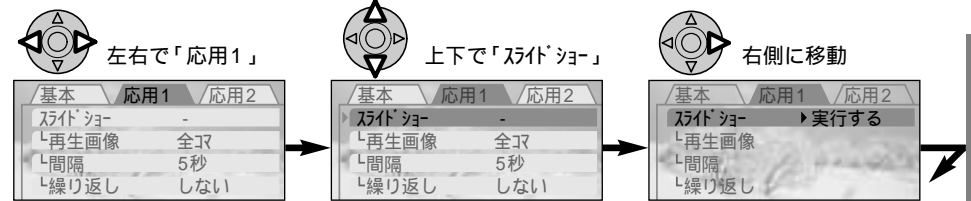
インデックス画面の切り替え

インデックス画面を、9コマ表示または4コマ表示に設定することができます。初期設定は9コマ表示です。

1.再生モード位置で、メニューボタンを押します。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタンで元の画面へ

スライドショー（画像の自動再生）

カードに記録されている画像を、自動的に順番に表示させることができます。初期設定では、フォルダ内のすべての画像が最初から順に5秒ずつ表示されます。

1.再生モード位置で、メニューボタンを押します。

2.十字キーでスライドショーを開始させます。

スライドショーが開始されます。

- スライドショー実行中に十字キーの中央を押すと、一時停止・再スタートが繰り返されます。

残り画像数／総再生画像数

3.スライドショーを終えるときは、十字キーの下側を押します。

- その後メニューボタンを押すと、元の再生モードに戻ります。

- 動画はスライドショーでは再生されません。

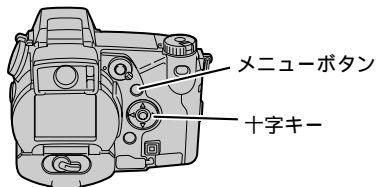
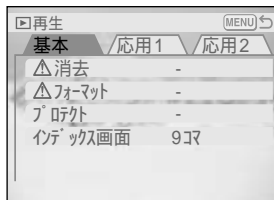
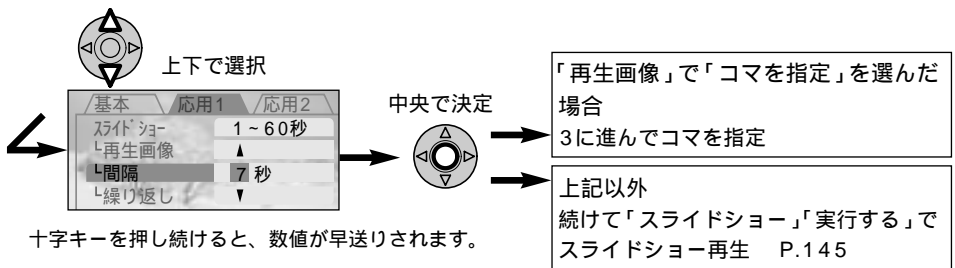
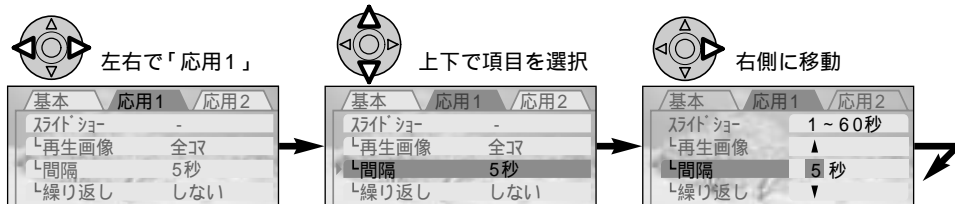
スライドショーの設定変更

スライドショーの設定を以下の通り変更することができます。
再生画像：　全コマを再生する／再生するコマを指定する
間隔（画像表示時間）：　1～60秒
繰り返し：　する／しない

1.再生モード位置で、メニューボタンを押します。

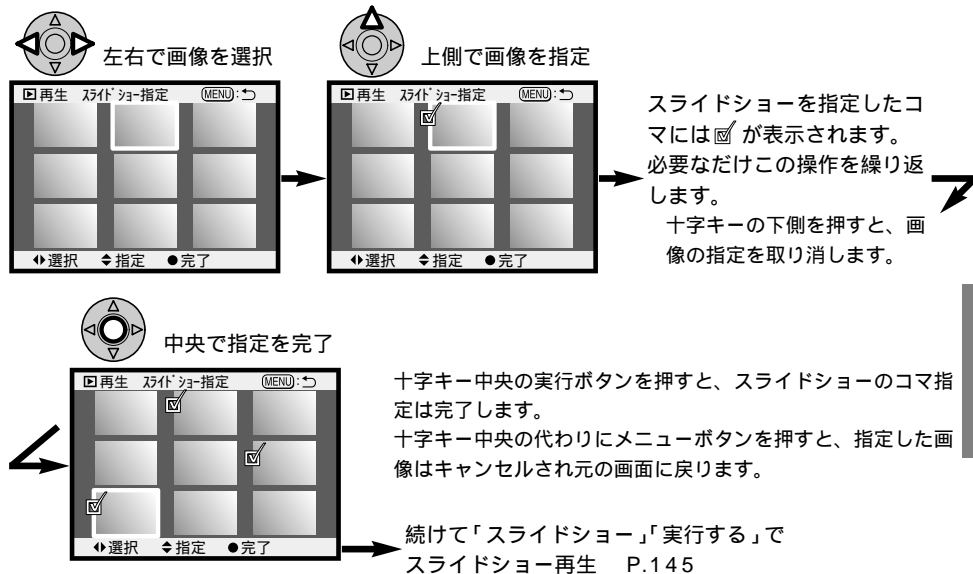
2.十字キーで希望の設定を選びます。

「再生画像」で「コマを指定」を選んだ場合
3に進んでコマを指定

上記以外
続けて「スライドショー」「実行する」で
スライドショー再生 →P.145

●十字キーを押し続けると、数値が早送りされます。

3.「コマを指定」の場合、十字キーでスライドショー再生するコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

スライドショーを指定したコマには☑が表示されます。
必要なだけこの操作を繰り返します。
●十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。

●十字キー中央の実行ボタンを押すと、スライドショーのコマ指定は完了します。
●十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

続けて「スライドショー」「実行する」で
スライドショー再生 →P.145

●動画を指定することはできません。

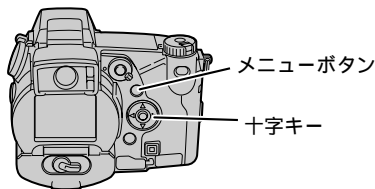
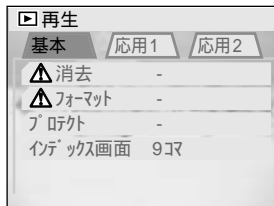
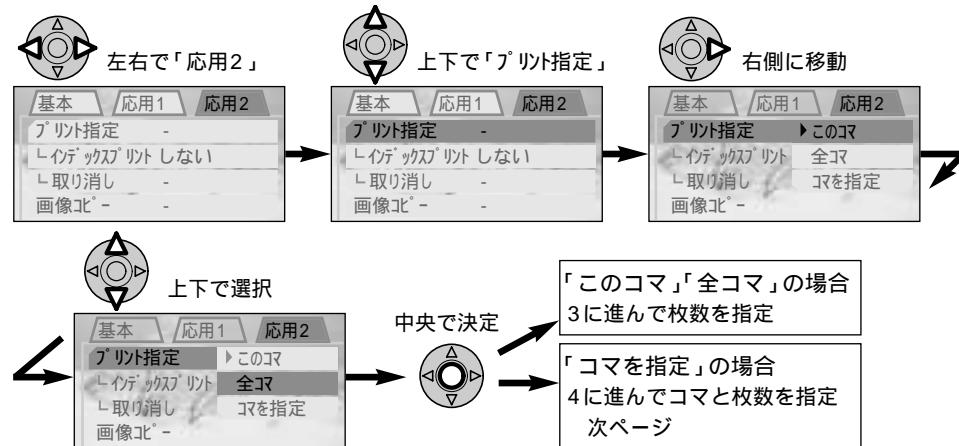
プリント指定

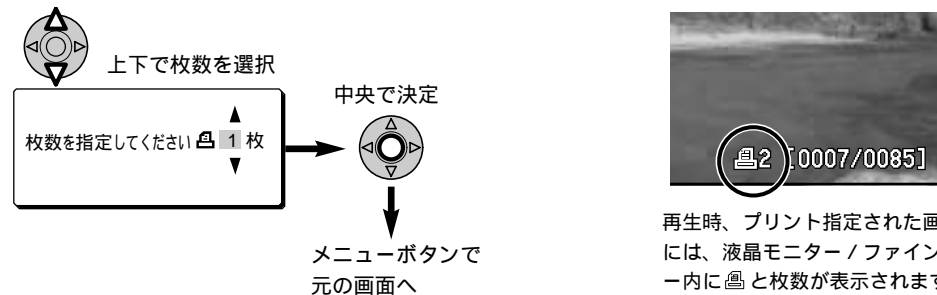
このカメラでプリント指定したCF（コンパクトフラッシュ）カードを、DPOF*対応のプリント店に渡せば、画像のプリントをしてもらうことができます。どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめカメラで指定しておくことができます。
同様に、DPOF対応のプリンタにCFカードをセットすると、パソコンを介さずに直接画像をプリントすることができます。この場合も、どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめカメラで指定しておくことができます。

*DPOF＝ディーポフ、Ditigal Print Order Formatの略。CFカード等のメディアに入っているデータのうち、どれを印刷するのかを指定する方法。

プリント指定

どの画像を何枚プリントするかを指定することができます。以下の3通りの指定方法があります。
1コマプリント（このコマ）： 再生中の画像を1コマだけプリントします。
全コマプリント： フォルダ内の画像すべてをプリントします。
コマを指定： 指定した画像だけをプリントします。

● RAW画像と動画はプリント指定できません。

1.再生モード位置で、メニューボタンを押します。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

3.「1コマ」「全コマ」の場合、十字キーで希望の枚数を選んで実行します。
● 1コマプリントの場合、指定した1コマのプリント枚数を選ぶことができます（0〜9枚）。
● 全コマプリントの場合、全コマとも同じプリント枚数しか選べません（0〜9枚）。

● 再生時、プリント指定された画像には、液晶モニター／ファインダー内に と枚数が表示されます。

4.「コマを指定」の場合、十字キーでプリントするコマを指定して枚数を選び、中央の実行ボタンで実行します。

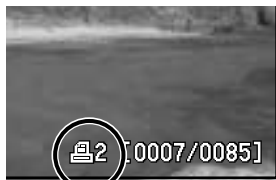
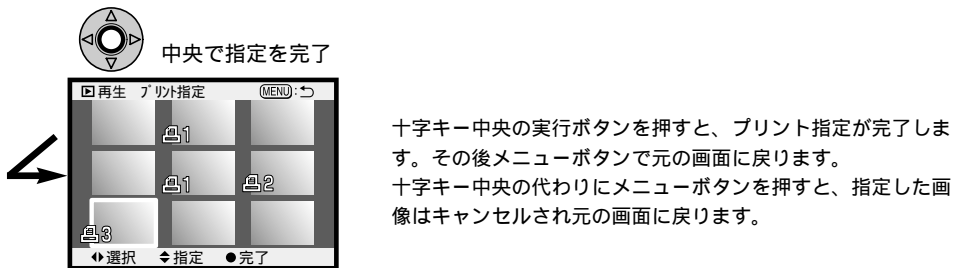
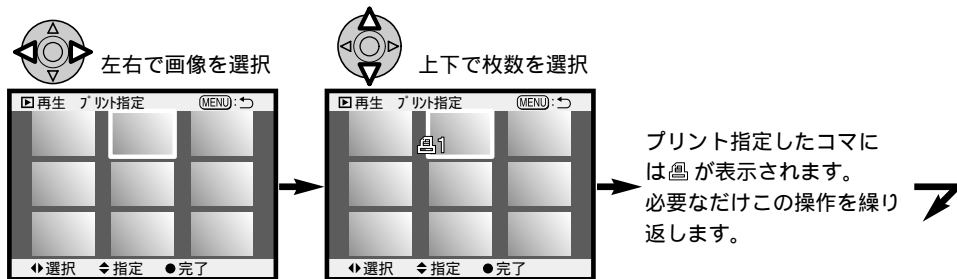
● コマ指定プリントの場合、各コマごとに希望のプリント枚数を選ぶことができます（0〜9枚）。

左右で画像を選択

上下で枚数を選択

プリント指定したコマには🖶が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

中央で指定を完了

● 十字キー中央の実行ボタンを押すと、プリント指定が完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
● 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

● 再生時、プリント指定のかかった画像には、液晶モニター／ファインダー内に🖶と枚数が表示されます。

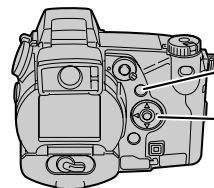
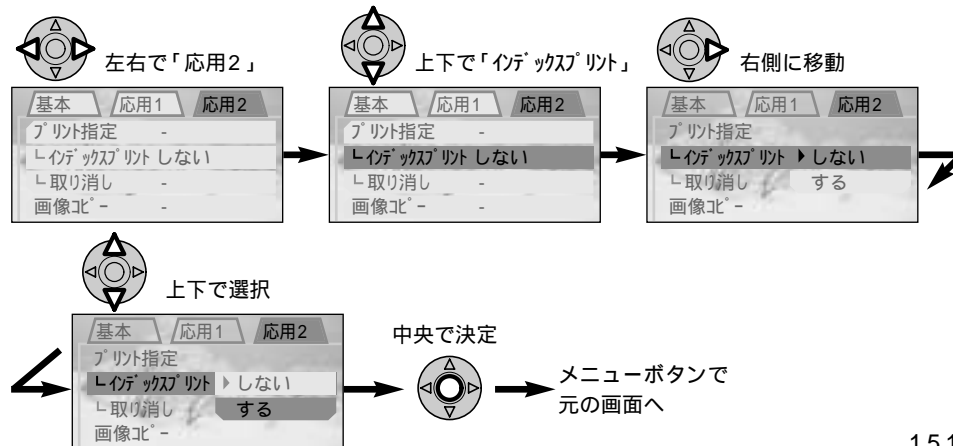
インデックスプリント

フォルダに記録されているすべての画像をまとめてプリントすることができます（インデックスプリント）。このカメラでは、1コマずつのプリントと合わせて、このインデックスプリントの有無を指定することができます。初期設定ではインデックスプリントはされません。

● 1枚のプリントに印刷される画像の数や印刷内容は、プリンタによって異なります。
● インデックスプリント設定後に撮影した画像は、インデックスプリントには含まれません。改めて設定してください。

1.再生モード位置で、メニューボタンを押します。

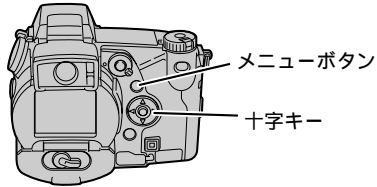
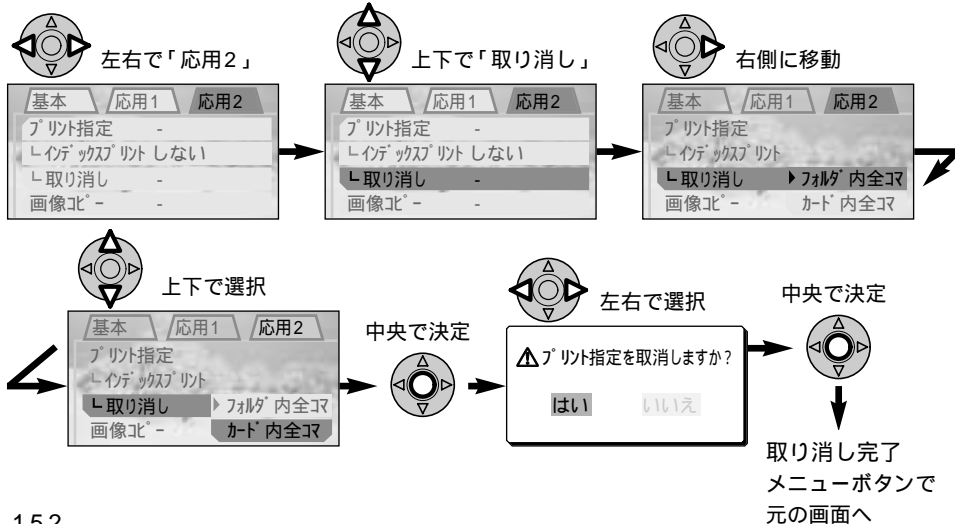
2.十字キーで希望の設定を選びます。

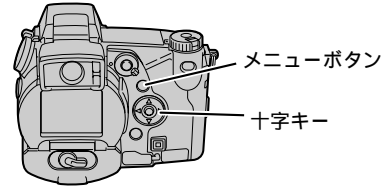
上下で選択

プリント指定の取り消し

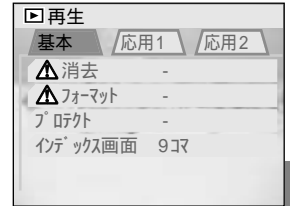
148〜151ページで指定したプリント指定をすべて取り消すことができます。インデックスプリントも取り消されます。
フォルダ内全コマ： フォルダ内のすべての画像のプリント指定を取り消します。
カード内全コマ： CFカード内のすべての画像のプリント指定を取り消します。
※カードとフォルダの関係については →P.175

1.再生モード位置で、メニューボタンを押します。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

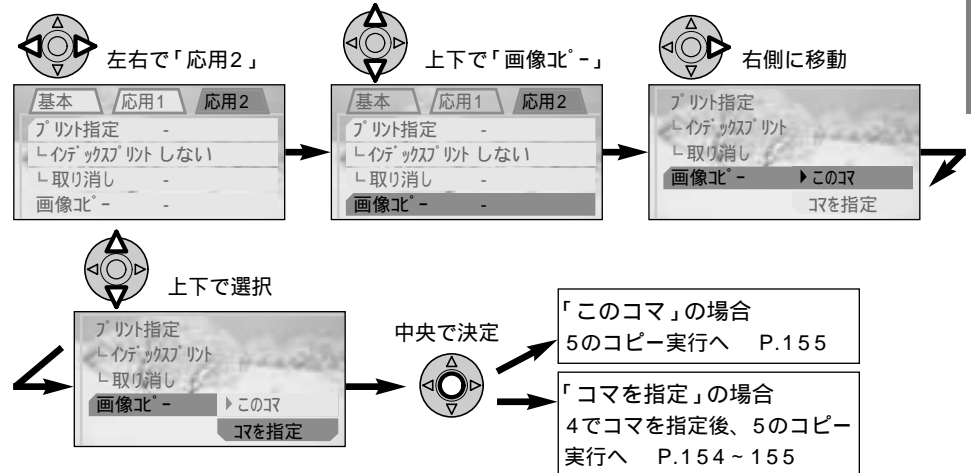
取り消し完了
メニューボタンで
元の画面へ

画像のコピー

あるCFカードに記録された画像を、別のCFカードにコピーすることができます。
1コマコピー（このコマ）：再生中の画像を1コマだけコピーします。
コマを指定： 指定した画像だけをコピーします。

1.コピーする画像が入ったコンパクトフラッシュカードをカメラに入れます。

2.再生モード位置で、メニューボタンを押します。

3.十字キーで希望の設定を選びます。

「このコマ」の場合
5のコピー実行へ →P.155

「コマを指定」の場合
4でコマを指定後、5のコピー実行へ →P.154〜155

次ページへ続く

4.「コマを指定」の場合、十字キーでコピーするコマを指定し、中央の実行ボタンで実行します。

コピーを指定したコマには ☑ が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

- 十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、5のコピー実行画面に進みます。
- 十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

5.画面の指示に従ってコピーを続けます。

この状態でしばらく待ちます。

CFカードを交換した後(→P.26)、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- CFカードを交換せずに同一カード内でコピーすることも可能です。
- メニューボタンで元に戻ります。

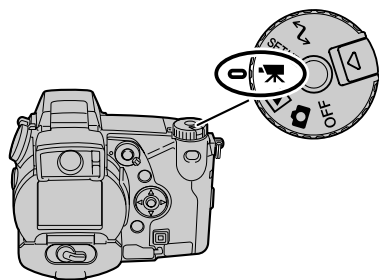
この状態でしばらく待ちます。

コピー先のフォルダ名が表示されます。

- コピーするたびに新しいフォルダが作成されます。

コピー中またはコピー後に、液晶モニターに以下のメッセージが現れた場合は

画像が多すぎます。	指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、内蔵メモリーにコピーできません。画像の数を減らして指定し直してください。(内蔵メモリーには約15MBコピーできます。)
サイズが大きすぎます。	指定した画像全体のファイルサイズが大きくて、内蔵メモリーからCFカードにすべての画像をコピーすることはできませんでした。(一部コピーされた場合もあります。)
画像がありません。	コピーした画像は、"101MLTCP"等"MLTCP"の付いたフォルダに入りますが、そのフォルダが選択されていません。該当するフォルダを選択してください。→P.177

動画の撮影と再生

この章では、さまざまな動画撮影と再生について説明しています。通常の動画は、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルを 位置（動画撮影モード）にして撮影します。

- ダイヤルをOFFの位置から動かす場合は、ロック解除ボタンを △ の方向に押しながらダイヤルを回します。

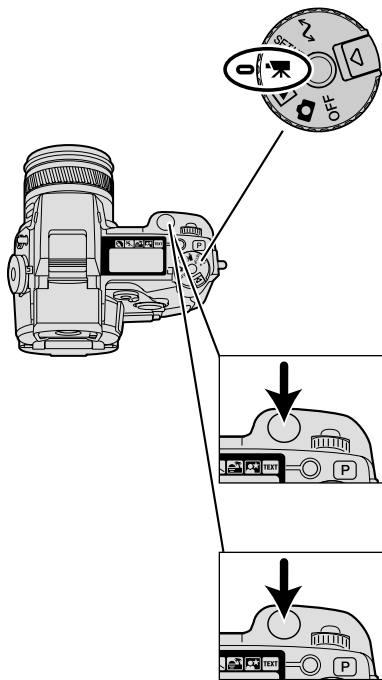
ダイヤルを 位置（動画撮影モード）にしていると、ファインダー／液晶モニター内の左上に が現れます。

動画撮影・再生一覧

このカメラではさまざまな動画撮影が可能です。

機能名	内容	撮影・録音	再生
動画 （通常）	動く画像 音声あり／なし切替可能 連続最長60秒 1秒間15コマで再生	動画撮影モードで撮影 シャッターボタンで撮影開始 シャッターボタンで撮影終了 （P.158）	再生モードで再生 動画を選んで 十字キー中央実行ボタンで再生開始 十字キー下側で再生終了 （P.161）
ナイト ムービー	動くモノクロ画像 音声あり／なし切替可能 通常動画から自動的に切り替わる（マニュアル切替可能） 連続最長60秒 1秒間15コマで再生		
インター バル動画	インターバル撮影した画像を動画にしたもの（静止画は残らない） 音声なし 1秒間4コマで再生	撮影モードで撮影 撮影メニューの応用1、インターバル動画で設定（P.164） その後通常のインターバル撮影を行なう（撮影間隔と枚数設定、ドライブモードで Int または を設定、P.65）	再生モードで再生 インターバル動画を選んで 十字キー中央実行ボタンで再生開始 十字キー下側で再生終了 （P.161）
UHS 連続撮影 動画	ウルトラハイスピード（UHS）撮影した画像を動画にしたもの（動画と静止画の両方が残る） 音声あり 1秒間約7コマで再生	撮影モードで撮影 撮影メニューの応用1、UHS連続撮影で設定（P.166） その後通常のUHS連続撮影を行なう（ドライブモードで UHS または を設定、P.68）	再生モードで再生 UHS連続撮影動画を選んで 十字キー中央実行ボタンで再生開始 十字キー下側で再生終了 （P.161）

動画撮影

連続最長60秒までの動画撮影を行なうことができます。音声（モノラル）も同時に記録されます。
●音声の記録を止める（動画画像のみ記録する）こともできます。→P.160

1.メインスイッチ／モード切り替えダイヤルを🎥に合わせます。

●ダイヤルをOFFの位置から動かす場合は、ロック解除ボタンを △ の方向に押しながらダイヤルを回します。
●液晶モニター／ファインダーと上面データパネル右下に、撮影可能な残り秒数が表示されます。

2.シャッターボタンを押して撮影を開始します。

●撮影中は● Recが表示され、右下の残り秒数が減っていきます。

3.撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

●残り秒数が0になったときは、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

●動画のファイルサイズは、1秒あたり約250KBです。16MBのCFカードには、合計約49秒間記録することができます。
●暗い場所で動画撮影を行なうと、撮像感度を上げるため自動的に画像がモノクロになります（ナイトムービー）。この機能を変更するには →P.162

※動画の再生は →P.161

音声とオートフォーカスモード

●動画の音声の有無を切り替えることができます。動画中のオートフォーカスモードがそれに連動して変わります。設定は →P.160
初期設定：動画中の音声あり、動画開始時にピント位置が固定される
音声なし：動画中の音声なし、動画撮影中も被写体にピントを合わせ続ける

ズームについて

●動画撮影中にズームを行なうと、レンズ鏡銅がこすれる音（ザーという音）が入ります。気になる場合は、動画中のズームを止めるか音声を消してください。

ピントについて

●フォーカスフレームは常に＋となり、中央部分の被写体にピントが合います。
●マクロ撮影は可能です（撮影中の切り替えも可能）。
●撮影中のオートフォーカスとマニュアルフォーカスの切り替えはできません。

その他

●動画撮影時には、以下の機能は固定されます。変更はできません。
画像サイズ（QVGA / 320×240）、ファイル形式（Motion JPEG / MOV）、露出モード（Pモード）、ホワイトバランス（オート）、撮像感度（オート）、測光モード（中央重点的平均測光）
●デジタルエフェクト設定（露出補正、コントラスト、彩度、フィルター効果）は設定可能です。
●以下の機能は、動画撮影時には使用できません。
デジタル撮影シーンセレクター、スポットAEロック、デジタルズーム、マニュアルフォーカス時のピント確認　フラッシュ

動画の音声

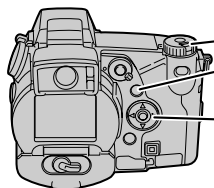
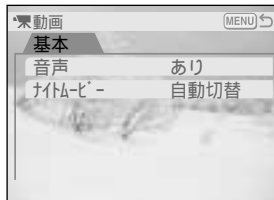
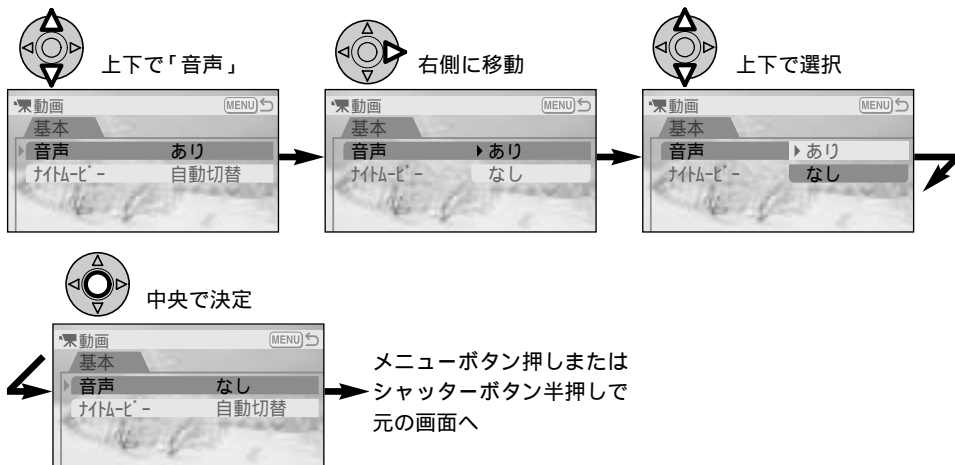
動画の音声の有無を切り替えることができます。オートフォーカスモードと連動しています。
　音声あり：動画開始時にピント位置が固定されます。動画に音を付けたい場合におすすめします。
　音声なし：動画撮影中もピント位置が動き続けます。動いている被写体の撮影に適しています。

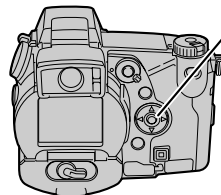
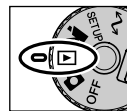
- 通常動画およびナイトムービー（P.162）にのみ有効です。インターバル動画およびUHS連続撮影動画では、ここでの設定は反映されません。
- 静止画でのオートフォーカスモード（P.94）とは連動していません。

1.動画撮影モード位置 で、メニューボタンを押します。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

中央で決定

メニューボタン押しまたは
シャッターボタン半押しで
元の画面へ

動画再生

撮影した動画を再生します。

1.再生モード位置で、十字キーの左右で再生したい動画を選びます。

2.十字キー中央の実行ボタンを押して、動画再生を開始します。

- 右上の数値は経過秒数です。
- 音声を付けた場合は、音声も同時に再生されます。

●一時停止　▼中止　12s

3.動画再生を途中で終えるときは、十字キーの下側を押します。

- 動画開始前の状態に戻ります。
- 最後まで再生すると、自動的に動画開始前の状態に戻ります。
- 十字キーの下側でなく中央を押すと、一時停止・再スタートを繰り返します。

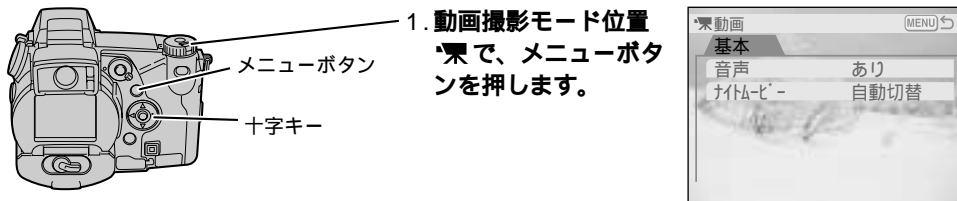
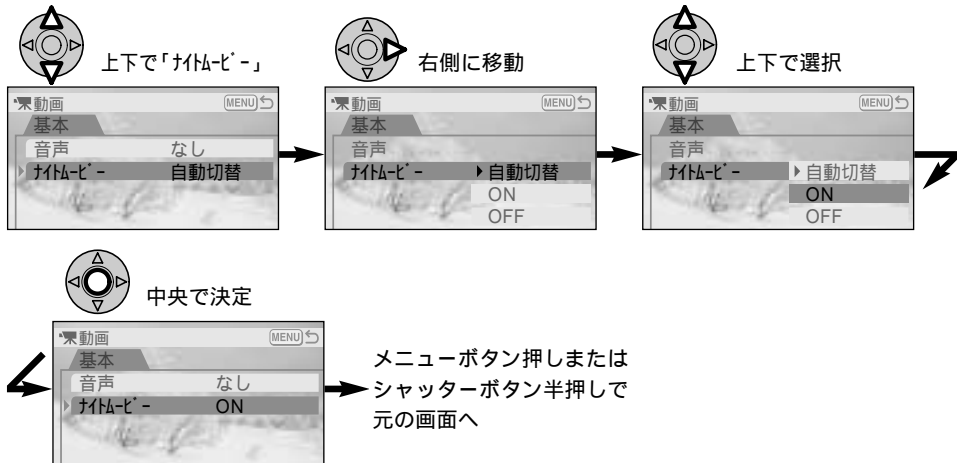
- 動画再生中は、十字キーの左右でコマの切り替えを行なうことはできません。
- 動画のヒストグラム表示や拡大再生はできません。
- クイックビューでの動画再生はできません。

ナイトムービー

暗い場所で動画撮影を行なうと、通常のカラーモードだと被写体が見にくくなります。このような場合にモノクロの動画撮影（ナイトムービー）を行なうと、暗い場所でも比較的被写体が見えやすくなります。初期設定では通常動画とナイトムービーが明るさに応じて自動的に切り替わりますが、意図的に切り替えることもできます。

1.動画撮影モード位置 で、メニューボタンを押します。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

メニューボタン押しまたは
シャッターボタン半押しで
元の画面へ

● 静止画でのカラーモード（P.118）とは連動していません。

通常動画／ナイトムービー自動切り替え

明るい場所では通常の動画撮影ですが、暗い場所で撮影を開始すると自動的にナイトムービーとなり、被写体がモノクロで見えやすく記録されます。

● ナイトムービーではカラー画像がモノクロ画像に変わるだけで、それ以外の条件（撮影方法、再生方法、ファイルサイズ等）は通常の動画と同じです。
● インターバル動画およびウルトラハイスピード連続撮影動画では、ナイトムービーにはなりません。

ナイトムービーON

常にナイトムービーの状態になります。暗い場所での撮影が多い場合に便利です。

● 明るい場所では明るい部分が白く飛びます。自動切り替えまたはOFFにすることをおすすめします。

ナイトムービーOFF

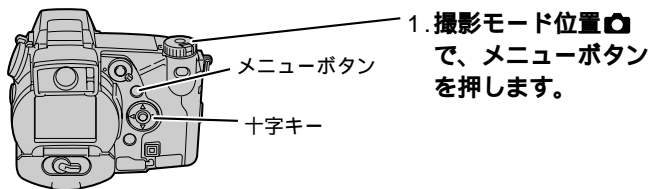
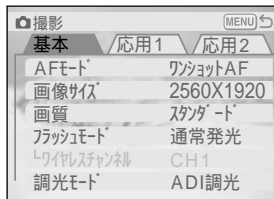
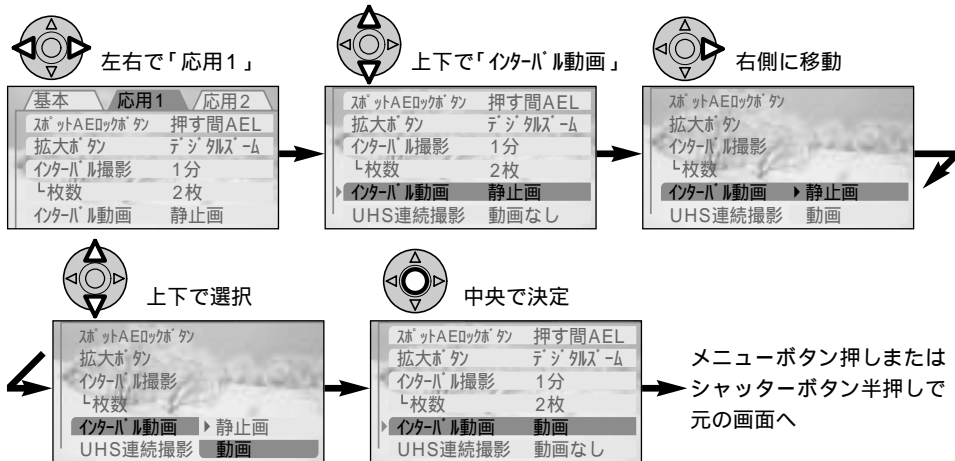
ナイトムービーにはなりません。常にカラーで撮影したい場合にお使いください。

インターバル動画

インターバル撮影（P.65）する画像を動画にすることができます。再生時には1秒間に4コマの速度で再生されます。花の開花など、ゆっくり変化するものを時間を短縮して見るのに便利です。

●インターバル動画を設定しておけば、動画のみが作成されます。静止画は残りません。

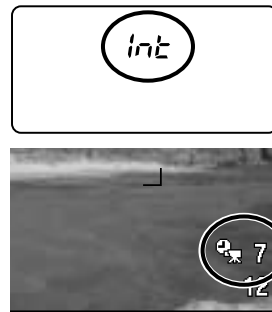
1.撮影モード位置で、メニューボタンを押します。

撮影	
基本 ／応用1 ／応用2	
AFﾓｰﾄﾞ	ﾜﾝｼｮｯﾄAF
画像ｻｲｽﾞ	2560X1920
画質	ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ
ﾌﾗｯｼｭﾓｰﾄﾞ	通常発光
└ﾜｲﾔﾚｽﾁｬﾝﾈﾙ	CH1
調光ﾓｰﾄﾞ	ADI調光

2.十字キーで希望の設定を選びます。

撮影方法

通常のインターバル撮影と同様、撮影間隔と枚数を設定後、インターバル撮影 を選んで撮影してください。→P.65

●液晶モニター／ファインダーの の右の数字は、撮影枚数を表します。

●音声は記録されません。

●スーパーファイン（TIFF）画像とRAW画像では、インターバル動画撮影はできません（後からインターバル動画を選択すると、画質は自動的にスタンダードになります）。

再生方法

通常の動画再生と同様、画像を選択後、十字キー中央の実行ボタンで再生を開始してください。→P.161

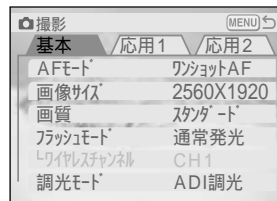
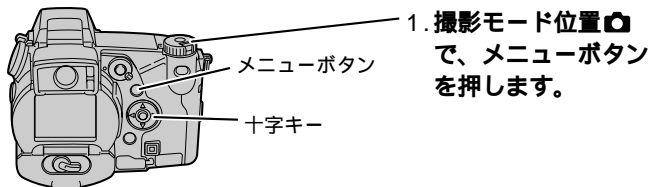
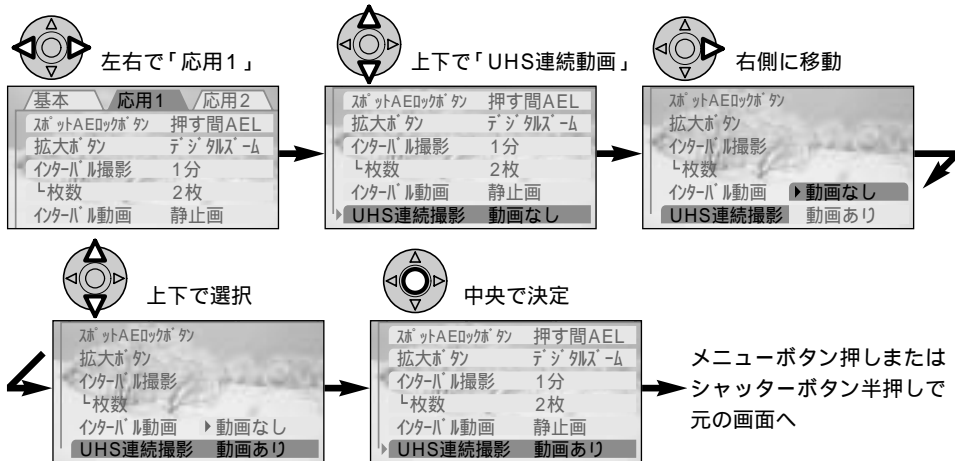
●1秒間に4コマの速度で再生されます。

●再生を途中で終了するときは、十字キーの下側を押してください。

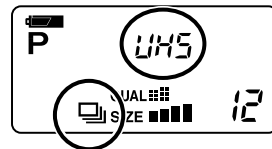
●画像サイズが2560×1920または1600×1200の動画をパソコンで再生した場合、パソコンの処理能力によっては、すべての画面が再生されないことがあります。

ウルトラハイスピード（UHS）連続撮影動画

ウルトラハイスピード（UHS）連続撮影（P.68）された画像は静止画で記録されますが、静止画と同時に動画を作成することもできます。動画再生時には1秒間に7コマの速度で再生されるので、被写体の動きと同じ速度で再生することができます。

1.撮影モード位置📷で、メニューボタンを押します。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

撮影方法

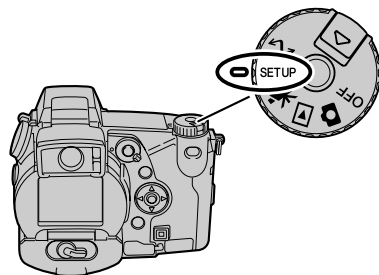
通常のUHS連続撮影と同様、UHSまたは連続動画アイコンを選んで撮影してください。→P.68

- 画像サイズは、静止画は1280×960画素、動画は640×480画素に固定されます。変更はできません。
- 音声も同時に記録されます。消すことはできません。
- シャッター音は鳴りません。
- スーパーファイン（TIFF）画像とRAW画像では、UHS連続撮影動画はできません（後からUHS連続撮影動画を選択すると、画質は自動的にスタンダードになります）。
- 電池の容量が少ないとき（電池マークが点灯している場合）は、UHS連続撮影はできません（シャッターは切れません）。

再生方法

一連の静止画の後に動画が保存されます。ファイル番号も別に作成されます。

静止画の再生は通常の再生と同様です。

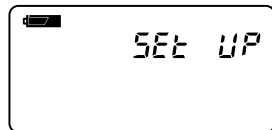
動画は通常の動画再生と同様、画像を選択後、十字キー中央の実行ボタンで再生を開始してください。→P.161

- 1秒間に7コマの速度で再生されます。
- 再生を途中で終了するときは、十字キーの下側を押してください。

セットアップモード

この章では、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルがSET UP位置（セットアップモード）にあるときの各種設定について説明しています。カメラの細かな設定を変更することができます。

- ダイヤルをOFFの位置から動かす場合は、ロック解除ボタンを △ の方向に押しながらダイヤルを回します。

SETUP
基本 ／応用1 ／応用2
モニター明るさ 3
EVF明るさ 3
操作音 音1
シャッター音 音1
音量 2
言語／Lang. 日本語

ダイヤルをSET UP位置（セットアップモード）にしていると、ファインダー／液晶モニター内の左上にSET UPが現れます。

上面データパネルには、SEt UPの文字が現れます。

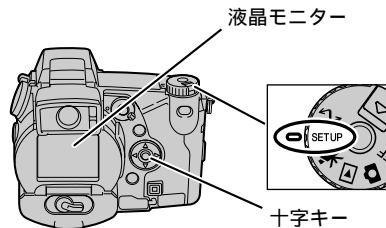
セットアップモード時のメニュー設定

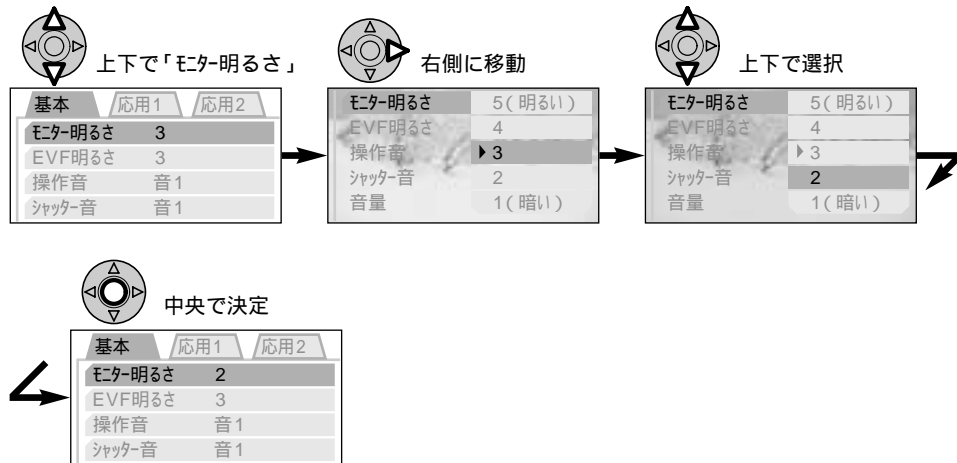
メインスイッチ／モード切り替えダイヤルがSET UP位置（セットアップモード）にあるときは、以下の設定が可能です。十字キーを使って設定します。

タブ	項目	設定	ページ
基本	モニター明るさ	1（暗い）、2、○3、4、5（明るい）	170
	EVF（ファインダー）明るさ	1（暗い）、2、○3、4、5（明るい）	171
	操作音	なし、○音1、音2	172
	シャッター音	なし、○音1、音2	172
	音量	1（小さい）、○2、3（大きい）	172
	言語	○日本語、英語（English）	174
応用1	ファイルNo.メモリ	○しない、する	182
	フォルダ形式	○標準形式、日付形式	178
	フォルダ選択	○100MLT11	177
	（フォルダ選択）新規作成	実行する	180
	表示モード選択	○撮影データあり、○フォーカスフレームのみ、○ヒストグラム、方眼、目盛り線、○表示なし	183
	DMF（ダイレクトマニュアルフォーカス）	あり、○なし	186
応用2	設定値リセット	実行する	188
	EVFオート設定	○自動切り替え、自動ON	190
	日時設定	実行する	192
	日付並び	○年／月／日、月／日／年、日／月／年	193
	ビデオ出力	○NTSC、PAL	135
	パワーセーブ	10分、5分、3分、○1分	194

○印は初期設定値です。

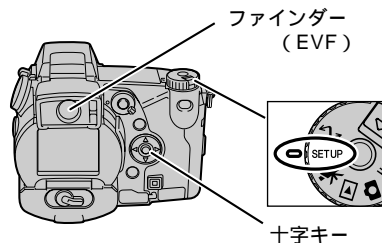
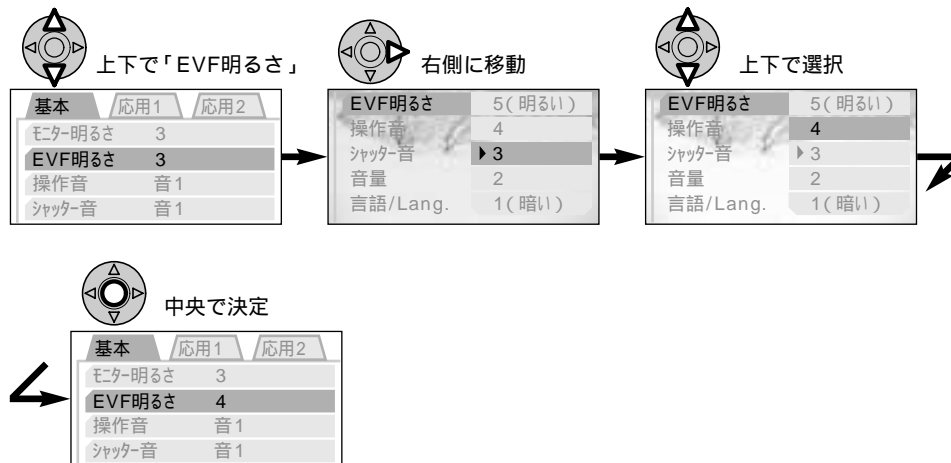
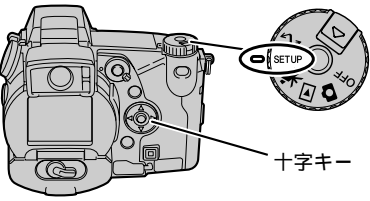
液晶モニターの明るさ調整

液晶モニターの明るさを調整することができます。

1.セットアップモード位置にします。

SETUP		
基本	応用1	応用2
ﾓﾆﾀｰ明るさ	3	
EVF明るさ	3	
操作音	音1	
ｼｬｯﾀｰ音	音1	
音量	2	
言語/Lang.	日本語	

2.十字キーで希望の設定を選びます。

●明るさは、1〜5の5段階から選択することができます。初期設定は3です。

ファインダー（EVF）の明るさ調整

ファインダー（EVF）の明るさを調整することができます。
●EVFの明るさを調整するときは、EVFをのぞいて調整してください。

1.セットアップモード位置にします。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

●明るさは、1〜5の5段階から選択することができます。初期設定は3です。

操作音と音量の設定

カメラを操作すると操作音が出ます。その音や音量を変えることができます。

1.セットアップモード位置にします。

SETUP
基本 応用1 応用2
モニター明るさ 3
EVF明るさ 3
操作音 音1
シャッター音 音1
音量 2
言語／Lang. 日本語

2.十字キーで希望の設定を選びます。

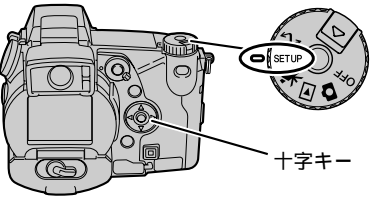
操作音とシャッター音は音1、音2、なしの3つから、音量は3段階から選ぶことができます。音量は、操作音・シャッター音・ボイスメモの再生音すべてに反映されます。

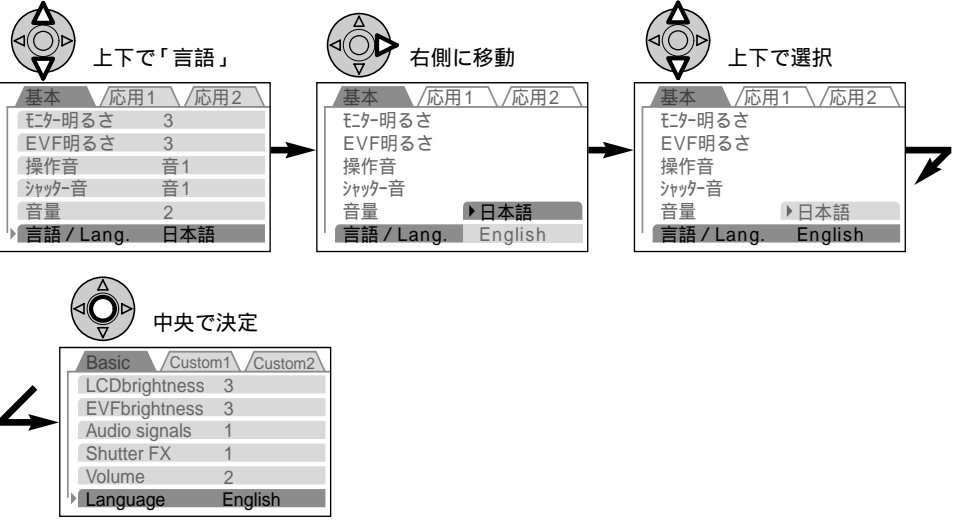
操作音	ボタンを押す、ダイヤルを回す等カメラの操作時に出る音	なし（音は出ません）
		音1（電子音をベースにした音）
		音2（機械音をベースにした音）

シャッター音	ピントが合った時に出るピント確認音と、シャッターを切った時に出る音	なし（音は出ません）
		音1（ミノルタα-7のピント確認音とミノルタα-9のシャッター音）
		音2（オリジナルピント確認音とミノルタCLEのシャッター音）

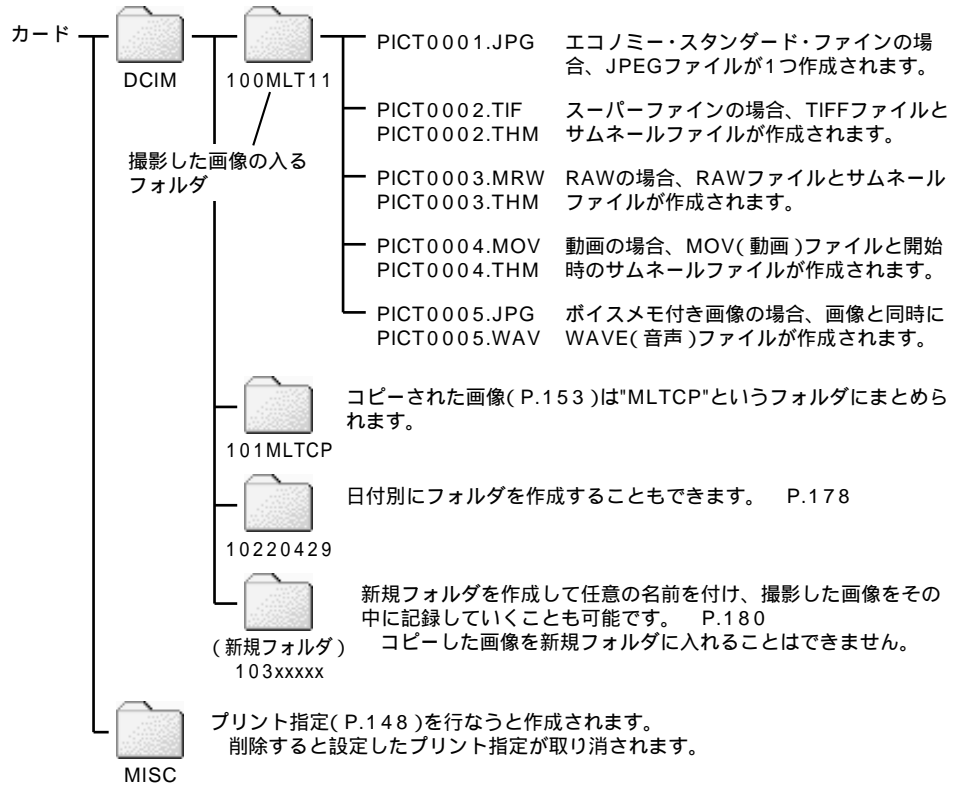
音量	3（大きい）
	2（中）
	1（小さい）

言語設定

液晶モニターやファインダーに表示される言語を、日本語または英語のどちらかに設定することができます。初期設定は日本語です。

1.セットアップモード位置にします。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

ファイルとフォルダ

フォルダ構成

ある画像を撮影すると、画像1つにつき1つまたは2つのファイルが作成され、CFカード内のフォルダに入れられます。カード内の主なファイルとフォルダの構成は以下の通りです。

フォルダ名とファイル名

フォルダ名について

例：　100 MLT11

フォルダ番号（100〜）　識別文字

フォルダ名は、フォルダ番号3桁＋識別文字5文字、から成り立っています。
フォルダ番号（フォルダの通し番号）は100から始まり、フォルダが作成されるたびに1つずつ増えて行きます。
識別文字の"MLT"はミノルタを、"11"はこのカメラ（DiMAGE 7i）を意味します。画像をコピーすると"MLTCP"というフォルダが作成されます。日付別にフォルダを自動的に作成したり（P.178）、新規フォルダを作成して任意の識別文字を付けたり（P.180）することもできます。

- ●フォルダの削除は、カメラをパソコンに接続してパソコン側で行なうか（P.198〜）、カメラ側でカードをフォーマットしてください（P.140）。

ファイル名について

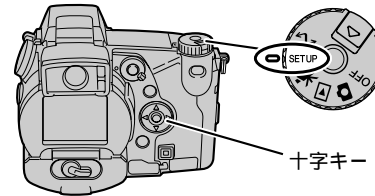
例：　PICT 0001 .JPG

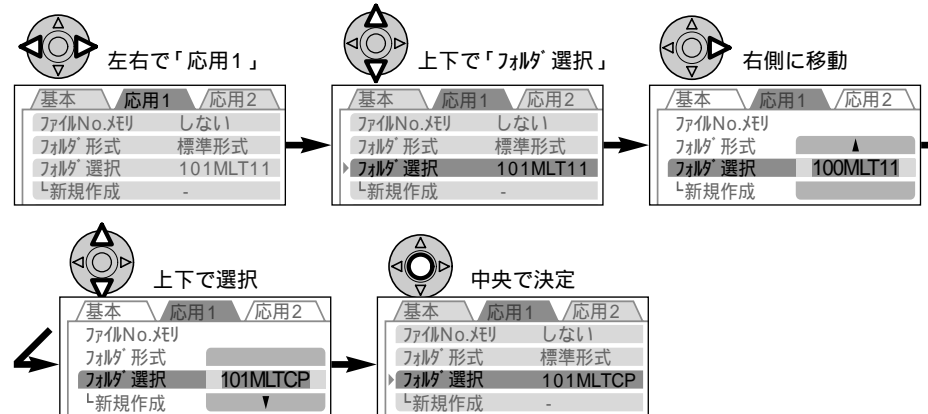
ファイル番号（0001〜）　拡張子（ファイルの種類を識別する部分）

PICTの後の4桁のファイル番号（ファイルの通し番号）は、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。

- ●カメラ側で消去された画像のファイル番号は欠番となります。フォルダ内の画像をすべて消去すると、ファイル番号は再び0001から始まります（ファイルNo.メモリなしの場合）。
- ●"PICT9999"まで進むと新たなフォルダが自動的に作成され（前ページの場合だと"104MLT11"）、その中で再び"PICT0001"から画像の記録が開始されます。
- ●フォルダを変更すると、初期設定では常にファイル名は"PICT0001"から始まります。※通し番号にするには →P.182
- ●お使いのパソコンの設定によっては、拡張子が表示されない場合があります。

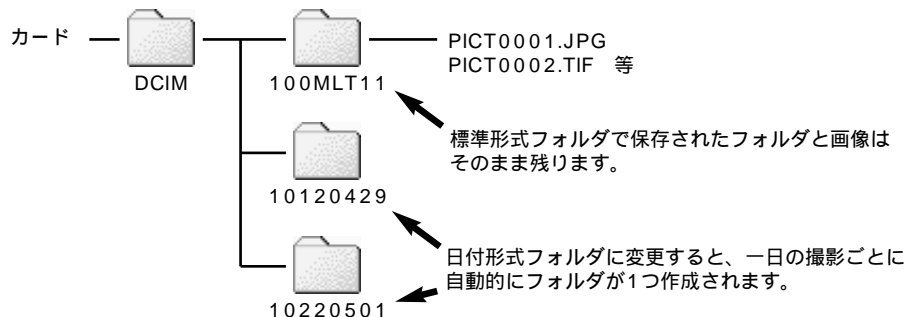
フォルダ選択

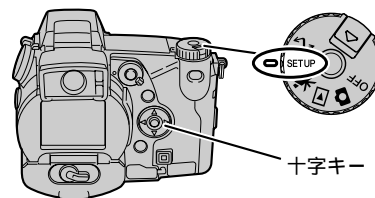
フォルダが2つ以上存在する場合、撮影した画像が記録されるフォルダを選ぶことができます。画像の再生やスライドショー、全コマ消去や全コマプロテクト等も、カード単位でなくフォルダ単位で行われます（プリント指定取り消しのカード内全コマを除く）。
また日付形式フォルダ（P.178）を選択している場合、撮影した画像は必ずその日の日付のフォルダに入るので、再生等には該当する日のフォルダを選択する必要があります。
以下の方法で撮影・再生等行なうフォルダを選択してください。

1.セットアップモード位置にします。

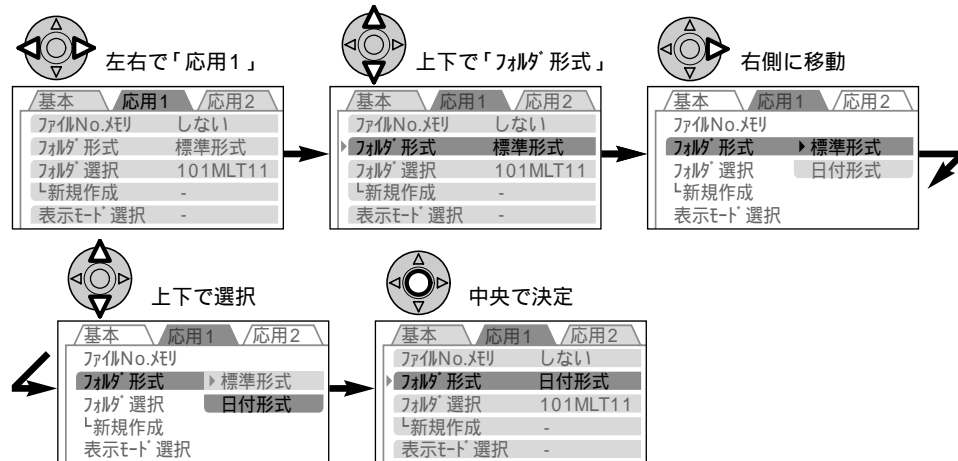
2.十字キーで希望の設定を選びます。

フォルダを日付別に分ける（日付形式フォルダ）

初期設定の標準形式フォルダ（100MLT11等）を日付形式フォルダに変更し、日付別のフォルダに分けて保存や再生を行なうことができます。

標準形式フォルダで保存されたフォルダと画像はそのまま残ります。

日付形式フォルダに変更すると、一日の撮影ごとに自動的にフォルダが1つ作成されます。

フォルダを日付形式に変更すると、フォルダ名は以下の通りに表されます。

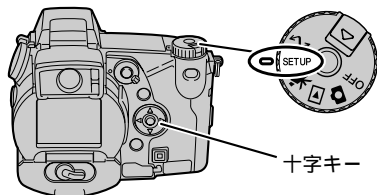
● 初期設定では、フォルダが変わるたびに中のファイル番号はPICT0001に戻ります。※通し番号にするには →P.182

1.セットアップモード位置にします。

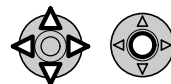
2.十字キーで希望の設定を選びます。

日付形式フォルダにした場合の再生について

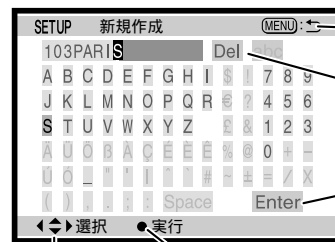
再生はフォルダ単位で行われます。すなわち、今日1枚でも撮影して今日の日付のフォルダが作成されていれば、そのままだと再生も今日撮影した分しか再生できません。昨日までに撮影した画像を見る場合は、フォルダ選択で見たい日のフォルダを選択してから再生してください。→P.177

新規フォルダの作成

ご自分で新規にフォルダを作成して任意の名前を付けることができます。場面別にファイルを管理するときに便利です。

● 日付形式フォルダ（P.178）と併用することはできません。日付形式フォルダにしていると、撮影した画像は新規フォルダでなく常に日付形式フォルダに保存されます。

1.セットアップモード位置にします。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

3.フォルダ名を入力します。十字キーの上下左右で文字を選択し、中央の実行ボタンで文字を1つずつ確定して行きます。

● 最初のフォルダ番号3桁はすでに入力されており（変更不可）、続く5文字を入力することができます。

● 入力文字は必ず5文字にしてください。それ以外の文字数は設定できません。

● "_"（アンダーバー）以外の記号およびカタカナや小文字は使用できません。

入力した文字の削除

1. カーソルを入力済み部分（上記の場合は「PARIS」）に移動させます。
2. 十字キーの左右で、削除したい文字を黒く反転させます。
3. 十字キーの下側を押して「Del」を反転させ、十字キーの中央を押して削除を実行します。

文字の上書き

1. カーソルを入力済み部分（上記の場合は「PARIS」）に移動させます。
2. 十字キーの左右で、上書きしたい部分を黒く反転させます。
3. 十字キーの下側を2回押して、数字またはアルファベットのところまで移動します。
4. 上書きする文字を選び、十字キーの中央を押して上書き文字を決定します。

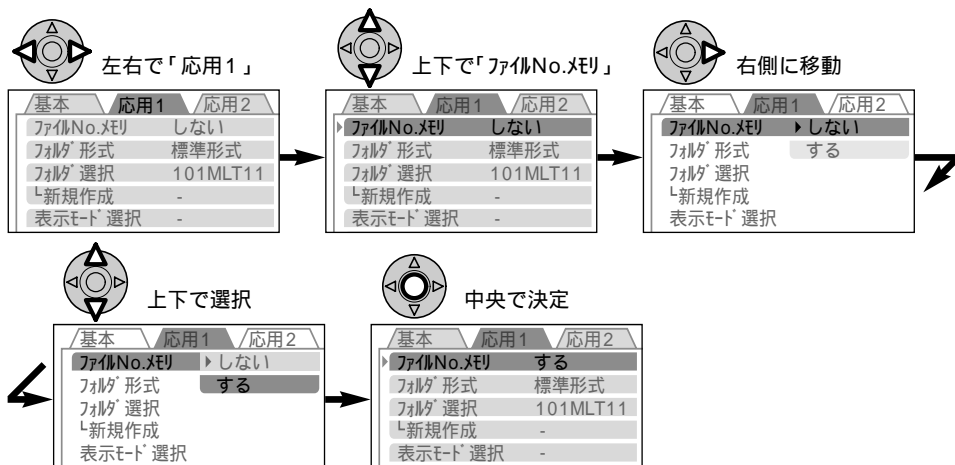
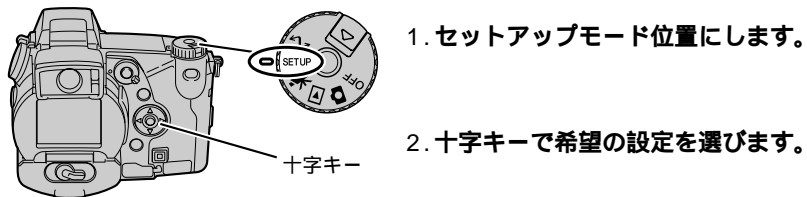
4.文字を入れ終わると「Enter」を選び、十字キー中央の実行ボタンで確定させます。

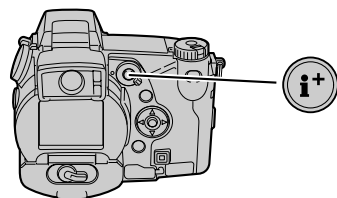
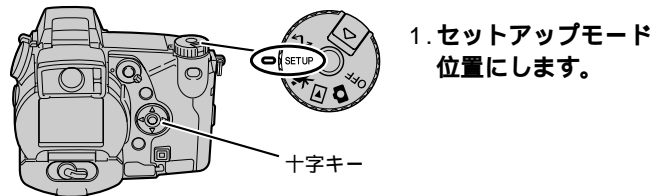
ファイルNo.メモリ

標準形式フォルダでフォルダを変更したり（P.177）、日付形式フォルダ（P.178）で日付が変わったりすると、初期設定ではファイル名は再び"PICT0001"から始まります。これを続き番号にすることができます。

しない：ファイルNo.メモリはされず、フォルダが変わるとファイル番号は0001から始まります。

する：　ファイルNo.メモリが機能し、フォルダが変わってもファイル番号はそのまま続きます。

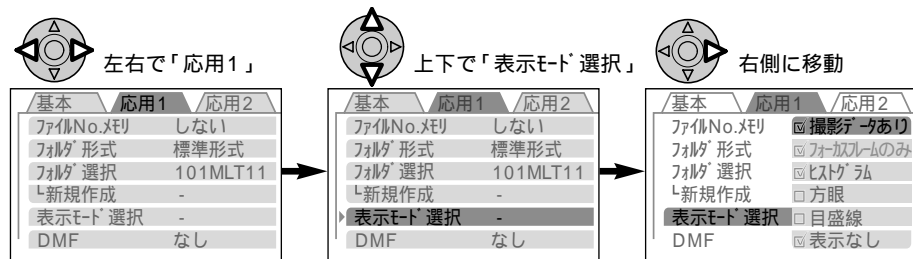
1.セットアップモード位置にします。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

画面表示モードの選択

撮影モード時 に表示切り替えボタンによって切り替えられる画面（P.39）を変更することができます。6種類の画面表示の中から1～6個自由に指定できます。撮影モード時 には、表示切り替えボタンを押すたびに☑の付いた表示が順に切り替わります。

1.セットアップモード位置にします。

SETUP

基本	応用1	応用2
ﾓﾆﾀｰ明るさ	3	
EVF明るさ	3	
操作音	音1	
ｼｬｯﾀｰ音	音1	
音量	2	
言語／Lang.	日本語	

2.十字キーで希望の設定を選びます。

右側に移動

表示切り替えボタンを押すたびに現れる画面には☑が付いています。

次ページへ続く

上下で変更したい
画面を指定

右側で指定変更

基本 / 応用1 / 応用2
ファイルNo.メモリ　☑撮影データあり
フォルダ形式　☑フォーカスフレームのみ
フォルダ選択　☑ヒストグラム
└新規作成　☑方眼
表示モード選択　□目盛線
DMF　☑表示なし

もう一度右側を押すと指定が解除されます（☑が外れます）。必要なだけこの操作を繰り返します。

中央で決定

撮影データあり

撮影データとフォーカスフレームが表示されます。

フォーカスフレームのみ

フォーカスフレームだけが表示されます。

ヒストグラム

撮影データと同時に現在のヒストグラムも表示されます。

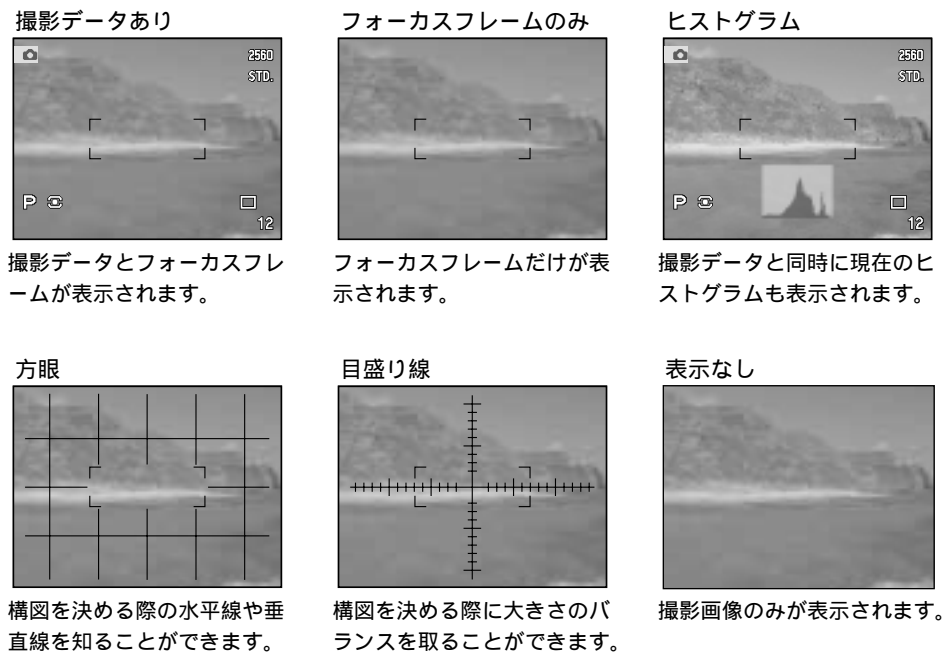
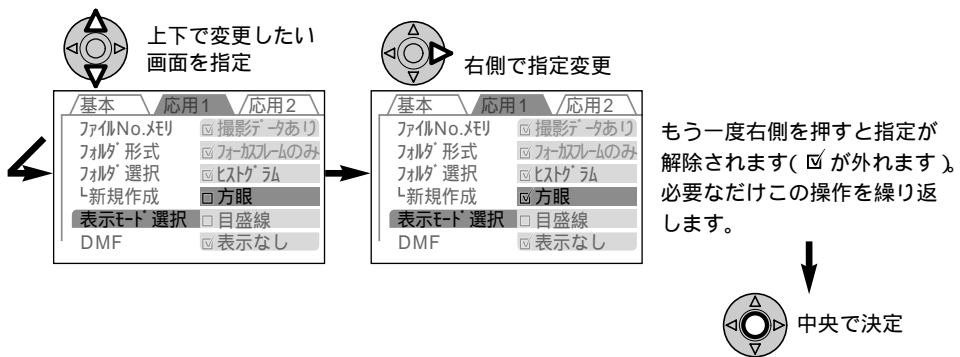
方眼

構図を決める際の水平線や垂直線を知ることができます。

目盛り線

構図を決める際に大きさのバランスを取ることができます。

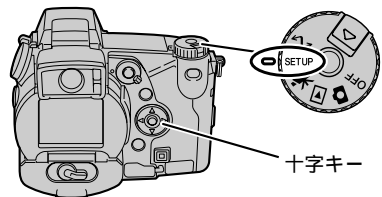
表示なし

撮影画像のみが表示されます。

- 警告表示（赤色の表示）は、「表示なし」以外のすべての画面で現れます。
- 撮影前のヒストグラム表示は、フラッシュが発光しない場合にのみ有効です。フラッシュを発光させる場合は、撮影後、再生モードのヒストグラムで確認してください。→P.131

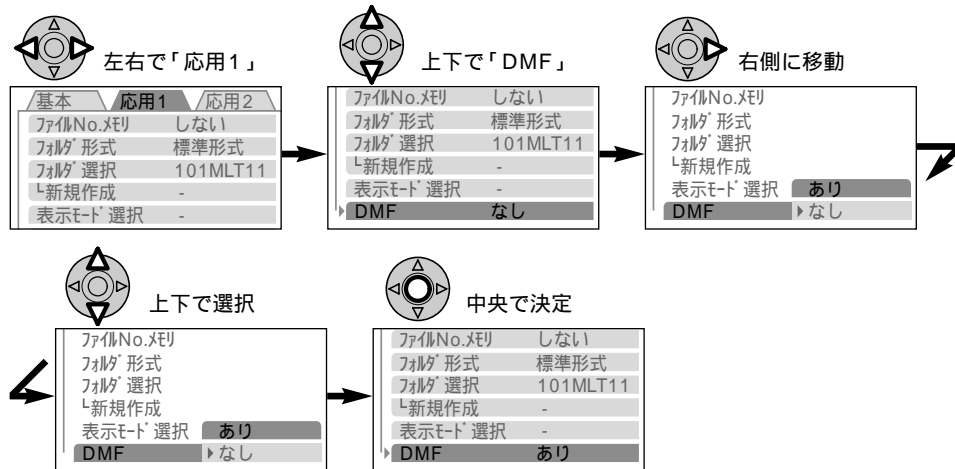
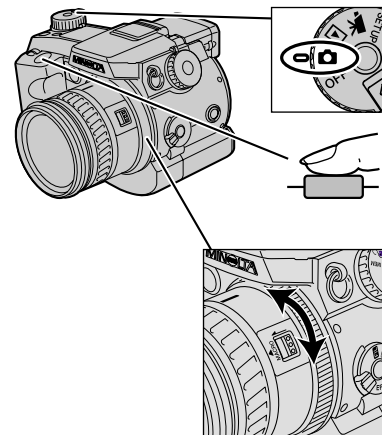
※ヒストグラムの詳細について →P.40

ダイレクトマニュアルフォーカス（DMF）

オートフォーカスでピントを合わせた後、手動でピントの微調整ができます。マクロ撮影時などで意図したものとは違う被写体にピントが合った場合など、オートフォーカスのままでピント位置の変更を行なうことができます。

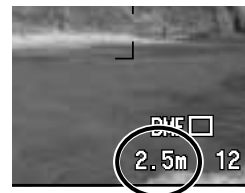
DMF ＝ Direct Manual Focus（ダイレクトマニュアルフォーカス）の略

1.セットアップモード位置にします。

SETUP	
基本／応用1／応用2	
ﾓﾆﾀｰ明るさ	3
EVF明るさ	3
操作音	音1
ｼｬｯﾀｰ音	音1
音量	2
言語／Lang.	日本語

2.十字キーで希望の設定を選びます。

撮影方法

1.撮影モード位置で、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。

● 液晶モニター／ファインダー内にDMFが点灯します。

2.シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを回します。

● 現在のピント位置までの距離が目安として表示されます。∞は無限遠を表します。

3.そのままシャッターボタンを押し込んで撮影します。

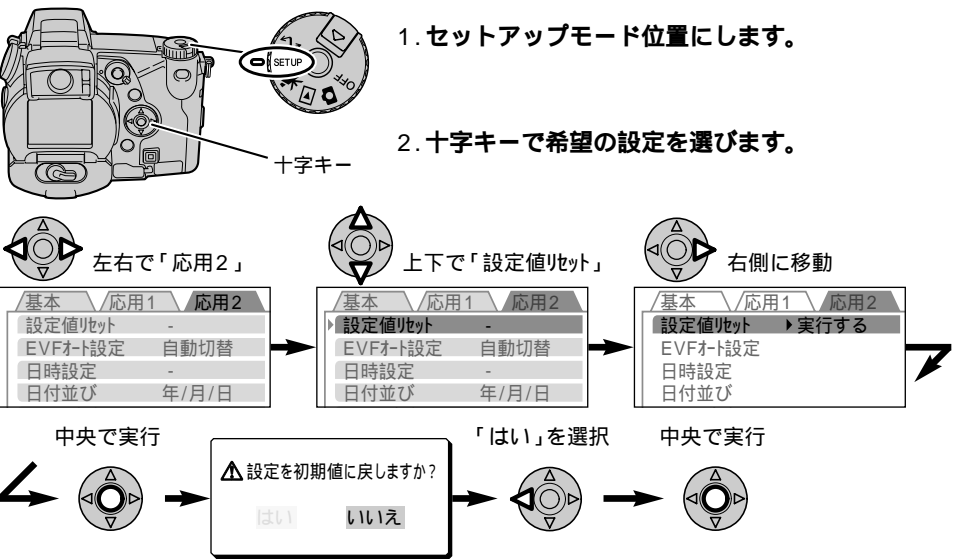
● シャッターボタンから指を離すと、次にシャッターボタンを半押しした時に再度ピント合わせが行われます。
● シャッターボタンを押さなくても、スポットAEロックボタンの機能を「押す間AF/AEL」または「再押しAF/AEL」にして機能させている間（P.110）もDMFを行なうことができます。「再押しAF／AEL」だとリングを回すときにボタンを押し続ける必要がないので便利です。
● マニュアルフォーカス用のピント確認（画面を4倍に拡大、P.112）も行なうことができます。

設定値リセット

カメラのほとんどの設定を、お買い上げ時の初期設定に戻すことができます。

1.セットアップモード位置にします。

2.十字キーで希望の設定を選びます。

中央で実行

リセットされる内容は以下の通りです。

ダイヤル等で設定するもの

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
露出モード	Pモード	50
ドライブモード	1コマ撮影	59
ホワイトバランス	オート（自動設定）	70
カスタムホワイトバランス	昼光	71
撮像感度	オート（自動設定）	72
測光モード	多分割測光	74
登録	フルオート	77
露出補正	±0	81
調光補正	±0	82
コントラスト	±0	84
彩度	±0	85
フィルター効果	0	86
デジタルズーム	解除	87
フォーカスエリア	ワイド	88
フォーカスモード	オートフォーカス	89

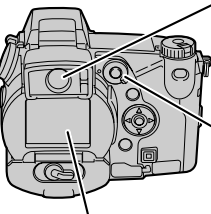
撮影モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
オートフォーカスモード	ワンショットAF	94
画像サイズ	2560×1920	96
画質	スタンダード	98
フラッシュモード	通常発光	102
ワイヤレスチャンネル	CH1	107
調光モード	ADI調光	108
スポットAEロックボタン	押す間AEロック	110
拡大ボタン	デジタルズーム	112
インターバル撮影	1分	65
インターバル撮影枚数	2枚	66
インターバル動画	静止画	164
UHS連続撮影	動画なし	166
写し込み	なし	114
カラーモード	標準カラー	118
シャープネス	標準	122
ブラケット段数	0.3段	63
アフタービュー	なし	124
ボイスメモ	なし	126

再生モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
インデックス画面	9コマ	144
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ再生画像	全コマ	146
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ間隔	5秒	146
ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ繰り返し	しない	146
インデックスプリント	しない	151

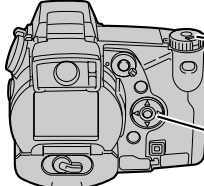
動画モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
音声	あり	160
ナイトムービー	自動切り替え	162

セットアップモードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
モニター明るさ	3	170
EVF明るさ	3	171
操作音	音1	172
シャッター音	音1	172
音量	2	172
ファイルNo.メモリ	しない	182
フォルダ形式	標準形式	178
表示モード選択	撮影データあり フォーカスフレームのみ ヒストグラム 表示なし	183
ﾀﾞｲﾚｸﾄﾏﾆｭｱﾙﾌｫｰｶｽ	なし	186
EVFオート設定	自動切り替え	190
パワーセーブ	1分	194

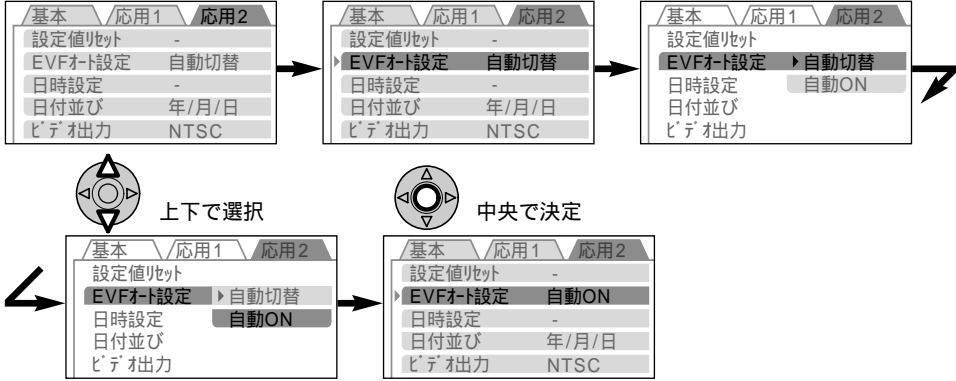
通信モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
通信情報（メールアドレス、ユーザー名等）	削除	220 ｜ 224

EVFオート設定の機能変更

撮影モードまたは動画撮影モードでは、画像はカメラ背面の液晶モニターまたはファインダー(EVF)に表示されます。

ディスプレイ切り替えレバーには、画像の表示場所が自動的に切り替わるⒶ(AUTO)があります。その機能を変更し、液晶モニターをOFFにして、電池の消耗を最小限に抑えることができます。

EVFｵｰﾄ設定 / ﾚﾊﾞｰの位置	自動切り替え（初期設定）	自動ON
EVF	ファインダーにのみ常時表示	ファインダーにのみ常時表示
Ⓐ	ファインダーをのぞいているときにはファインダーに表示、のぞいていないときは液晶モニターに表示	ファインダーをのぞいているときにはファインダーに表示、のぞいていないときは画像表示なし
|◯|	液晶モニターにのみ常時表示	液晶モニターにのみ常時表示

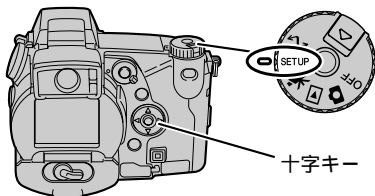
- 上の表の□部分（EVFオート設定が「自動ON」、ディスプレイ切り替えレバーがⒶ位置）のときが、電池の消耗が最小になります。
- 上の表の右側の「自動ON」が機能するのは、撮影モード📷および動画撮影モード🎥のみです。その他の再生モード時▶等では「自動切り替え」と同様、Ⓐ位置でファインダーをのぞいていなければ液晶モニターに画像が表示されます。

1.セットアップモード位置にします。

SETUP	
基本 / 応用1 / 応用2	
ﾓﾆﾀｰ明るさ	3
EVF明るさ	3
操作音	音1
ｼｬｯﾀｰ音	音1
音量	2
言語／Lang.	日本語

2.十字キーで希望の設定を選びます。

日時設定

日時の修正が必要な場合は、以下の手順で行なってください。

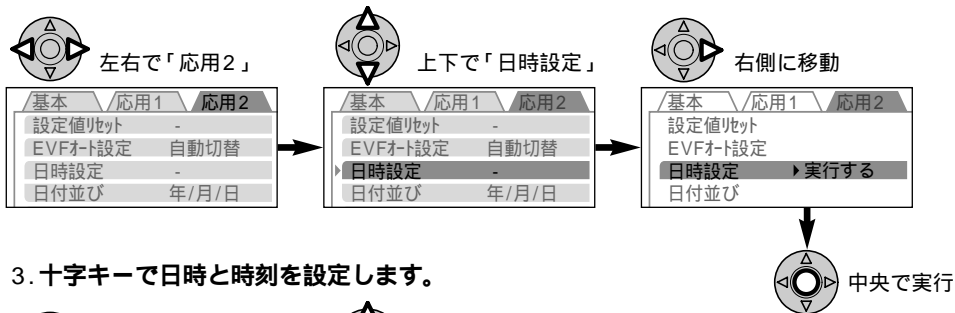
● 2099年までの日付が記憶されており、撮影のたびに数値を設定する必要はありません。

1.セットアップモード位置にします。

2.十字キーで日時設定画面を選びます。

3.十字キーで日時と時刻を設定します。

必要なだけこの操作を繰り返します。

● 十字キーを押し続けると、数値が早送りされます。

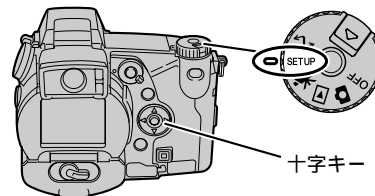
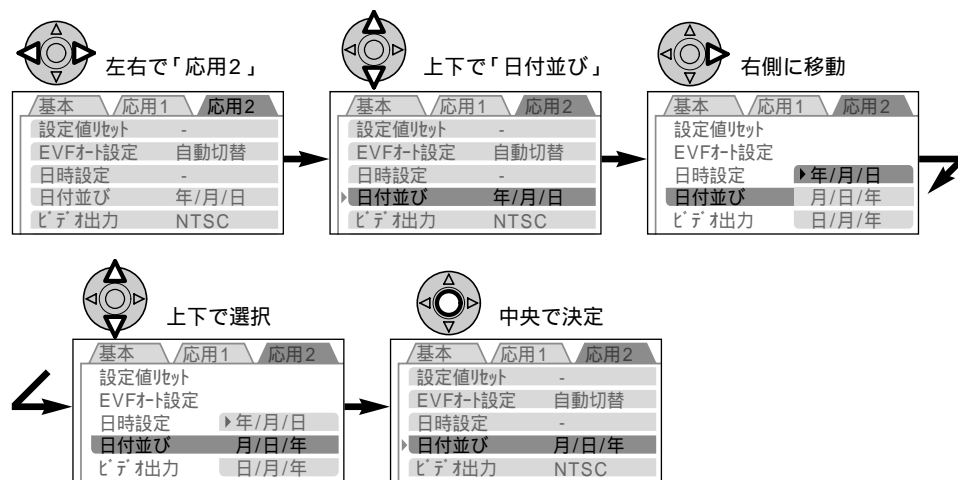
● メニューボタンを押すと、設定した数値はキャンセルされ元の画面に戻ります。

4.十字キー中央の実行ボタンを押すと、時計がスタートします。

日付並び

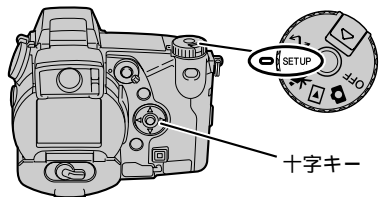
「年月日」の並び順を、「月日年」または「日月年」に変えることができます。

1.セットアップモード位置にします。

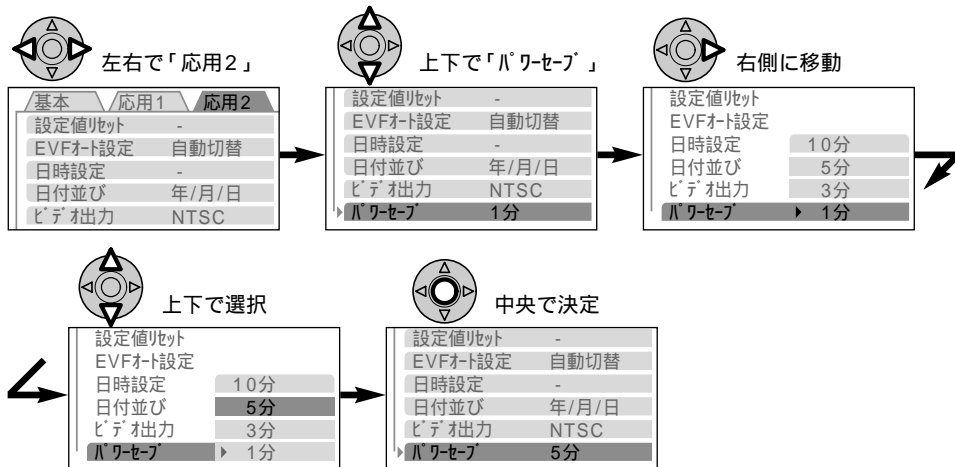
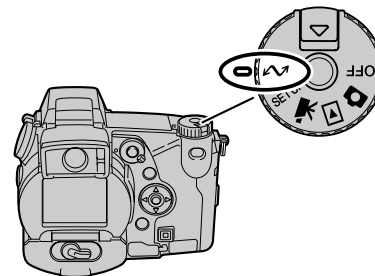
2.十字キーで希望の設定を選びます。

日付並び
日時設定

パワーセーブまでの時間変更

このカメラは、初期設定では約1分以上何も操作をしないでいると、自動的に省電力設定になり、上面データパネルとファインダーが消灯します（パワーセーブ →P.25）。このパワーセーブまでの時間を、1分、3分、5分、10分のいずれかに変更することができます。

● 液晶モニターは約30秒間何も操作をしなければ消灯します。この時間の変更はできません。

1.セットアップモード位置にします。

SETUP	
基本 / 応用1 / 応用2	
ﾓﾆﾀｰ明るさ	3
EVF明るさ	3
操作音	音1
ｼｬｯﾀｰ音	音1
音量	2
言語／Lang.	日本語

2.十字キーで希望の設定を選びます。

通信モード

この章では、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルが〜位置（通信モード）にあるときの各種設定について説明しています。画像をパソコンに取り込んだり、市販のデータカード型PHS等を用いて画像を送信したりすることができます。

● ダイヤルをOFFの位置から動かす場合は、ロック解除ボタンを△の方向に押しながらダイヤルを回します。

ダイヤルを〜位置（通信モード）にしていると、ファインダー／液晶モニター内の左上に「〜通信」が現れます。

上面データパネルには、trnS（transferの略）の文字が現れます。

USB接続の動作環境

次のパーソナルコンピュータ（以下パソコン）をお持ちの場合、カメラをパソコンに接続して、画像をパソコンに取り込むことが可能です。接続には付属のUSBケーブル USB-100をお使いください（USBマスストレージ対応）。

コンピュータ	IBM PC/AT互換機 （NEC PC98-NXシリーズを含む）	Apple Macintoshシリーズ
OS	Windows XP、Windows Me、 Windows 2000 Professional、 Windows 98、98 Second Editionが インストール済み	Mac OS 8.6〜9.2.2、 Mac OS X 10.1〜10.1.3が インストール済み
その他	USBポート標準装備	USBポート標準装備

- ご使用のOSの環境において、USBポートがパソコンメーカーに動作保証されていることが必要です。詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。
- 同時に使われるUSB機器によっては、正常に動作しない場合があります。
- USBポートは内蔵のみをサポートします。ハブ接続した場合は正常に動作しない場合があります。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
- Windows 95やNT4.0は、USB接続は動作保証対象外ですが、市販のPCカードアダプタやCFカードリーダーを用いて、カードの画像を直接パソコンで読み取ることは可能です。

最新の動作環境情報（互換性情報）については、弊社ホームページをご覧いただくか、裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。
ホームページの場合は、以下のサイトから「サポート情報」のページをご覧ください。
http://www.minolta-sales.co.jp/

お持ちのパソコンにより、画像を表示させる方法は異なります。

Windows XP、Me、2000の場合

USBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→P.198〜

Windows 98または98SEの場合

付属のディマージュソフトウェアCD-ROMから、USBドライバをパソコンにインストールする必要があります。→P.205
その後USBケーブルでカメラとパソコンを接続してお使いください。→P.198〜

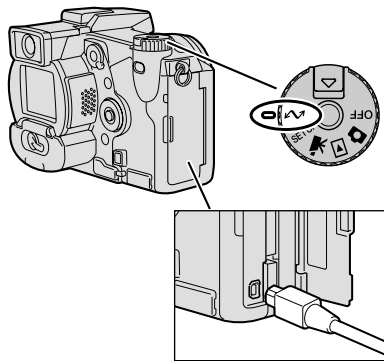
Macintoshの場合（Mac OS 8.6以外）

USBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→P.198〜

Mac OS 8.6の場合

USB接続するためには、アップルコンピュータ社のサイト（http://www.apple.com）から「USB Mass Storage Support」をダウンロードする必要があります。詳しくはアップルコンピュータ社にお問い合わせください。
その後USBケーブルでカメラとパソコンを接続してお使いください。→P.198〜

パソコンへ接続する（USB接続）

カメラとパソコンをケーブルで接続する

1.パソコンの電源を入れます。

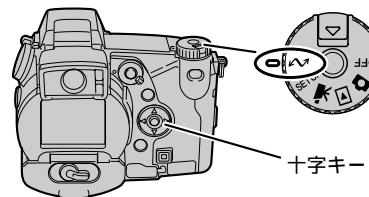
2.カメラのメインスイッチ／モード切り替えダイヤルを 位置（通信モード）に合わせます。
● カメラにカードが入っているのを確認してください。

3.カードスロットふたを開け、付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタをUSB端子に差し込みます。
● 奥まで確実に差し込んでください。

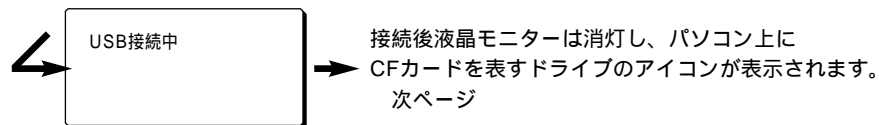
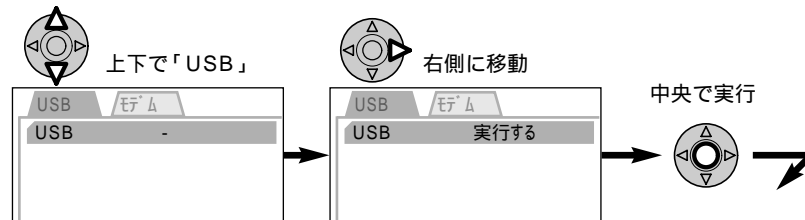
4.USBケーブルの大きいほうのコネクタを、パソコン本体のUSBポートに差し込みます。
● 奥まで確実に差し込んでください。
● USB接続は、接続する際にはカメラやパソコンの電源を入れたまま行なうことができますが、取り外す際にはP.202の指示にしたがってください。

続いてカメラをUSB設定にします。→次ページ

カメラをUSB設定にする

カメラとパソコンの接続が完了すると、続いてカメラをUSB設定にします。

1.カメラを通信モード位置にします。

2.十字キーでUSBを選びます。

接続後液晶モニターは消灯し、パソコン上にCFカードを表すドライブのアイコンが表示されます。
→次ページ

画像ファイルを開く

USB接続が完了すると、カメラ内のCFカードの画像をパソコンで見ることができます。

1.カードのアイコンをダブルクリックして開けます。

Windowsでは、カードがマイ コンピュータ上に「リムーバブルディスク」として現れます。

Windows XPでは右の画面が現れるので、目的に応じて選択してください。

Macintoshでは、カードがデスクトップ上に「名称未設定」として現れます。

2.目的の画像を探します。

※カード内のフォルダ構成について →P.175

3.画像を開けるには、画像ファイルをダブルクリックします。画像をパソコンに保存するときは、ドラッグアンドドロップで画像ファイルを任意の場所にコピーします。

- USB接続中は、カメラを10分間操作しないでいると自動的にカメラがOFFになります（「デバイスを停止させないで取り外しました」等のメッセージが出ることもあります）。必要な画像をパソコンに取り込んだ後は、USB接続を解除することをおすすめします。

※画像表示・再生用ソフトについて →P.204

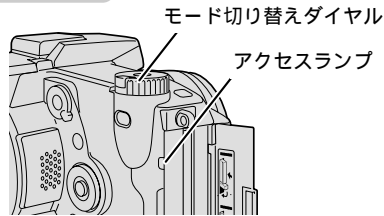
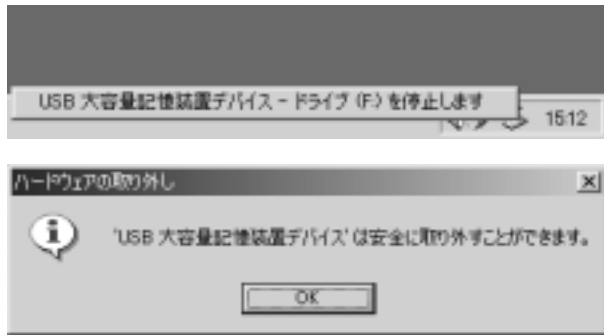
- Windows 98／98SE使用時に、接続後［新しいハードウェアの追加ウィザード］の画面で止まった場合は、ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。→ドライバをインストールしていない場合はP.205へ、すでにしている場合はP.206へ
- カードに該当するアイコンが表示されない（カードが認識されない）場合は、パソコンを再起動してください。それでも認識されない場合は →P.208
- カメラをパソコンに接続して作業を行なう場合は、カメラの電池容量に注意してください。データ交信中に電池がなくなると、パソコンのエラーやカード内の画像データ破損の原因となります。別売りのACアダプター AC-1Lの使用をおすすめします。
- カメラとパソコンを接続しているとき、特にデータの交信中（アクセスランプ点灯中）には、以下の操作は行なわないでください。パソコンのエラーや、カード内の画像データ破損の原因となります。
  - ・カメラのメインスイッチ／モード切り替えダイヤルを動かす。
  - ・USBケーブルを取り外す。
  - ・カードまたは電池を取り出す。
- カードのフォーマットはカメラ側で行なってください（P.140）。パソコンでカードのフォーマットを行なうと、カメラ側でカードを認識しないことがあります。
- パソコンでカード内の画像データのファイル名を変更したり、カメラによる画像データ以外のデータを書き込んだりしないでください。カメラで再生できないだけでなく、カメラの機能に支障をきたすことがあります。

USBケーブルの取り外し・接続中のカードの交換

USBケーブルを取り外す場合や、パソコンに接続した状態でカメラ内のCFカードを交換する場合は、先に以下の操作を行なってください。

モード切り替えダイヤル
アクセスランプ

Windows XP、Me、2000の場合

お使いのWindows OSによって表示や文言が異なりますが、基本操作は同じです。

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. タスクバー（パソコンの画面右下）に表示されている［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］または［ハードウェアの安全な取り外し］のアイコンを左クリックします。

3. ［USBディスクの停止］または［USB大容量記憶装置デバイスを停止します（または安全に取り外します）］を左クリックします。

ハードウェアの取り外し
'USB 大容量記憶装置デバイス' は安全に取り外すことができます。
OK

4. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［OK］または☒をクリックします。
5. モード切り替えダイヤルを∿以外の位置に回します。（カード交換時はOFFにします。）
6. USBケーブルを取り外します。（またはカードを交換します。）

● カード交換後は、もう一度カメラのメニューボタンでUSB接続の実行を選んでください。

● 前ページの2で、アイコンの左クリックの代わりに、ダブルクリックまたは右クリックも可能です。以下の手順に沿ってください。
  1. ハードウェアの取り外し画面が現れたら、USBを選択して［停止］をクリックする。
  2. ハードウェア デバイスの停止画面が現れたら、カメラを選択して［OK］をクリックする。
  3. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［OK］または☒をクリックする。
  4. USBケーブルを取り外す、またはCFカードを交換する。

Windows 98または98 Second Editionの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. モード切り替えダイヤルを∿以外の位置に回します。（カード交換時はOFFにします。）
3. ケーブルを取り外します。（またはカードを交換します。）

● カード交換後は、もう一度カメラのメニューボタンでUSB接続の実行を選んでください。

Macintoshの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. カードのアイコンをゴミ箱へ移します。
3. ケーブルを取り外します。（カード交換時は、モード切り替えダイヤルをOFFにしてからカードを交換します。）

● カード交換後は、もう一度カメラのメニューボタンでUSB接続の実行を選んでください。

画像の表示・再生に必要なソフトウェア

このカメラで撮影した画像をパソコンで表示させるには、以下のソフトウェアが必要です。

JPEGファイル（エコノミー・スタンダード・ファインで撮影された画像）の場合
最後に「.JPG」が付いているファイルで、一般的な画像表示ソフトで開くことができます。お持ちでない場合は、付属のディマージュソフトウェアCD-ROM内の「DiMAGE Viewer」をインストールしてお使いください。→DiMAGE Viewer使用説明書参照

TIFFファイル（スーパーファインで撮影された画像）の場合
最後に「.TIF」が付いているファイルで、一般的な画像表示ソフトで開くことができます。お持ちでない場合は、付属のディマージュソフトウェアCD-ROM内の「DiMAGE Viewer」をインストールしてお使いください。→DiMAGE Viewer使用説明書参照

RAWファイル（RAWで撮影された画像）の場合
最後に「.MRW」が付いているファイルで、一般的な画像表示ソフトでは開くことができません。付属のディマージュソフトウェアCD-ROM内の「DiMAGE Viewer」をインストールしてお使いください。→DiMAGE Viewer使用説明書参照

MOVファイル（動画）の場合
最後に「.MOV」が付いているファイルで、再生するにはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。お使いのWindowsパソコンにインストールされていない場合は、付属のディマージュソフトウェアCD-ROM内のQuickTimeをインストールしてお使いください。→P.210
- DiMAGE Viewerで動画を見る場合も、先にQuickTimeをインストールしておく必要があります。
- Macintoshの場合通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

WAVEファイル（音声ファイル）の場合
最後に「.WAV」が付いているファイルで、OSに付属の音声再生ソフト（Media Player、QuickTime Player等）で再生することができます。画像と同時に再生することはできません。

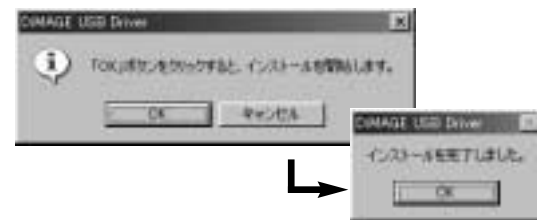
サムネール画像の場合
最後に「.thm」が付いているファイルで、DiMAGE Viewerのサムネール表示用です。

ドライバのインストール（Windows 98/98SEのみ）

Windows 98／98 Second Editionをお使いの場合、付属のディマージュソフトウェアCD-ROMから、パソコンにドライバをインストールする必要があります。

1. ディマージュソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
- 左の画面が現れます。

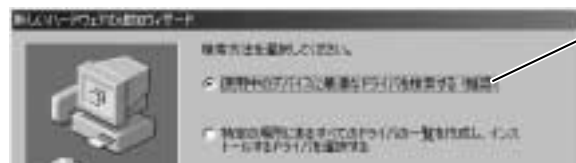
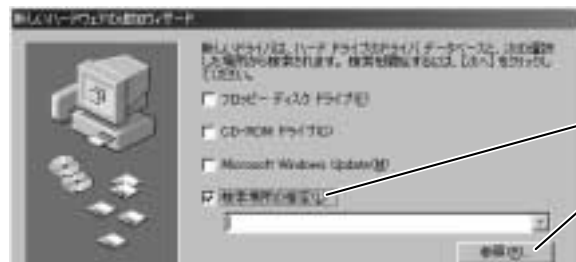
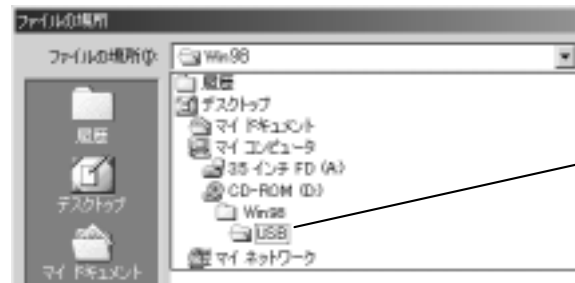
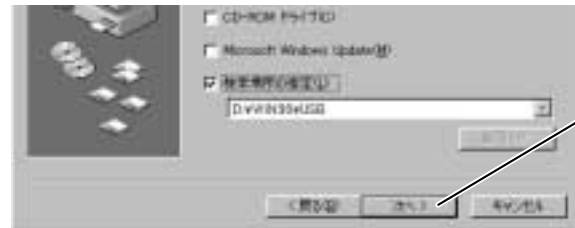
2. ［USBデバイスドライバ インストーラの起動］をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストールを開始します。

- このカメラ（DiMAGE 7i）でWindows 98/98SE用のドライバをインストールした後に、ミノルタDiMAGE X/7/5/S304/2330のWindows 98/98SE用ドライバをインストールすると、DiMAGE 7iのUSB接続ができなくなることがあります（逆の順序でインストールすると問題ありません）。両方お持ちの場合は、DiMAGE 7iのドライバをインストールするだけで上記のカメラすべてのUSB接続ができるようになります。
- お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュソフトウェアCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

ドライバのインストールが完了すると、続いてカメラとパソコンを接続します。→P.198〜

接続時に追加ウィザードが現れた場合

お使いのパソコンの環境によっては、前ページの要領でドライバをインストールして「インストールを完了しました。」のメッセージが表示されても、正しくインストールされていないことがあります。以下の画面が表示された場合は、次の手順に沿ってください。

1. [次へ>] をクリックします。

2. [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）] を選択し、[次へ>] をクリックします。
3. DiMAGEソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
4. [検索場所の指定] を選択し、[参照] をクリックします。

5. 検索場所を、[CD-ROM] − [Win98] − [USB] の順に指定します。

6. [次へ>] をクリックします。

7. ドライバが検出されインストールの準備ができると、[次へ>] をクリックします。
8. インストールが完了すると、[完了] をクリックします。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュソフトウェアCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

USB接続ができないときは

Windowsをお使いの場合でカメラをパソコンに接続しても認識されなかった場合は、以下の方法でUSBドライバをいったん削除（アンインストール）し、その後再度接続してください。
弊社ホームページもご覧ください。　http://www.dimage.minolta.co.jp/

Windows XP、2000の場合

1. カメラにカードを入れ、カメラとパソコンを接続します。→P.198
● パソコンにはカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。
2. パソコンのデスクトップ上にある「マイコンピュータ」のアイコンを右クリックし、「プロパティ」を選びます。
● Windows XPでデスクトップ上に「マイコンピュータ」がない場合は、[スタート] − [コントロールパネル] − ([パフォーマンスとメンテナンス]) − [システム] と選択してください。
3. 「システムのプロパティ」が表示されるので、「ハードウェア」のタブをクリックし、続いてその中の「デバイスマネージャ」をクリックします。
4. 「その他のデバイス」または「USBコントローラ」にカメラ名称を含む項目が表示されますので、その項目を選びます。
● 項目の左側に「+」が表示されているときは、まず「+」をクリックしてください。
● カメラ名称を含む項目が見当たらない場合は、「?」マークで表示されている項目を選んでください。
5. デバイスマネージャ画面の上部にある「操作」から「削除」を選んでクリックします。
6. 削除の確認画面が現れるので、「OK」をクリックします。
7. カメラの電源を切り、パソコンを再起動させます。

Windows Me、98、98SEの場合

1. カメラにカードを入れ、カメラとパソコンを接続します。→P.198
● パソコンにはカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。
2. パソコンのデスクトップ上にある「マイコンピュータ」のアイコンを右クリックし、「プロパティ」を選びます。
3. 「システムのプロパティ」が表示されるので、「デバイスマネージャ」のタブをクリックします。
4. 「その他のデバイス」または「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」にカメラ名称を含む項目が表示されますので、その項目を選びます。
● 項目の左側に「+」が表示されているときは、まず「+」をクリックしてください。
● カメラ名称を含む項目が見当たらない場合は、「?」または「!」マークで表示されている項目を選んでください。
5. デバイスマネージャ画面の下部にある「削除」をクリックします。
6. 削除の確認画面が現れるので、「OK」をクリックします。
7. カメラの電源を切り、パソコンを再起動させます。Windows 98/98SEの場合は、この後P.205の要領で再度ドライバをインストールします。

QuickTimeのインストールと使い方

動画の再生にはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。お使いのWindowsパソコンにインストールされていない場合は、付属のディマージュソフトウェアCD-ROMからインストールしてください。

● Macintoshの場合、通常QuickTimeはインストール済みですので、そのまま動画再生が可能です。

QuickTime 5.0.2動作環境

● Pentiumプロセッサを搭載したPC互換コンピュータ
● 32MB以上のメモリ（RAM）
● Windows XP/2000/Me/98/95/NTオペレーティングシステム
● Sound Blasterおよびその互換サウンドカード、スピーカー
● DirectXバージョン3.0以降推奨

インストール方法

1.ディマージュソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

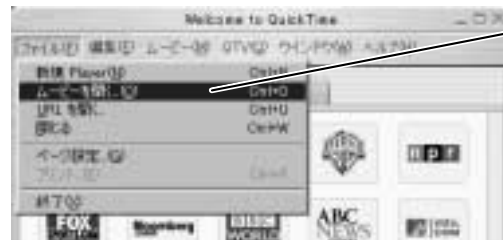
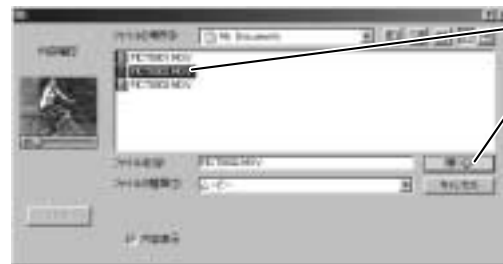
●左の画面が現れます。

2.［QuickTimeインストーラの起動］をクリックします。

3.画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

操作方法

1.QuickTimeを起動させます。

● QuickTime Playerのアイコンをダブルクリックするか、画面左下の［スタート］から［プログラム（P）］→［QuickTime］→［QuickTime Player］を選択します。

2.［ファイル（F）］から［ムービーを開く...（O）］を選択します。

3.再生したい動画を選択し、［開く（O）］をクリックします。

4.動画ファイルを再生します。

●動画の画像サイズはQVGA（320×240ピクセル）ですが、実際に記録される範囲は308×240ピクセルです。よって再生時には、画面両端に黒い帯が表示されます。

操作方法について、詳しくはヘルプをご覧ください。

画像送信

市販のデータカード型PHS等を使用すれば、パソコンがなくても、カメラで撮影した画像を外出先から直接送信することができます（日本国内のみ）。2002年3月現在、このカメラで使用可能な機種は以下の通りです。

NTT DoCoMo　データカード型PHS　P-in m@ster、P-in Comp@ct
TDK　CFタイプ　データ／FAXモデム　DF56CF

画像を送信するためには、あらかじめ送信先やプロバイダなどの通信情報をカメラに設定しておく必要があります。具体的には以下の手順となります。

1.付属のディマージュソフトウェアCD-ROMから通信設定ウィザードをインストールする。**→P.214（Windows）、P.217（Macintosh）**

- すでにインストールされている場合は次へお進みください。

2.CFカードを入れたカメラをパソコンに接続する。**→P.198〜199**

3.通信設定ウィザードを起動させ、送信先やプロバイダなどの通信情報をパソコンで入力する。**→P.220**

- 通信情報はカメラ内のCFカードに記録されます。

4.カメラとパソコンの接続を解除する。**→P.202**

5.カメラ内のCFカードの通信情報を、カメラ本体に転送する。**→P.225**

- 転送後、通信情報の入ったCFカードはカメラから取り出すことができます。

6.画像の入ったCFカードをカメラに入れ、画像を送信する。**→P.226**

- 送信時に画面の指示に従い、CFカードを抜いて上記のカード型PHSまたはCFモデムカードを入れてください。

通信設定ウィザードのインストール ― 動作環境

通信設定ウィザードをインストールして通信の設定を行なうためには、以下の動作環境が必要です。

機種	項目	動作環境
IBM PC/AT互換機（NEC PC-98NXシリーズ含む）	CPU	Intel Pentium 133MHz以上
	OS	Windows XP、Windows Me、Windows 2000 Professional、Windows 98、98 Second Edition
	モニター	VGA（640×480）以上
	他	CD-ROMドライブとUSB端子が必要
Apple Macintosh	CPU	PowerPC 100MHz以上
	OS	Mac OS 8.6〜9.2.2
	モニター	640×480以上
	他	CD-ROMドライブとUSB端子が必要

- USB接続の動作環境についてはP.196を、DiMAGE Viewerをお使いになる場合の動作環境についてはDiMAGE Viewerの使用説明書をご覧ください。

ミノルタDiMAGE 7i

画像送信について（補足）

使用説明書P.212記載のNTT DoCoMo P-in m@ster、P-in Comp@ct、TDK DF56CFに加え、以下の製品による画像送信も可能です。

NTT DoCoMo	P-in memory
DDI POCKET	AirH" Card petit [RH2000]
	AirH" Card petit [CFE-02]
	C@rdH" 64 petit [CFE-01]
	C@rdH" 64 petit [CFE-01/TD]

CF型PHSについて

PHSを利用した通信カードでは、標準規格であるPIAFS方式のアクセスポイントには対応していますが、移動通信事業者が提供するPTE（プロトコル変換装置）経由の通信サービスまたはパケット方式には対応しておりません。

- P-in m@sterは64k PIAFS方式（32k PIAFS方式を含む）には対応していますが、携帯電話／DoPaによる9600bps通信やパケット通信には対応しておりません。
- AirH" Card petitは64k PIAFS方式（32k PIAFS方式を含む）には対応していますが、パケット方式やフレックスチェンジ方式には対応しておりません。
- P-in memoryは通信機能には対応していますが、16MBの内蔵メモリを使用することはできません。

ミノルタ株式会社

9229-2779-22 MM-B208

通信設定ウィザードのインストール ― Windowsの場合

画像送信に必要な通信設定ウィザード（通信設定ソフト）のインストールを行います。すでにインストールされている方は、この手順は不要です。

- コンピュータウィルス感染防止のメモリ常駐プログラムやインストール監視プログラムなどは、誤動作の原因となることがあります。一時的に使用を中止してください。
- Windows XP／2000をお使いの場合、インストールは管理者（Administrator）権限を持つ環境で行なってください。

1.ディマージュソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

- 左の画面が現れます。

2.［DiMAGE Viewer インストーラの起動］をクリックします。

3.「DiMAGE Viewer用のInstallShieldｳｨｻﾞｰﾄﾞへようこそ」の画面が現れたら、［次へ>］をクリックします。

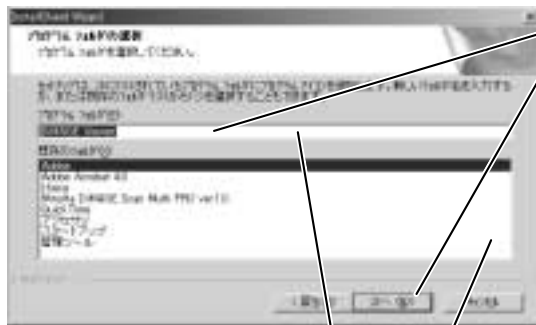
4.使用許諾契約画面が現れたら、全文を読み、同意する場合は［はい］をクリックします。

- 同意しない場合、［いいえ］をクリックしてください。インストールは中止されます。

5.インストール先の選択画面が現れたら、インストール先を確認し、［次へ>］をクリックします。

- 初期設定では、起動ディスクドライブの"Program Files"の中にインストールされます。変更する場合は、［参照...］をクリックし、インストール先のフォルダを指定した後、［OK］をクリックしてください。

6.セットアップタイプの選択画面が現れたら、セットアップタイプを選択し、［次へ>］をクリックします。

- ［DiMAGE Viewer ＋ 通信設定ウィザード］または［通信設定ウィザードのみ］を選択してください。
- DiMAGE Viewerの使用方法については、付属のDiMAGE Viewer用使用説明書をご覧ください。

7.アイコンを追加するフォルダ名が表示されます。場所を確認し、[次へ>] をクリックします。
- インストールが開始されます。
- 初期設定では、画面左下の [スタート] ― [プログラム] の中に [DiMAGE Viewer] フォルダが作成されます。

フォルダ名等変更する場合は
フォルダ名を変更するときはここに入力
既存のフォルダに追加するときはここで選択

8.インストールが完了したら、[完了] をクリックします。

9.1の画面 (P.214) に戻ったら、[終了] をクリックします。

次はカメラをパソコンに接続し (P.198～199)、続いて通信設定ウィザードを起動させて通信情報を設定します (P.220～)。

通信設定ウィザードのインストール ― Macintoshの場合

画像送信に必要な通信設定ウィザード (通信設定ソフト) のインストールを行います。すでにインストールされている方は、この手順は不要です。
- コンピュータウィルス感染防止のメモリ常駐プログラムやインストール監視プログラムなどは、誤動作の原因となることがあります。一時的に使用を中止してください。

1.ディマージュソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
- 自動的にCD-ROMの内容が表示されます。

2.[Utility] をダブルクリックして開きます。

3.[Japanese] をダブルクリックして開きます。

4.[Installer] をダブルクリックします。

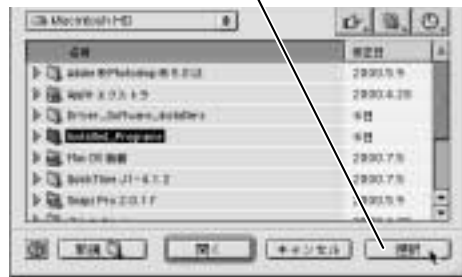
5.右の画面が現れたら、[次へ>>] をクリックします。

6.使用許諾契約画面が現れたら、全文を読み、同意する場合は [はい] をクリックします。
- 同意しない場合、[いいえ] をクリックしてください。インストールは中止されます。

7.セットアップタイプの選択画面が現れたら、セットアップタイプを選択し、［次へ>>］をクリックします。

- ［DiMAGE Viewer ＋ 通信設定ウィザード］または［通信設定ウィザードのみ］を選択してください。
- DiMAGE Viewerの使用方法については、付属のDiMAGE Viewer用使用説明書をご覧ください。

8.インストール先の選択画面が現れたら、［参照］をクリックしてインストール先を指定します。

- 下の画面が出たら、インストール先のボリュームまたはフォルダを選び、右下の［選択］をクリックしてください。

9.指定後、画面下の［次へ>>］をクリックします。

- インストールが開始されます。

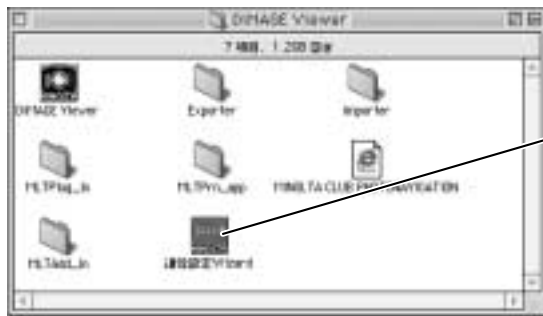
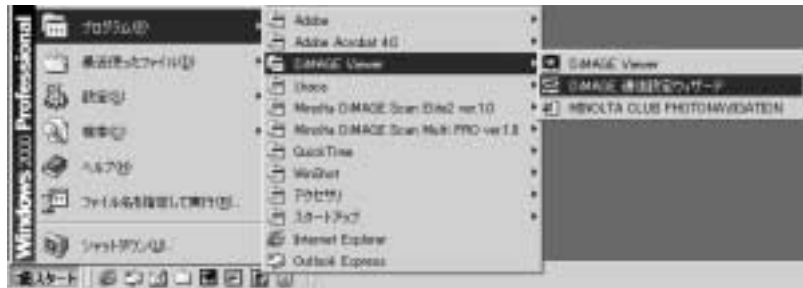
10.インストールが完了したら［完了］をクリックします。

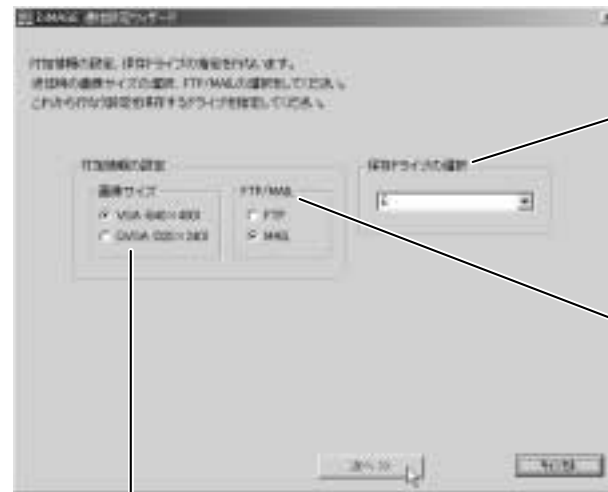
次はカメラをパソコンに接続し（P.198〜199）、続いて通信設定ウィザードを起動させて通信情報を設定します（P.220〜）。

通信情報の設定

パソコンにインストールしたDiMAGE通信設定ウィザードを用いて、送信先等の通信情報をCFカードに記録します。

1.カメラとパソコンを接続し、USB接続を実行します。→P.198～199

2.Windowsの場合、［スタート］→［プログラム(P)］→［DiMAGE Viewer］から［DiMAGE 通信設定ウィザード］を起動させます。

Macintoshの場合、「DiMAGE Viewer」フォルダをダブルクリックして開き、「通信設定Wizard」をダブルクリックして起動させます。

3.以下の付加情報およびドライブ情報の設定を行ない、［次へ>>］をクリックします。

保存ドライブの指定
CFカードのドライブを選択します。
※内蔵ハードディスク等にいったん通信情報を保存する場合は →P.232

FTP/MAIL
Eメールで送信する場合は「MAIL」、FTPサーバーにアップロードする場合は「FTP」を選択します。

送信画像サイズ
VGAを選ぶと640×480、QVGAを選ぶと320×240の画像サイズに自動的に変換されて送信されます。
スーパーファイン（TIFF）画像とRAW画像は自動的にJPEG画像に圧縮されます。

次ページへ続く

4.以下のプロバイダ情報の設定を行ないます。

トーン／パルス
CF型PHSの場合、どちらでも送信できます。CFモデムの場合はお使いの電話回線を設定してください。（この項目は送信時にもう一度選択できます）

IPプロトコルヘッダの圧縮有無
通常は「無」を選択します。「有」を選択する場合はプロバイダでサポートされているかご確認ください。

通常はチェックを入れます。内線電話等でダイヤル待ちでは送信できない場合は、チェックを外してください。（この項目は送信時にもう一度選択できます）

プロバイダ情報
入力はすべて半角英数字または半角記号で行なってください。

プロバイダ名：	プロバイダ名など任意の文字**最大8文字まで**を入力します。
ホスト名：	ホスト名など任意の文字最大64文字までを入力します（例：DiMAGE）。
電話番号：	プロバイダのアクセスポイントを入力します。3ヵ所までの登録が可能です（1は必須）*。-（ハイフン）は使用できますが（）（カッコ）は使用できません。
PIAFS設定速度：	CF型PHSの場合、チェックを入れて通信速度を選びます。
ユーザ名：	プロバイダから支給されるユーザーID（接続ID）を入力します。
パスワード：	プロバイダに登録したパスワードを入力します。
ﾌﾟﾗｲﾏﾘDNSｱﾄﾞﾚｽ：	プロバイダより支給されるDNSアドレスを入力します。
ｾｶﾝﾀﾞﾘDNSｱﾄﾞﾚｽ：	プロバイダより支給されるDNSアドレスを入力します（省略可能）。

*アクセスポイントは、送信時にカメラ側であと1つ追加することもできます。

5.設定が完了すると［次へ>>］をクリックします。前ページの3でEメール送信を選んだ場合は次ページへ、FTPを選んだ場合はP.224へお進みください。

6.P.221の3でメール送信を選んだ場合は、以下のメール情報の設定を行ないます。

メール送信先情報
送信先アドレスと送信先名を入力します。4ヵ所までの登録が可能です（1は必須）。
半角英数字と半角記号のみ使用可能、送信先名は最大8文字まで入力可能です。

メール送信元情報（入力はすべて半角英数字または半角記号で行なってください。）

SMTPサーバ：	プロバイダから支給されるサーバ情報を入れます。IPアドレス（数字）またはURL（文字）を選択します。
POPサーバ：	プロバイダから支給されるサーバ情報を入れます。IPアドレス（数字）またはURL（文字）を選択します。
POPユーザ名：	プロバイダから支給されるPOP（受信サーバ）のユーザーIDを入力します。
POPパスワード：	プロバイダに登録したPOP（受信サーバ）のパスワードを入力します。
送信元アドレス：	送信者のメールアドレスを入力します。
表題：	メールの表題（タイトル）を入力します。最大64文字までの入力が可能。

7.［設定完了］をクリックすると、書き込み完了のメッセージが現れます。

次はUSB接続を解除し、CFカードに入力した通信情報をカメラ本体に転送します。→P.225
（USB接続を解除しないままで転送することもできます。）

6. P.221の3でFTP送信を選んだ場合は、以下のFTPサーバ情報の設定を行ないます。

● FTPサーバ情報は、4ヵ所までの登録が可能です（1は必須）。

FTPサーバ
FTP＝File Transfer Protocolの略。インターネット上でファイルの送受信をするときに使われる通信上の決まり（通信プロトコル）のひとつ。このカメラの場合、多数の人に画像を見てもらう必要があるときに、FTPサーバに画像を保存し、そのIPアドレスまたはURLを知らせてアクセスしてもらうことが可能です。

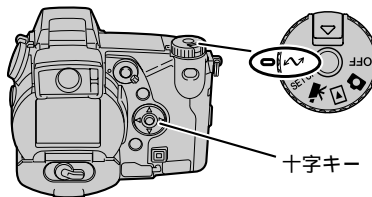
FTPサーバ情報（入力はすべて半角英数字または半角記号で行なってください。）

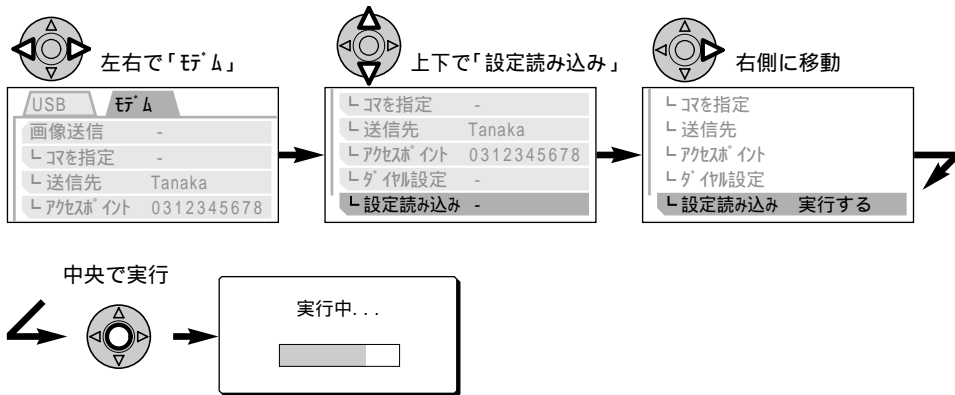
FTPサーバ愛称：　FTPサーバ名など任意の文字**最大8文字まで**を入力します。
FTPサーバ：　FTPサーバ情報を入れます。IPアドレス（数字）またはURL（文字）を選択、必要ならばディレクトリも入力します。
ユーザ名：　ユーザーIDを入力します。最大64文字まで入力可能。
パスワード：　パスワードを入力します。

7. ［設定完了］をクリックすると、書き込み完了のメッセージが現れます。

次はUSB接続を解除し、CFカードに入力した通信情報をカメラ本体に転送します。→次ページ
（USB接続を解除しないままで転送することもできます。）

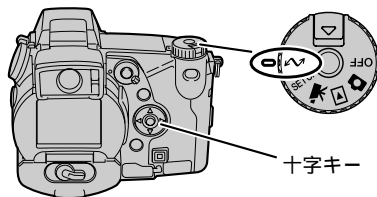
通信情報のカメラへの転送（設定読み込み）

コンパクトフラッシュカード（CFカード）に記録した通信情報を、カメラ本体に転送します。

1. カメラを通信モード位置にします。

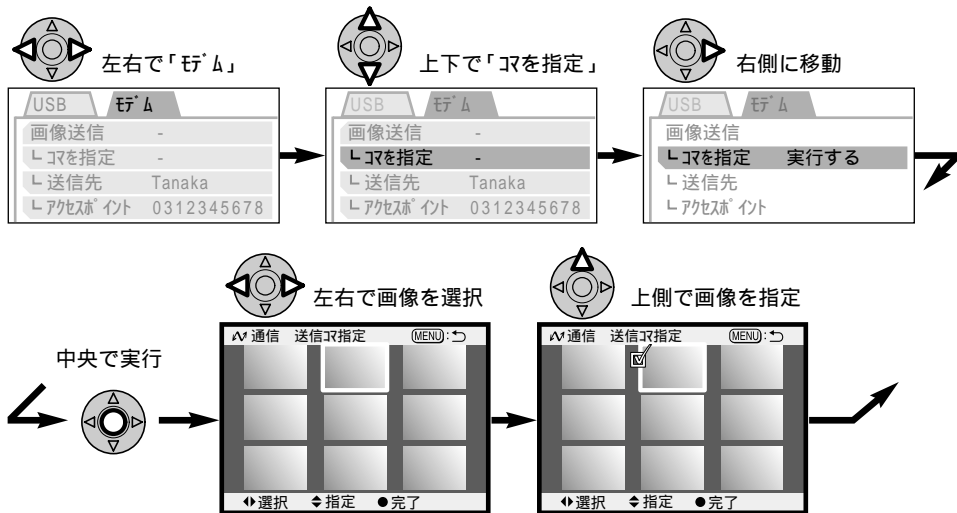
2. 十字キーで「設定読み込み」を選びます。

● 転送後、通信情報の入ったCFカードはカメラから取り出すことができます。

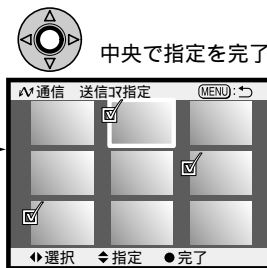
次は、画像の送信を行ないます。→次ページ

画像の送信

CFカード内の画像を、登録したメールアドレスまたはFTPサーバに送信します。

1.送信したい画像の入ったCFカードをカメラに入れます。

2.カメラを通信モード位置にします。

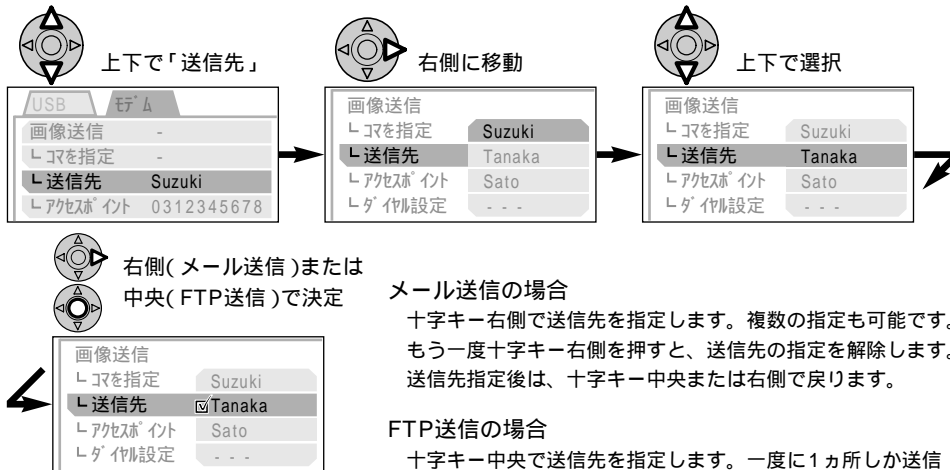
3.十字キーで送信する画像を選びます。

送信を指定したコマには☑が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

●十字キーの下側を押すと、画像の指定を取り消します。

●十字キー中央の代わりにメニューボタンを押すと、指定した画像はキャンセルされ元の画面に戻ります。

●動画の送信はできません（選択できません。）

4.十字キーで送信先を選びます。

右側（メール送信）または中央（FTP送信）で決定

画像送信	
ｺﾏを指定	Suzuki
送信先	☑Tanaka
ｱｸｾｽﾎﾟｲﾝﾄ	Sato
ﾀﾞｲﾔﾙ設定	ーーー

メール送信の場合

●十字キー右側で送信先を指定します。複数の指定も可能です。

●もう一度十字キー右側を押すと、送信先の指定を解除します。

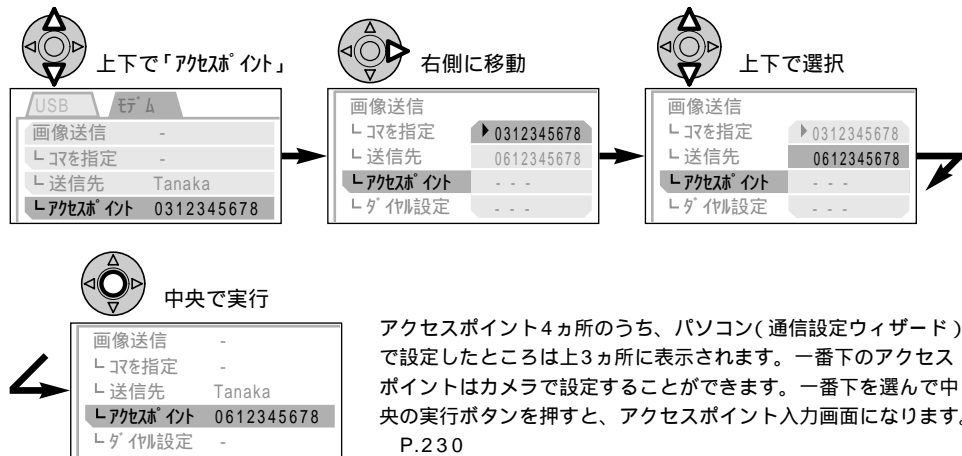
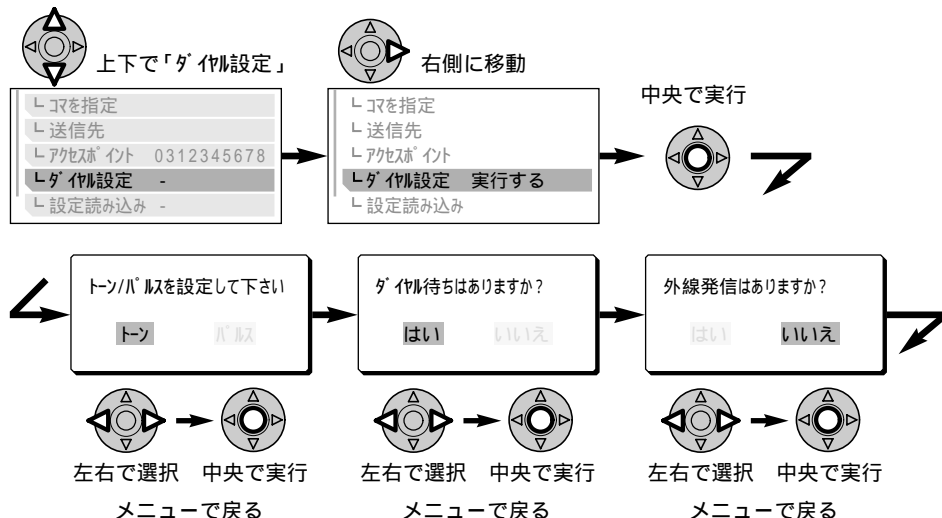
●送信先指定後は、十字キー中央または右側で戻ります。

FTP送信の場合

●十字キー中央で送信先を指定します。一度に1ヵ所しか送信できません。

次ページへ続く

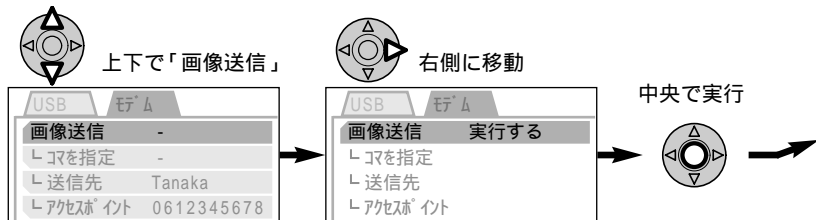
5.十字キーでアクセスポイントを選びます。

●アクセスポイント4ヵ所のうち、パソコン（通信設定ウィザード）で設定したところは上3ヵ所に表示されます。一番下のアクセスポイントはカメラで設定することができます。一番下を選んで中央の実行ボタンを押すと、アクセスポイント入力画面になります。→P.230

6.十字キーで各種のダイヤル設定を選びます。

●トーン／パルスとダイヤル待ちについては、P.222で設定された内容が最初に表示されます。個別に変更する場合はここで変更することができます。
●トーン／パルスについては、CF型PHSの場合はどちらでも送信できます。CFモデムの場合はお使いの電話回線を設定してください。

外線発信のない場合　→ダイヤル設定終了、送信実行へ →次ページ

外線発信のある場合　→キーボードで外線発信番号選択、その後送信実行へ →次ページ

次ページへ続く

7.十字キーで指定した画像を送信します。

アクセスポイント／外線発信番号の入力方法

4番目（一番下）のアクセスポイントおよび外線発信を選択すると、以下のキーボードが表示されます。

● アクセスポイントは、2番目または3番目を設定していなくても4番目を設定することができます。

十字キーの上下左右で番号を選択し、中央の実行ボタンで番号を1つずつ確定します。

メニューボタンを押すとキャンセルされます。

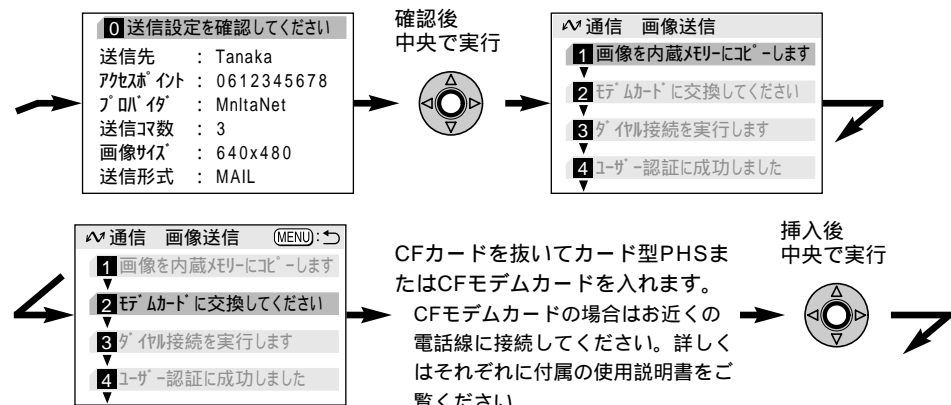
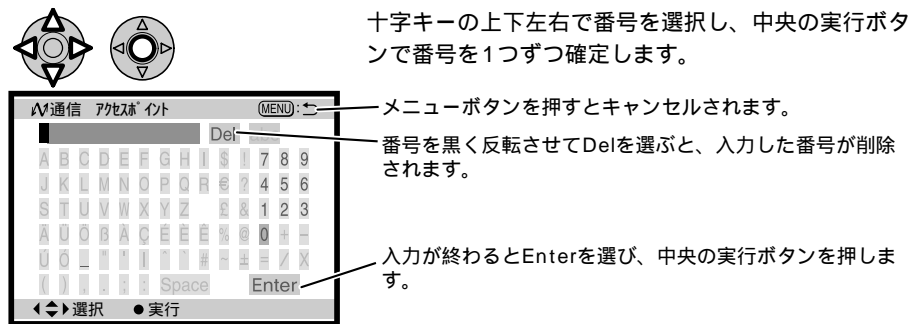
番号を黒く反転させてDelを選ぶと、入力した番号が削除されます。

入力が終わるとEnterを選び、中央の実行ボタンを押します。

● 文字や記号を入力することはできません。

CFカードを抜いてカード型PHSまたはCFモデムカードを入れます。

● CFモデムカードの場合はお近くの電話線に接続してください。詳しくはそれぞれに付属の使用説明書をご覧ください。

● メニューボタンを押すと送信はキャンセルされ、元の画面に戻ります。

以下3～8は自動的に進みます。

※送信画面が途中で止まった場合は →次ページ

送信画面が途中で止まった場合は

送信時、電波状態の良くない場所では送信ができず、「画像を送信します」のメッセージのまま止まってしまうことがあります。このような場合は、カメラのメインスイッチをいったんOFFにして、もう一度送信し直してください。OFFにしても画面が消灯しない場合は、電池を一度取り出し、入れ直してください。

通信情報をいったんハードディスクに保存し、その後CFカードに転送する方法

P.212では、カメラとパソコンを接続して、通信情報をカメラ内のCFカードに直接保存する方法を説明しました。カメラとパソコンを接続しなくても、いったんパソコンの内蔵ハードディスク等に通信情報を保存し、後で接続してCFカードにそれをコピーすることもできます。

1. カメラとパソコンを接続していない状態で、DiMAGE通信設定ウィザードを起動させ、必要な通信情報を設定します。→P.220～224
   - P.221の3で保存ドライブを指定する際、希望するハードディスク等を選んでください。
   - 通信情報は"inetSet.txt"という名前のテキストファイルとして保存されます。
2. カメラとパソコンを接続します。→P.198～199
3. 保存した"inetSet.txt"をCFカードにコピーします。
   - 画像入りのCFカードの一番上の階層にコピーしてください（"DCIM"フォルダや"MISC"フォルダの中には入れないでください)。
4. CFカードの情報をカメラ本体に転送します。→P.225
5. 画像の入ったCFカードをカメラに入れ、画像を送信します。→P.226～

その他

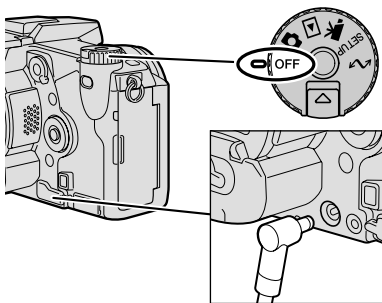
焦点距離換算表

このカメラの実焦点距離を、35mmフィルム換算の焦点距離に当てはめると以下の通りになります。

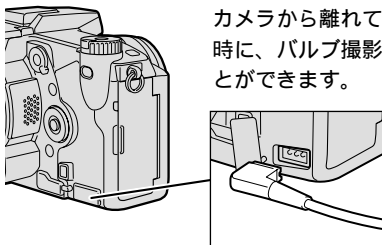
実焦点距離	7.2	9	13	21	27	34	38	50.8
35mmフィルム換算焦点距離	28	35	51	83	106	134	149	200

アクセサリー

ACアダプターAC-1L、外部電源パックEBP-100

屋内など家庭用電源（AC電源）が使える場合は、ACアダプターの使用が便利です。
またAC電源が使えない場所で長時間の撮影を行なう場合は、外部電源パックがご使用になれます。
リチウムイオン電池NP-100を2個使用します。

接続するときは、メインスイッチ／モード切り替えダイヤルをOFFに合わせた後、端子カバーを外して、DC電源入力端子にプラグを差し込みます。

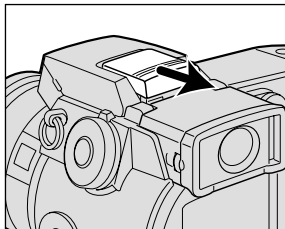
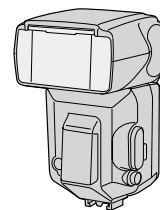
- 外すときも、ダイヤルをOFFにしてから外してください。

リモートコードRC-1000S／RC-1000L

カメラから離れてシャッターを切ることができます。カメラぶれを防ぐと同時に、バルブ撮影時（P.90）等、シャッターボタンを押したまま固定することができます。

取り付けるときは、リモートレリーズターミナルのカバーを開けて、コードをターミナルに接続します。

プログラムフラッシュ5600HS (D)
プログラムフラッシュ3600HS (D)

内蔵フラッシュでは光が届かないような距離でも、より大光量のプログラムフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。カメラのオートロックアクセサリーシューに直接取り付けてお使いになれます。

プログラムフラッシュ5600HS(D)

別売りのフラッシュを使う際には、アクセサリーシューのキャップを外してお使いください。

- これらのフラッシュを取り付けた場合、フラッシュのオートズーム位置（照射角）はカメラの35mmフィルム換算相当の焦点距離よりもやや広角側に設定されます。フラッシュ背面の24mmの表示またはランプが点滅したら、ワイドパネルの使用をおすすめします。マニュアルズームの場合は、やや広角側の照射角を設定してください。これらを考慮せずに撮影すると、画面周辺が暗くなることがあります。
  なお3600HS(D)でワイドパネルを取り付けた場合は、調光モードをP-TTL調光に設定してください。
  →P.108

マクロツインフラッシュ2400
マクロリングフラッシュ1200

マクロ撮影用のフラッシュです。ツインフラッシュは草花や昆虫の撮影に、リングフラッシュは資料等の撮影に適しています。マクロフラッシュコントローラーが必要です。

- これらのフラッシュ使用時は、テレマクロの使用をおすすめします。ワイドマクロだと画面周辺が暗くなることがあります。

クローズアップディフューザーCD-1000

内蔵フラッシュで手軽にマクロ撮影するときに便利です。内蔵フラッシュの前に拡散板を取り付けることにより、フラッシュの光をやわらげ、影を目立たせなくします。

PCフラッシュアダプターPCT-100

シンクロターミナルを装備し、カメラのアクセサリーシューに取り付けて使います。スタジオ等でシンクロコード付きの大型フラッシュを使って撮影することができます。最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションにてお買い求めください。

- PCT-100に付属のCD-ROMは、ディマージュ7／5用です。ディマージュ7iでは、カメラのファームウェアのアップデートをしなくてもそのままお使いになれます。
- Mモードで被写体の確認が難しい場合は、ファンクションボタンと表示切り替えボタンで画面を明るくすることができます。→P.58

その他のアクセサリー

フィルター等を使用する場合は、49mm径をお使いください。

PL（円偏光）フィルター・クローズアップレンズNo.0／No.1

焦点距離50mm（35mmフィルム換算）未満では、フィルターやレンズの一部が画面に写り込むことがあります。

クローズアップレンズNo.2

焦点距離100mm（35mmフィルム換算）未満では、フィルターやレンズの一部が画面に写り込むことがあります。

フィルターアダプター49mm→55mm

リングやフィルターの一部が画面に写り込むので、ご使用になれません。（49mm→62mmはご使用になれます。）

不具合が生じたときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
液晶モニター／ファインダーが真っ暗になる	スーパーファイン（TIFF）またはRAWで撮影した	撮影後、CFカードへの記録に数十秒かかることがあります。記録中はアクセスランプが点灯します。	99
	ウルトラハイスピード（UHS）連続撮影またはバルブ撮影をした		68 90
	パワーセーブが作動した	液晶モニターは30秒以上、上面データパネルとファインダーは1分以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に消灯します。	25
	カメラをテレビまたはパソコンに接続している	接続中は液晶モニターやファインダーの表示は消灯します。	134 199
液晶モニターやファインダーが白黒になる	暗いところで撮影している（静止画）	暗いところでは被写体を確認しやすくするため、自動的に白黒になります（モニター自動感度アップ機能）。撮影される画像はカラーです。	39
	暗いところで撮影している（動画）	暗いところでは被写体の動きを見やすくするため、自動的に撮影画像が白黒になります（ナイトムービー）。	162
シャッターが切れない	カメラが撮影モード または動画撮影モード 以外になっている	メインスイッチ／モード切り替えダイヤルを または にしてください。	38 156
	ウルトラハイスピード（UHS）連続撮影で電池容量が少なくなっている	UHS連続撮影では、 が点灯すると撮影できません。	69 167

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
オートフォーカスでピントが合わない	オートフォーカスの苦手な被写体（P.32）を撮ろうとしている	フォーカスロック撮影、フレックスフォーカスポイント撮影、マニュアルフォーカス撮影のいずれかを行なってください。	33 88 89
	被写体に近づき過ぎている	カメラより約50cm以上離れたものにしかピントが合いません。それ以上近くを撮影する時には、マクロ撮影を行なってください。	46
000が表示されシャッターが切れない	CFカードがいっぱいである	画像を消去するか、カードを交換してください。画像サイズや画質を変えると撮影できることもあります。	138 100
シャッター速度と絞り値が赤くなる／点滅する	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、カメラの測光範囲またはシャッター速度や絞り値の範囲を超えている	明る過ぎるときは、NDフィルターを使うか、被写体を暗くします。暗過ぎるときは、フラッシュを発光させるか、被写体を明るくします。	−
Aモードでシャッター速度が赤くなる／点滅する	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、シャッター速度の範囲を超えている	シャッター速度が点滅しない範囲で絞り値を設定してください。	53
Sモードで絞り値が赤くなる／点滅する	被写体が明る過ぎ、または暗過ぎて、絞り値の範囲を超えている	絞り値が点滅しない範囲でシャッター速度を設定してください。	55
Mモードでシャッター速度と絞り値が赤くなる／点滅する	設定したシャッター速度と絞り値では写真が大幅に露出オーバーまたはアンダーになる	シャッター速度か絞り値を変更してください。	57

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
フラッシュ撮影したものが全体的に暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しなかった	フラッシュ撮影時は、フラッシュ光の届く範囲内で撮影してください。	35 73
フラッシュ撮影したものの下部が暗い	レンズフードを付けたまま撮影した	内蔵フラッシュで撮影する時は、レンズフードを外してください。	92
写真がブレている	暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こした	シャッター速度が遅くなるので、三脚を使用してください。フラッシュを使う方法もあります。	−
画像に余分な光が入っている	逆光で広角側で撮影したため、レンズに余分な光が入った	レンズフードを取り付けてください。	92
「このｶｰﾄﾞは使えません」のメッセージが出る	コンパクトフラッシュカード（CFカード）以外のカードを入れた	画像の記録にはコンパクトフラッシュカードをお使いください。	−
「ｶｰﾄﾞを認識できません」のメッセージが出る	CFカードのフォーマットが適切でない	カードのフォーマット（初期化）を行なってください。	140
「ｶｰﾄﾞｴﾗｰ」のメッセージが出る	十字キー中央の実行ボタンで［確認］と押した後、電源をOFFにしてカードを取り出してください。消耗・破損によりカードが使えない可能性があります。動作確認済みのCFカードについては、弊社ホームページ（以下）をご覧になるか、裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターまでお問い合わせください。 http://www.dimage.minolta.co.jp/		−

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
画像が記録されていない	異なるフォルダを選択している	日付形式フォルダの設定、画像のコピー、新規フォルダの作成を行なうと複数のフォルダができます。画像が記録されたフォルダを選んでください。	177
	画像の記録中にCFカードを取り出した	アクセスランプ点灯中は、カードを取り出さないでください。	—
撮影した画像の色がおかしい（カメラでの再生時）	画質をRAWに設定して撮影した	RAW画像は液晶モニター等での表示に画像処理を加えていないので、再生時には色が正常になりません。パソコンでは正常な色が再現されます。	101
撮影した画像の色がおかしい（パソコンでの再生時）	モニターの設定が最適でない このカメラで撮影した画像は、sRGBの環境で見たときに最適に再現されるよう設計されています。sRGBで規定されている色温度は約6500K、ガンマ値は2.2です。	色温度の設定 6500Kに設定してください。設定方法はモニターの使用説明書をご覧ください。 ガンマ値の設定 Macintoshの場合は「モニタ調整アシスタント」で2.2にしてください。設定方法はMac OSの使用説明書をご覧ください。Windowsでは標準が2.2なので、変更の必要はありません。	
Errが表示される、またはカメラが正常に作動しない	カメラの電源をOFFにして電池を一度取り出し、入れ直してください。ACアダプター等使用時は、一度コードを抜いてください。温度が上がっているときには、カメラの温度が下がってからこれらの処置を行なってください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店または裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにご相談ください。		

取り扱い上の注意

電池について

- 電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、新品電池を使う、予備の電池を保温しておいて交互に使う、などに留意してご使用ください。
  ニッケル水素電池は低温での性能低下が少ないので、寒冷地ではニッケル水素電池の使用をおすすめします。また、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。
- 長期間使用しないときは電池を抜き取ってください。入れたままにしておくと、液漏れにより電池室を損傷する原因となります。
- アルカリ乾電池の場合は、その特性上、温度や保管のしかたによっては、実際の電池容量よりカメラの電池容量表示が低く表示されることがあります。このような場合でも、カメラをしばらく使用すると電池容量が回復し、正常な電池容量表示が行われます。
- いったん容量切れになった電池はかならず交換してください。容量切れ後、しばらく待って、わずかながら容量が回復した状態で再びカメラの電源を入れると、カメラが正常に作動しない場合があります。

使用温度について

- このカメラの使用温度範囲は0～40℃です。
- 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに放置しないでください。
- カメラに急激な温度変化を与えるとカメラ内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋などに入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度に充分なじませてからカメラを取り出してください。

プリント指定（DPOF）について

- 他のデジタルカメラでDPOF設定したCFカードをこのカメラに入れると、他のカメラでの設定はキャンセルされます。
- 他のDCF対応のデジタルカメラで撮影した画像の入ったCFカードをこのカメラに入れた場合、他のカメラで撮影した画像（他のDCF対応デジタルカメラによって作成されたフォルダ内の画像）に対してはDPOFの設定はできません。

コンパクトフラッシュカード等記録メディアについて

- 下記の場合、記録されたデータが消去（破壊）されることがあります。データの消去については当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。大切なデータは、別のメディア（ハードディスク等）にバックアップを取っておくことをおすすめします。
  1. お客様または第三者がメディアの使い方を誤ったとき
  2. メディアが静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
  3. メディアへのアクセス中（記録中、フォーマット中など）に、カードを取り出したり、機器の電源を切ったとき
  4. 長期間メディアの書き換えがないとき
  5. メディアの耐用回数を超えて書き換えを行ったとき
- メディアをフォーマット（初期化）すると、記録されているデータはすべて消去されます。必要なデータは必ずバックアップを取ってください。
- メディアには寿命がありますので、長期間ご使用になるとデータの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいメディアをお買い求めください。
- 強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください
- 曲げたり落としたり、強い衝撃や高熱を与えないでください。
- 強い静電気や強い衝撃によって記録メディアが破壊され、データの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいメディアをお買い求めください。
- 端子部に手や金属で触れないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けて使用および保管してください。

マイクロドライブについて

- マイクロドライブはその特性上、コンパクトフラッシュカードと比べて衝撃や振動にそれほど強くありません。マイクロドライブをお使いの場合、特に記録中や再生中は、カメラに衝撃や振動を与えないようご注意ください。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは精密度の高い技術でつくられていますが、極めてわずかながら画素欠けや常時点灯するものがあります。
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒いところで使うと、始めは画面が通常より少し暗くなります。カメラ本体内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
- 液晶モニターに指紋等が付着して汚れたときは、乾いた柔らかい布で、傷などがつかないよう軽くふいてください。

その他

- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- バッグなどに入れて持ち運ぶときは、カメラの電源を切ってください。
- このカメラは防水設計にはなっていません。濡れた手で電池やコンパクトフラッシュカードの出し入れや、カメラの操作をしないでください。
  海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 直接太陽を撮影したり、直射日光の当たる場所に放置しないでください。CCD（撮像素子）の性能を損なうことがあります。
- お客様がデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合があります。なお、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する場合以外はご利用いただけません。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

● カメラの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
● レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
● シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
● レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

● 涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒にいれるとより安全です。
● 長期間使用しないときは、カメラから電池やカードを取り出してください。
● 防虫剤の入ったタンスなどに保管しないでください。
● 保管中も時々電源を入れて、シャッターを切るようにしてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

● 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また予備の電池を携帯することをおすすめします。
● 万一このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

● 本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。
● 本製品および充電器の修理に関しては、お買い上げいただいた販売店にお問い合わせいただくか、修理依頼品を「アフターサービスのご案内」に記載のサービスセンター・サービスステーションにお持ち込みください。

主な性能

形式	フラッシュ内蔵AE/AFレンズ一体型一眼レフタイプデジタルカメラ
有効画素数	495万画素（2568×1928）
撮像素子	2/3型総画素524万画素インターラインCCD、原色フィルター付き
撮像感度	AUTO、ISO 100、200、400、800相当
レンズ構成	13群16枚
焦点距離	7.2〜50.8mm（35mmフィルム換算：28〜200mm相当）
開放絞り値	F2.8〜F3.5
絞り設定範囲	広角：F2.8〜F8、望遠：F3.5〜F9.5、1/2Evステップ
撮影距離	0.5m〜∞（CCD面から） マクロ時：ワイド端：30〜60cm（CCD面から）、テレ端：25〜60cm（CCD面から） 最大撮影倍率：0.177（35mmフィルム換算で0.7倍相当） 最大撮影倍率時の被写体サイズ：約50×37mm ワイドマクロ時の被写体サイズ：約283×213mm
ズーム方式	手動ズーム
フィルター径	49mm
フォーカス方式	映像AF方式
フォーカスモード	AF：ワンショットAF、コンティニュアスAF MF：可能、電子マグニファイヤー（拡大率4倍）機能付き
ホワイトバランス	オート、昼光、白熱灯、蛍光灯、曇天、カスタム
測光方式	多分割測光（300分割）、中央重点的平均測光、スポット測光
露出制御範囲	P/Aモード：広角：Ev1〜18、望遠：Ev1.6〜18.5 S/Mモード：広角：Ev1〜17、望遠：Ev1.6〜17.7
シャッター	CCD電子シャッターと電子制御メカニカルシャッター併用　シャッター速度：BULB（最長30秒）、4〜1/4000秒（S、Mモードは1/2000秒）
露出モード	P（プログラムシフト可能）、A、S、M
デジタル撮影シーンセレクター	ポートレート、スポーツ、夕景、夜景ポートレート・夜景、テキスト
デジタルエフェクトコントロール	露出、彩度、コントラスト補正、フィルター効果が選択可能
露出補正	±2Ev（1/3Evステップ）
フラッシュ制御方式	ADI調光、P-TTL調光、マニュアル発光　フラッシュ同調速度：全速
フラッシュモード	通常発光、赤目軽減発光、後幕シンクロ、ワイヤレスフラッシュ
内蔵フラッシュガイドナンバー	約8（大）、約4（中）、約2（小）（ISO 100、m）
内蔵フラッシュ連動距離	広角：約0.5〜3.8m、望遠：約0.5〜3m（CCD位置より、撮影感度オート時）
内蔵フラッシュ充電時間	約7秒
調光補正	±2Ev（1/3Evステップ）

主な性能

ファインダー形式	TTL電子ビューファインダー（EVF）、チルト可能（0〜90°） モニター自動感度アップ機能、電子マグニファイヤー機能
ファインダー画像表示液晶	4.8mm（0.19型）反射型強誘電性液晶マイクロディスプレイ 総画素：22万画素相当
ファインダー視野率	約100％
アイポイント	20mm（最終光学面より）、17.5mm（接眼枠より）
ファインダー倍率	0.31〜2.1倍
視度調整	あり　−5〜＋0.5ディオプター
表示切り替え機能	AUTO、EVF、液晶モニター切り替え可能
A/D変換bit数	12 bit
記録媒体	CFカード（TYPE Ⅰ、TYPE Ⅱ）　マイクロドライブ（170MB、340MB、512MB、1GB）
記録画像ファイルフォーマット	JPEG、TIFF、Motion JPEG（MOV）、RAW DCF 1.0準拠　DPOF（Ver.1.1）のプリント機能に対応
Exif Print	対応
PIM（PRINT Image Matching）	対応
記録画素数	2560×1920、1600×1200、1280×960、640×480 動画：640×480、320×240
画質モード	エコノミー（ECON.）、スタンダード（STD.）、ファイン（FINE）、スーパーファイン（S.FIN）、RAW
カラーモード	標準カラー、ビビッドカラー、モノクロ、ソラリゼーション
シャープネス	ソフト、標準、ハード
Exif Tag情報	撮影年月日時刻、撮影条件（露出モード、シャッター速度、絞り値、露出補正値、測光方式、フラッシュ発光の有無、撮像感度、ホワイトバランス、焦点距離等）、色空間情報
消去機能	あり（1コマ／全コマ／指定コマ）　クイックビュー（撮影モード）時の消去可能 誤消去防止機能：あり（1コマ／全コマ／指定コマ）
フォーマット機能	あり
データ写し込み機能	なし、年月日、月日時刻、文字（英数字・記号、最大16文字、カタカナ・欧文字対応）、文字＋通し番号（合計最大16文字）
液晶モニター	46mm（1.8型）低温ポリシリコンTFTカラー　モニター画素数：11.8万画素　視野率：約100％
連続撮影	最速2コマ／秒 ウルトラハイスピード（UHS）連続撮影：約7コマ／秒（画像サイズ1280×960）
	連続撮影速度は撮影条件による　スーパーファインとRAWは連続撮影不可
セルフタイマー	約10秒
デジタルエフェクトブラケット	露出、コントラスト、彩度、フィルター効果 露出ずらし量：1.0Ev、0.5Ev、0.3Ev選択可 コントラスト、彩度、フィルター効果ずらし量：一定 枚数：3枚
インターバル撮影	間隔：1〜10、15、20、30、45、60分　枚数：2〜99枚
動画	通常動画、ナイトムービー（共に最大60秒）、ウルトラハイスピード（UHS）連続撮影動画、インターバル動画 記録画素数（1フレームあたり）：通常動画：320×240　UHS連続撮影動画：640×480　インターバル動画：任意 フレームレート：15フレーム／秒（通常動画、ナイトムービー）、約7フレーム／秒（UHS連続撮影動画）、4フレーム／秒（インターバル動画） 音声：通常動画：あり（モノラル）／なし　UHS連続撮影動画：あり（モノラル）　インターバル動画：なし
音声	ボイスメモ（5秒または15秒）　ファイル形式：WAVE　モノラル
デジタルズーム	2倍
操作音	各操作時、レリーズ時シャッター音
使用電池	単3形　4本（ニッケル水素、アルカリ）　ニッケル水素電池の使用を推奨
外部電源	DC 6V（ACアダプター使用時）
連続動作時間	連続再生：約110分　当社試験条件による（液晶モニターのみ、ニッケル水素電池（1700mAh）使用）
撮影可能コマ数	約200コマ　当社試験条件による（EVFのみ、ニッケル水素電池（1700mAh）使用、画像サイズ2560×1920、画質STD、アフタービューなし、ボイスメモなし、フラッシュ使用50％）
モデム通信	可能　電送インターフェース：CFモデムカード（一般回線用：TDK DF56CF）、CF型PHS（NTT DoCoMo P-in Comp@ct、P-in M@ster）
PC用インターフェース	USB1.1
AV出力	NTSC／PAL切り替え可
大きさ	117（幅）× 90.5（高さ）× 112.5（奥行き）mm
質量（重さ）	約525g（電池、CFカード別）

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

索引

た行

な行

は行

ま行

や行

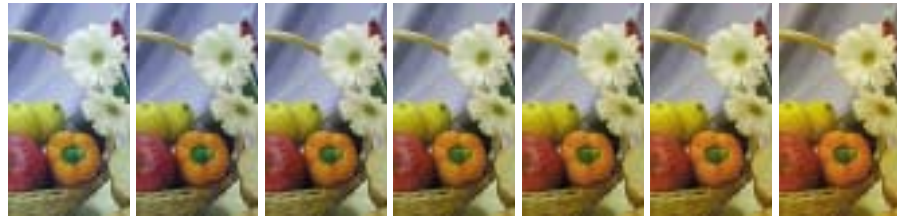
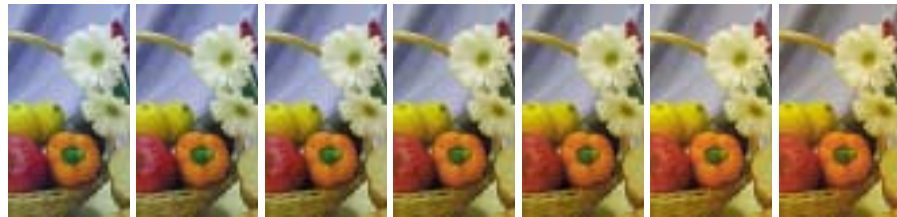
ら行

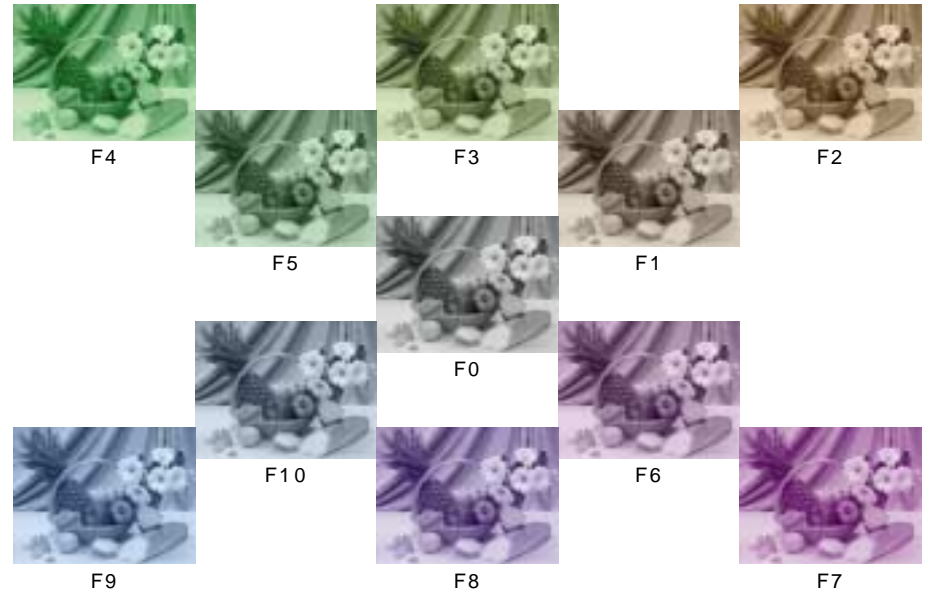
わ行

カラーモードとフィルター効果

標準カラーとビビッドカラーでのフィルター効果

画面に赤や青の色フィルターをかけたような効果を出します。→P.86

標準カラーの場合

ビビッドカラーの場合

モノクロでのフィルター効果

モノクロ画像の色調が調整され、セピア色の画像などを得ることができます。→P.120

ソラリゼーション

極端に明るい部分の色が補色
(反対の色彩)に反転されます。
→P.121

ソラリゼーション

標準カラー

ミノルタ株式会社
ミノルタ販売株式会社

フォトサポートセンター

弊社製品のカメラ、交換レンズ、デジタルカメラ、フィルムスキャナ、露出計など写真や画像に関わる製品の機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル　0570-007111
ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL　　03-5351-9410
携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX　　03-3356-6303

受付時間　10:00～18:00（土・日・祝日定休）

ホームページでもデジタル製品に関する情報を提供しております。　http://www.dimage.minolta.co.jp/

9223-2779-61　MM-B206
Printed in Malaysia